

刑法講義卷之二目次

第二編 公益ニ關スル重罪輕罪

第一章 皇室ニ對スル罪

第二章 國事ニ關スル罪

第一節 内亂ニ關スル罪

第二節 外患ニ關スル罪

第三章 靜謐ヲ害スル罪

第一節 兇徒聚衆ノ罪

第二節 官吏ノ職務ヲ行フヲ妨害スル罪

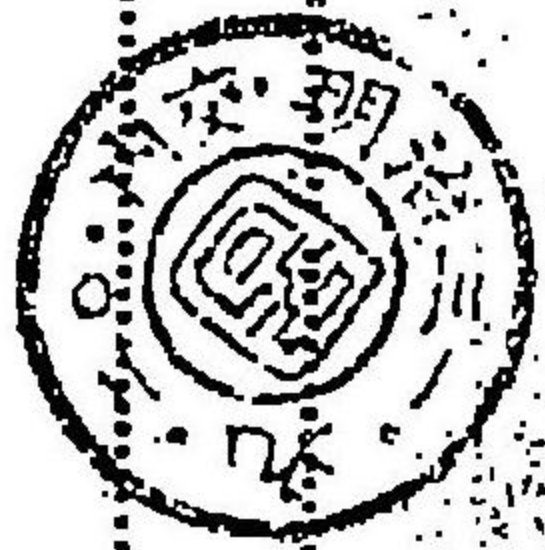
第三節 囚徒逃走ノ罪及ヒ罪人ヲ藏匿スル罪

第四節 附加刑ノ執行ヲ遁ルノ罪

第五節 私ニ軍用ノ銃砲彈藥ヲ製造シ及ヒ所有スル罪

第六節 往來通信ヲ妨害スル罪

目次



六

全

二〇

二五

四三

六一

全

六九

八五

一三四

一三六

一三四

一

第七節	人ノ住所ヲ侵ス罪	一四六
第八節	官ノ封印ヲ破棄スル罪	一五九
第九節	公務ヲ行フヲ拒ム罪	一六一
第四章	信用ヲ害スル罪	一七〇
第一節	貨幣ヲ偽造スル罪	一七五
第二節	官印ヲ偽造スル罪	二一〇
第三節	官ノ文書ヲ偽造スル罪	二二一
第四節	私印私書ヲ偽造スル罪	二六二
第五節	免狀鑑札及ヒ疾病證書ヲ偽造スル罪	二七五
第六節	偽證ノ罪	二八三
第七節	度量衡ヲ偽造スル罪	三二〇
第八節	身分ヲ詐稱スル罪	三二八
第九節	公選ノ投票ヲ偽造スル罪	三三二
第五章	健康ヲ害スル罪	三三六

第一節	阿片烟ニ關スル罪	全
第二節	飲料ノ淨水ヲ汚穢スル罪	三四〇
第三節	傳染病豫防規則ニ關スル罪	三四四
第四節	危害品及ヒ健康ヲ害ス可キ物品製造ノ規則ニ關スル罪	三四七
第五節	健康ヲ害ス可キ飲食物及ヒ藥劑ヲ販賣スル罪	三五二
第六節	私ニ醫業ヲ爲ス罪	三五四
第六章	風俗ヲ害スル罪	三五六
第七章	死屍ヲ毀棄シ及ヒ墳墓ヲ發掘スル罪	三七〇
第八章	商業及ヒ農工ノ業ヲ妨害スル罪	三七四
第九章	官吏濫職ノ罪	三八二
第一節	官吏公益ヲ害スル罪	全
第二節	官吏人民ニ對スル罪	三八五

目次

第三節 官吏財産ニ對スル罪.....四〇三

第三編 身體財産ニ對スル重罪輕罪.....四〇六

第一章 身體ニ對スル罪.....全

第一節 謀殺故殺ノ罪.....全

第二節 毆打創傷罪.....四二一

第三節 殺傷ニ關スル宥恕及ヒ不論罪.....四三五

第四節 過失殺傷ノ罪.....四六〇

第五節 自殺ニ關スル罪.....四六三

第六節 擅ニ人ヲ逮捕監禁スル罪.....四六八

第七節 脅迫ノ罪.....四七三

第八節 墮胎ノ罪.....四七七

第九節 幼者又ハ老疾者ヲ遺棄スル罪.....四八四

第十節 幼者ヲ畧取誘拐スル罪.....四九三

第十一節 猥褻姦淫重婚ノ罪.....五〇二

第十二節 誣告及ヒ誹毀ノ罪.....五一四

第十三節 祖父母父母ニ對スル罪.....五二五

第二章 財産ニ對スル罪.....五三五

第一節 竊盜ノ罪.....五三六

第二節 強盜ノ罪.....五六一

第三節 遺失物埋藏物ニ關スル罪.....五七二

第四節 家資分散ニ關スル罪.....五八三

第五節 詐欺取財ノ罪及ヒ受寄物ニ關スル罪.....五八九

第六節 贓物ニ關スル罪.....六一五

第七節 放火失火ノ罪.....六一九

第八節 決水ノ罪.....六三二

第九節 船舶ヲ覆没スル罪.....六三五

第十節 家屋物品ヲ毀壞シ及ヒ動植物ヲ害スル罪.....六三八

第四編 違警罪.....六四六

刑法講義卷之二

法律學士 龜山貞義 講述



前卷ニ於テ已ニ犯罪及ヒ刑罰ニ關スル一般ノ規定ヲ汎論シタルヲ以テ是ヨリ
 法律ハ如何ナル所爲ヲ犯罪トシ如何ナル刑罰ヲ科スル乎其各箇ニ付キ一々説
 明ヲ下サントス
 茲ニ第三編以下各條ニ入ルニ先チ立法上如何ニ犯罪ヲ區分ス可キ乎ニ付キ一
 言ヲ費スモ亦無益ノ業ニ非サル可シ蓋シ犯罪ヲ區分スルニ二様ノ方法アリ一
 ハ輕重ニ因テ區分シ其度ノ同シキモノヲ一切聚合列記スルモノニシテ例ヘハ
 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ死刑ニ處ス、一、天皇三后皇太子ニ對シ危害ヲ加ヘ又ハ
 加ヘンシタル者ニ皇族ニ對シ危害ヲ加ヘタル者三内亂ヲ起シタル首魁及ヒ
 教唆者ト云ヘルカ如ク總テ死刑ニ該當ス可キ犯罪ヲ列記シ其次條ニ於テモ亦
 此例ニ倣ヒ無期徒刑ニ該當ス可キ犯罪ヲ列記スルカ如シ一ハ犯罪ノ性質ニ因
 テ區分シ其異同ニ從ヒ彼此相分類スルモノニシテ例ヘハ人ノ身體ニ對スル犯

罪ハ總テ之ヲ一所ニ聚合シ財産ニ對スル犯罪モ亦之ト同シク一所ニ聚合スルカ如シ

刑

法

右第一ノ方法ニ依レハ犯罪ノ輕重刑罰ノ權衡ハ一目ノ下容易ニ之ヲ知ルノ便アリト雖モ云々ノ所爲ハ法律之ヲ罰スル乎之ヲ罰スルトセハ如何ナル犯罪ニ處スル乎ヲ知ラントスルニハ勢ヒ各法條ノ全部ヲ閱讀セサル可カラス熟練ナル法官猶ホ適用ス可キ條項ノ搜索ニ時間ヲ費サ、ルヲ得サル等ノ不便アルヲ免カレス之ニ反シ第二ノ方法ニ依レハ決シテ是等ノ不便ヲ感セサルノミナラス同一性質ノ犯罪相互ノ間ニ於ケル輕重及ヒ刑罰ノ權衡如何ヲ知ルニ難カラズ唯異性質ノ犯罪トノ關係ニ付テハ之ヲ知ルコト第一ノ方法ノ容易ナルニ若カサルモ而カモ大困難アルニ非ス故ニ諸國ノ法大概第二ノ方法ニ依ルモ違警罪ニ至リテハ第一ノ方法ヲ用ニルモノ亦妙カラズ我法律ハ便チ此例ニ倣ヒタリ

刑

法

メ利害ノ及フ所單ニ一箇人ニ止マルモノヲ私罪トシ被害者獨リ其公訴提起ノ權ヲ有スルモノトセリ此公罪私罪ノ區別ハ今仍ホ諸國ノ刑法之ヲ襲用スルモノアリ佛刑法カ其第三編ニ於テ公事ニ關スル罪ト人民ニ對スル罪トノ二章ヲ設ケ國家ノ安寧ニ對スル罪憲法ニ對スル罪公ノ靜謐ニ對スル罪ヲ第一章ニ規定シ身體ニ對スル罪財産ニ對スル罪ヲ第二章ニ規定シタルカ如キ是ナリ我法律ハ第二編ニ於テ公益ニ關スル重罪輕罪第三編ニ於テ身體財産ニ對スル重罪輕罪ヲ規定シ而シテ第四編ニ於テ違警罪ヲ規定シタリ是レ隱然羅馬法ノ區別ヲ襲用シタルモノナリ蓋シ犯罪ニハ直接ニ國家又ハ社會ヲ害スルモノト直接ニ一箇人ヲ害シ間接ニ害ヲ國家又ハ社會ニ及ホスモノトアルヲ以テ一ヲ公罪トシ一ヲ私罪トスルモ亦敢テ不可ナルコトナキニ似タリ然レトモ百般ノ犯罪ニ付キ常ニ此區別ヲ立テントスルヨリ往々齟齬牴觸ヲ生スルヲ免カレス例ハ僞證ノ罪ト誣告ノ罪トハ其方法ニ差アルモ共ニ裁判ヲ誤ラシムルノ結果ヲ生ス可キモノニシテ其性質ハ殆ト相同シ然ルニ一ハ公益ニ關スル罪ノ中ニ列シ一ハ身體ニ對スル罪ニ過キスト爲ス若シ誣告ハ直接ニ被告人ヲ害シ間

刑

法

接ニ國家又ハ社會ヲ害スルモノナリト言ハ、偽證ニ付テモ亦同シク直接ノ害
 ハ被告人ニ及フニ過キスト言フコトヲ得ヘシ又人ノ權利中生命身體ニ關スル
 モノハ重ク住所ニ關スルモノハ輕カル可キ筈ナルニ住所ヲ侵ス罪ヲ以テ公罪
 ト爲シ殺傷等ノ罪ハ之ヲ私罪中ニ列ス是等果シテ相當ノ理由アル乎余未タ之
 ヲ發見セサルナリ

ベンサムハ犯罪ハ公罪半公罪私罪ノ三者ニ區別シタルモ所謂ル半公罪トハ町
 村其他ノ團體ニ關スル罪ニシテ被害者カ公罪私罪ニ於ケルト少シク異ナル爲
 ヌ特ニ此罪目ヲ設ケタルニ止マリ此區別モ亦適當ナリト謂ヒ難シヤル、リ、
 カハ犯罪ノ物體ニ依テ區別シ身體ニ對スル罪物體ニ對スル罪及ヒ混合ノ罪ト
 シ同時ニ身體物體ニ害ヲ及ホス可キモノハ此混合ノ罪ノ中ニ列セリ即チ政事
 犯モ強盜モ放火モ皆混合ノ罪ト爲スカ故ニ此區別ニ付テノ利益ヲ見サルナリ
 又ロッシハ人ニ對スル罪社會ノ成立ニ對スル罪私有財產ニ對スル罪公有財產ニ
 對スル罪ノ四者ニ區別シタルモ公有財產ニ對スル罪モ私有財產ニ對スル罪モ
 其罪質ニ大差ナク且ツ貨幣偽造ノ罪ヲ公有財產ニ對スル罪ノ一種ト爲シタル

刑

法

ハ解ス可カラストノ非難アリ要スルニ此區別モ其當ヲ得タルモノニ非サルナ
 リ

歐洲諸國近時ノ法律ハ羅馬法ノ區別ハ勿論學者ノ設ケタル區別モ亦採ルニ足
 ラサルモノトシ別ニ之カ區別ヲ立ツルニ至レリ白國法ハ國ノ安寧ニ對スル罪
 國憲ニ對スル罪、公ノ信用ニ關スル罪、官吏敎職公ノ秩序ニ對スル罪、常人公ノ秩
 序ニ對スル罪、公ノ靜鑑ニ對スル罪、親屬間ノ秩序及ヒ一般ノ風教ニ對スル罪、身
 體ニ對スル罪、財產ニ對スル罪及ヒ違警罪ノ十種ニ區別シ伊國法ハ國ノ安寧ニ
 對スル罪、自由ヲ害スル罪、一般ノ行政ニ對スル罪、司法管理ヲ害スル罪、公ニ秩序
 ヲ害スル罪、一般ノ信用ヲ害スル罪、公ノ安全ヲ害スル罪、善良ノ風俗及ヒ親屬間
 ノ秩序ヲ害スル罪、身體ニ對スル罪、財產ニ對スル罪及ヒ違警罪ノ十一種ト爲シ
 タリ是レ略白國法ニ同シキモノナリ匈牙利法カ重罪輕罪ヲ四十二種ニ違輕罪
 ヲ十種ニ區別シタルカ如キハ犯罪ヲ大別スルノ必要ナシト認メタルニ由ルナ
 ラント雖モ余ハ寧ロ白伊二國法ノ如ク其性質ノ相同シキモノハ成ル可ク一所
 ニ聚合規定スルヲ以テ其當ヲ得タルモノト爲ス他ナシ此方法ニ依レハ各犯罪

ニ適用ス可キ規定ヲ各所ニ記載スルノ煩ヲ省クノミナラス法理ノ講究上法文ノ解釋上共ニ便利ヲ得ヘケレハナリ

備第二編以下各條ノ解釋ニ付テハ最モ謹慎ヲ加ヘサル可カラス何トナレハ一所爲カ罪ト爲ルト否ト及ヒ其罪ニ適用ス可キ刑ノ輕重如何ハ解釋ノ如何ニ依ル場合多キニ居レハナリ左レハ第一編ノ例ニ依ラス改メテ逐條講義ノ方法ニ從ヒ一々法文ニ就テ法理ヲ講究シ疑義ヲ解釋シ以テ餘蘊ナカラシムコトヲ期ス但輕罪ノ刑ニ處スル者ハ監視ニ付ストノ規定ノ如キハ初見ノ法條第百二條ニ付テノミ説明シ以下總テ之ヲ略ス此他説明ノ要ナキモノ亦此例ニ同シト知ル可シ

刑 法

第二編 公益ニ關スル重罪輕罪

第一章 皇室ニ對スル罪

本章ハ天皇三后皇太子其他皇族ノ御生命御身體御自由及ヒ御名譽ニ對スル重罪輕罪ヲ規定シタルモノニシテ其御財產ニ對スル罪ニ及ハス蓋シ御生命等ニ對スル罪ハ其害常人ノ生命等ニ對スルモノヨリ重キコト數等ナルモ其御財產

刑 法

ニ對スル罪ニ至リテハ常人ノ財產ニ對スルモノト殆ト異ナル所ナク隨テ重刑ヲ用ユルノ必要ナシト認メタルモノナラン然レトモ火ヲ宮城ニ放ツカ如キ既遂犯ナレハ死刑ニ處スルコトヲ得ルモ未遂犯ナレハ減等セサルヲ得サルノ不都合アリ又三種ノ神器ヲ毀壞シ若クハ汚瀆スルカ如キ一ハ輕罪ノ刑ニ止メ一ハ無罪トセサルヲ得ス是レ亦實ニ不都合ナリト謂ハサル可カラス思フニ御料中山林田野等アリ其產物ヲ盜取スル者アルモ爲メニ皇室ヲ危フスルコトナキハ勿論犯人ノ意思亦皇室ニ反抗スルニ在ラスシテ唯自己ノ私慾ヲ遂ケントスルニ過キサルモノナレハ是等ハ普通ノ罪ニ問フ可キモ前例ノ如キハ害大ニシテ犯人ノ意思亦甚タ惡ム可キモノナレハ特ニ其罪刑ヲ重クスルヲ要ス然ルニ本法一概ニ普通ノ罪ニ問フニ止ム立法者疎漏ノ責ヲ辭スルコト能ハサル可シ

皇室ニ對スル罪ヲ規定スルニ付テハ世間異論ナキニ非ス曰ク我臣民トシテ萬世一系ノ皇室ニ對シ奉リ罪ヲ犯ス者アル可キ筈ナシ法律之ヲ規定スルハ臣民不忠不義ノ徒アラシムコトヲ豫想シタルモノニシテ皇室ノ尊嚴ヲ傷クルノ恐アリ舊律ハ乃チ一モ明文ヲ置カス宜ク之ニ倣フヘシト然リ此大罪ヲ犯ス者恐ク

刑

ハ之ナカル可キモ千萬年ノ久シキ絶ヘテ此大罪ヲ生セサルヲ期シ難シ之ヲ既
 往ノ歴史ニ徴スルニ亂臣賊子時ニ之ナキニ非ス蘇我馬子アリ北條義時アリ政
 體ノ異ナル今日以後ト雖モ亦是等ノ徒アリ至尊ヲ脅迫シ奉ル等ノ事ナシト斷
 定スルヲ得ス殊ニ外國人ノ來住スル者其數ヲ増スニ從ヒ其中ニハ皇室ニ對シ
 奉リ如何ナル所爲ヲ行フ者ヲ生スルモ知ル可カラス萬一之アランカ法律ニ正
 條ナキモノハ何等ノ所爲ト雖モ之ヲ罰セストノ明文ニ依リ或ハ常人ニ對スル
 罪トシテ罰スルカ或ハ不問ニ置カサルヲ得サルニ至ラン是レ皇室ヲ重ンスル
 所以ニ非サルナリ且ツ大寶律中賊盜律第一條ニモ凡謀反及大逆者皆斬云々ト
 ノ明文ヲ置キタリ本法カ本章ヲ以テ此大罪ヲ明定シタルハ亦已ムヲ得サルニ
 出テタルモノニシテ決シテ非難ス可キモノニ非サルナリ
 然レトモ皇室ニ對スル各種ノ罪ニ付キ一々明文ヲ設ケントセハ事不敬ニ涉リ
 臣民タル者ノ能ク忍フ所ニ非ス是ニ於テ乎故ラニ法文ヲ明確ニセス立法者ノ
 苦心以テ察ス可キナリ余カ本章ヲ講スルニ付テモ亦勉メテ忌諱ニ觸ルハコト
 ヲ避ケントス讀者請フ諸ヲ諒セヨ

法

第一百十六條 天皇ニ后皇太子ニ對シ危害ヲ加ヘ又ハ加ヘントシタル者ハ死刑ニ處ス
 本條ニ天皇トアルハ現ニ此帝國ヲ統御シ給ヘル上御一人ヲ指シ奉ル攝政アル
 場合亦同シ

刑

三后トハ太皇太后皇太后皇后ハ御三方ニシテ皇太子トハ皇位ノ儲嗣タル皇子
 ニシテ詔書ヲ以テ公布セラレタル御方ナリ三后皇太子ハ固ヨリ主權者ニ非ス
 一般臣民ト同シク天皇大權ノ下ニ立タセ給フ者ナルモ一ハ御尊族親タリ一ハ
 御配偶者タリ一ハ御相續人ナレハ一般臣民ノ之ヲ尊敬シ奉ルコト天皇ニ於ケ
 ルト殆ト異ナル所ナカル可シ是レ天皇ト一列ニ規定シタル所以ナリ且ツ國法
 上其間ニ區別ヲ置カサル可カラサルモノトスルモ是等ノ御方々ニ對シ危害ヲ
 加ヘ又ハ加ヘントシタル者ハ極刑以テ之ニ臨マサル可カラス然ルニ死刑ノ外
 重キ刑ナキヲ以テ其天皇ニ對シ奉ル場合モ是等ノ御方々ニ對シ奉ル場合モ等
 シク死刑ニ處セサルヲ得ス左レハ同一條ヲ以テ之カ規定ヲ爲シタルハ立法上
 其當ヲ得タルモノト謂ハサル可カラス
 天皇ノ名稱中ニ太上天皇ヲ包含スル乎ノ疑問ハ今日以後研究スルノ必要ナシ

法

何トナレハ皇室典範第十條ニ天皇崩スルトキハ皇嗣即チ踐祚シ祖宗ノ神器ヲ承クトアリテ全ク古制ニ復シ天皇御生前ニ天位ヲ降ラセラル、コトナキノ意ヲ示サレ隨テ今後太上天皇ト稱シ奉ル可キ者ナカル可ケレハナリ

刑

法

危害ヲ加ヘトハ其意義明確ナラス然レトモ御生命ハ勿論御身體御自由ヲ侵シ奉ルノ所爲一トシテ危害ヲ加フルニ非サルコトナケレハ本法第二編第一章ニ記載シタル罪ハ大概此語中ニ包含セラル、モノト解釋セサル可カラス但誹毀ノ如キ專ラ名譽ニ關スル罪ハ皇室ニ對シ奉ル場合ハ次條ノ不敬罪ト爲ル可キヲ以テ之ヲ除ク可キヤ勿論ナリ又本條ノ罪ト雖モ總則ニ從ヒ犯意アルヲ必要トスルカ故ニ過失殺傷ノ罪ハ亦本條ニ包含セサルモノト解釋セサルヲ得ス是レ甚タ不都合ナルモ現行法ニ於テハ已ムヲ得サル所ナリトス
又第二編第一章以外ニ記載シタル罪ハ勿論本法及ヒ他ノ法律ニ於テ罪ト爲サ、ルモノト雖モ其所爲ノ性質危害ヲ加ヘ奉ルモノナルトキハ仍ホ本條ニ依テ處斷ス可シ法律ハ其所爲カ常人ニ對シテ罪ト爲ル可キコトヲ必要トセサレハナリ

刑

法

危害ヲ加ヘントシタルノ語亦其意義甚タ不明確ナリ甲者ハ曰ク此語ハ第一百二條ニ罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者トアルト其文體ヲ同シフス故ニ本條ハ未遂犯以上ヲ罰スルノ意ニシテ陰謀豫備ハ此語中ニ包含セサルモノト解釋ス可シ若シ陰謀豫備ヲ罰セントナラハ内亂ニ關スル罪ニ於ケルカ如ク其旨ヲ明言ス可キ筈ナリ之ヲ明言スルヲ憚カル可キ理由ナシト乙者ハ曰ク第一百二條ニハ罪ヲ犯サントシテ已ニ其事ヲ行フト雖モ云々トアルニ依レハ罪ヲ犯サントシテ已ニ其事ヲ行フト未タ其事ヲ行ハサルト二者アルコト知ル可シ而シテ未タ其事ヲ行ハス即チ着手セサルモノハ豫備陰謀ニシテ已ニ其事ヲ行ヒ即チ着手シタルモノ始メテ未遂犯ト爲ル可シ本條ハ單ニ危害ヲ加ヘントシト云フニ止マリ他ノ條件ヲ附セサルヲ以テ觀レハ已ニ其事ニ着手シタルト未タ着手セザルトヲ區別セス即チ未遂犯ノ域ニ達シタルト陰謀豫備ニ止マルトヲ問ハス等シク之ヲ罰スルノ意ナルコト自ラ明白ナリ若シ甲說ノ如クナラハ危害ノ小ナル罪モ未遂犯ノ域ニ達スルトキハ死刑ニ當リ危害ノ大ナルモノモ其域ヲ去ルコト僅々一步ナルトキハ罪ナシト爲スカ如キ不權衡ヲ生ス可シト余

ハ乙説ヲ以テ其當ヲ得タルモノト確信ス今三后皇太子ニ對シ奉ル場合ハ姑ク
 舍テ論セス天皇ニ對シ奉ル場合ニ就テ觀察スルニ苟クモ天皇タルコトヲ知テ
 危害ヲ加ヘ奉ラントス是レ即チ主權ヲ害セントスルモノナレハ犯人ノ意思政
 事上ニ原因スルト否トヲ問ハス其性質ハ常ニ政事犯タリ而ガモ政事犯ノ最モ
 重キモノナリ然ルニ他ノ政事犯ニ付テハ陰謀豫備ヲ罰スルニ拘ハラス此最モ
 重キ政事犯ニ付テハ陰謀豫備ヲ不問ニ付ス可シトノ理萬々之アルコトナシ且
 ツ又法律ノ意果シテ未遂犯ノ域ニ達シタルモノニ限り之ヲ罰スルニ在ランカ
 其未遂犯ニ係ル者亦同シト明言ス可シ何ヲ苦ンテ不明確ナル加ヘントシタル
 者トノ通語ヲ用ユルコトヲ爲サンヤ未遂犯ノ律語ヲ用ヰスシテ加ヘントシタ
 ルノ通語ヲ用ユ是レ普通ノ意義ニ解釋セシメントノ旨趣ナルヤ疑ヲ容レス蓋
 シ普通ニ云々セントシト言フハ云々セント欲シト言フト同シク已ニ其事ヲ行
 ハントノ決意ヲ爲シタルヨリ其事ニ著手スルマテヲ包含ス否寧ロ決意若クハ
 計畫中ニ係ル場合ニ付テ此語ヲ用ユルヲ通例トス是レ余カ乙説ヲ可トスル所
 以ナリ

刑

法

2

然ラハ則チ彼ノ羅馬法ニ於ケルカ如ク犯罪ノ意思ヲ外部ニ表白シタルモノハ
 文書言語ニ發スルト夢中ノ譴語タルトヲ問ハス總テ之ヲ罰ス可キ乎曰ク否總
 則第百十一條ニ罪ヲ犯サンコトヲ謀リ又ハ其豫備ヲ爲スト雖モ未タ其事ヲ行ハ
 サル者ハ本條別ニ刑名ヲ記載スルニ非サレハ其刑ヲ科セストアリテ何等ノ罪
 ト雖モ實行着手以前ノ所爲ハ決シテ之ヲ罰セサルノ原則ヲ設ケ而シテ例外ト
 シテ陰謀豫備ヲ罰スルニハ特別ノ明文アルコトヲ必要トセリ本條ハ即チ例外
 ノ場合ナレハ陰謀豫備ニ進ミタル場合ニ之ヲ適用ス可キハ勿論ナルモ未タ此
 域ニ達セサル場合ニマテ之ヲ適用セントスルハ全ク總則ヲ破壞シ更ニ例外ノ
 區域ヲ擴張スルモノニシテ立法者ニ非サレハ爲シ得ヘカラサル所ナリトス左
 レハ犯罪ノ念ヲ爲シ其意思ヲ外部ニ表白シタルモ未タ陰謀ト稱スル域ニ達セ
 サルモノハ不問ニ置カサル可カラス而シテ陰謀トハ佛語之ヲコンプロト云ヒ
 二人以上ノ共謀ヲ意味ス本法ノ起草者其佛文章按ニ於テ亦此語ヲ用ヰタルニ
 依レハ本法ノ意モ亦二人以上共謀スルニ非サレハ罰セサルニ在リト解釋スル
 ヲ穩當ナリトス或ハ曰ク舊律ニモ謀ト稱スルハ二人以上ナルヲ要スルモ謀狀

刑

法

顯然タルトキハ一人ト雖モ亦同シトノ規定ヲ爲シ而シテ本法モ謀殺ニ付テハ
 二人以上ノ共謀ニ出ルコトヲ要セス左レハ本條ノ犯罪ノ如キ重大ナルモノニ
 付テハ未タ他人ニ謀議スルニ至ラサルモ已ニ其決意ヲ爲シタル上ハ之ヲ罰ス
 ルモ可ナリト此言一理ナキニ非ス然レトモ第一編ニ於テ汎論シタル如ク法律
 ハ個人ノ心裏ニマテ立入り之ニ干涉ス可キニ非サルヲ以テ他人ト共謀スル等
 外部ニ顯ハル、有形的ノ所爲アラサル限ハ之ヲ不問ニ置クヲ相當ナリトス謀
 殺ノ如キハ殺害ナル有形的ノ所爲アリ始メテ之ヲ罰スルモノニシテ其豫謀ノ
 ミヲ罰スルコトナキカ故ニ本條規定ノ犯罪ニ於ケル陰謀ト同一ニ論ス可カラ
 ス是レ余カ前解釋ヲ以テ穩當ト爲シ又已ムヲ得スト爲ス所以ナリ

第百十七條 天皇三后皇太子ニ對シ不敬ノ所爲アル者ハ三月以上五年以下ノ重禁錮ニ處
 シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

皇陵ニ對シ不敬ノ所爲アル者亦同シ

本條ハ天皇三后皇太子ニ對スル不敬ノ罪ヲ定メタリ抑不敬ノ所爲トハ其意義
 甚タ廣大ナルヲ以テ或ハ官吏故ナク朝參ヲ闕キ或ハ車駕御通過ノ際敬禮ヲ表

刑

法

セサルカ如キ皆之ヲ包含スルカ如シ然レトモ立法者ハ此ノ如キ瑣細ノ事マテ
 一々制裁ヲ加ヘント欲シタルニ非サル可シ今本法ノ全體ニ就テ觀察スルニ官
 吏ニ對シテハ侮辱ノ罪アリ常人ニ對シテハ誹毀罵詈嘲弄ノ罪アリ孰レモ其名
 譽ヲ毀損シ耻辱ヲ與フルノ所爲アリテ始メテ其罪成立ス本條不敬ノ罪モ亦是
 等ノ罪ト其性質ヲ同シスルカ故ニ御名譽ヲ毀損シ御耻辱ヲ與ヘ奉ル等皇室
 ノ尊嚴ヲ傷クルノ所爲アルニ非サレハ成立セサルモノト解釋スルヲ穩當ナリ
 トス唯此罪ノ彼ト異ナル所ハ彼ニ在テハ被害者ノ面前ニ於テシ又ハ文書圖書
 ヲ公布スル等ノ條件ヲ要スルモ此ニ在テハ何等ノ條件ヲ要セサル一點即チ是
 ナリ

皇陵ハ天皇御自身サヘモ猶ホ御崇拜アラセ給フ場所ニシテ神聖侵ス可カラサ
 ルモノナリ故ニ發掘汚瀆等不敬ノ所爲アル者ハ仍ホ皇室ニ對スル罪トシテ之
 ヲ罰ス法文單ニ皇陵トアルハ其意狹隘ニ失シ神宮賢所等ヲ包含セス是レ改正
 ヲ要スル一點ナラン

本條ニ付テ一疑問アリ本條ニ天皇トアルハ前條ニ於ケルト同シク現在ノ天皇

刑

ニ限ル乎將々御歴代ノ天皇ヲモ包含スル乎ト云フモノ是ナリ余ハ現在ノ天皇ニ限ルモノト解釋セント欲ス然レトモ或ル學者カ言ヘル如ク御歴代ノ天皇ヲ包含スルモノトセハ歴史家事實ヲ錄スルコトヲ得ス直筆スル者ハ之ヲ罰スルニ至ルノ不都合アリトノ理由ニ基クニ非ス立法者果シテ御歴代ノ天皇ヲモ本條ニ包含セシメントナラハ其事ヲ明記ス可キ筈ナルニ之ヲ明記セサルハ即チ現在ノ天皇ニ限ルノ意ナルコト知ル可シトノ一事ヲ以テ之カ理由ト爲スナリ抑法律上一般ニ人ト稱シ又ハ或ル人ノ身ニ附着スル特別ノ名稱ヲ用井例ハハ官吏又ハ祖父母父母子孫ト稱スルカ如キハ皆現在ノ者即チ權利ノ主體タル者ヲ指スニ止マル天皇三后皇太子又ハ皇族ト稱スルモ亦此普通ノ例ニ依ル可シ殊ニ御歴代ノ天皇ヲモ包含スルモノトセハ皇后皇太子ノ現在シ給ハサル者ニ付テモ亦之ヲ包含スルモノト爲サハル可カラス若シ然ラハ特ニ三后ト稱スルノ必要ナシ何トナレハ皇太后ハ御先代ノ皇后太皇太后ハ御先々代ノ皇后ニシテ皆皇后ノ名稱中ニ包含セラル可ケレハナリ又御歴代ノ天皇ヲモ包含スルモノトセハ本條第二項ノ規定ヲ必要トセス何トナレハ皇陵ニ對スル不敬ノ所爲

法

ハ即チ其皇陵ニ葬リ奉リタル天皇ニ對スル不敬ノ所爲ニ外ナラサレハナリ是等ノ理由アルヲ以テ御歴代ノ天皇以下ハ本條ニ包含セサルモノト解釋スルナリ

刑

然ラハ御歴代ノ天皇ニ對スル不敬ノ所爲ハ一切不問ニ置カサル可カラサル乎曰ク否死者ニ對スル誹毀ハ概シテ其子孫ノ名譽ヲ害スルト同シク御歴代ノ天皇ニ對スル不敬ノ所爲ハ多クハ現在ノ天皇ニ對スル不敬ノ所爲ト爲ル可シ故ニ此場合ニ於テハ本條ヲ適用ス可キヤ勿論ナリトス

第一百八條 皇族ニ對シ危害ヲ加ヘタル者ハ死刑ニ處ス其危害ヲ加ヘントシタル者ハ無期徒刑ニ處ス

第一百九條 皇族ニ對シ不敬ノ所爲アル者ハ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

法

此二條ハ皇族ニ對スル犯罪ヲ定メタリ抑皇族トハ皇室典範ニ依レハ太皇太后皇太后皇后皇太子皇太子妃皇太孫皇太孫妃親王妃親王妃内親王王妃女王ヲ謂フ而シテ皇子ヨリ皇玄孫ニ至ルマテハ男ヲ親王女ヲ内親王トシ五世以下ハ男

刑 法

ヲ王、女ヲ女王トス皇族女子ノ臣籍ニ嫁シタル者ハ皇族ノ列ニ在ラス但特旨ニ依リ仍ホ内親王女王ノ稱ヲ有セシメラル、コトアルナリ左レハ本條ノ皇族ト稱スルハ固ヨリ右ノ御方々ヲ包含ス可キモ三后皇太子ニ付テハ已ニ前三條ニ規定アルヲ以テ之ヲ除ク可キヤ當然ナリ今立法上ヨリ論スレハ皇太孫ハ皇太子ト同シク天位ノ儲嗣タリ皇室典範ニ儲嗣タル皇子ヲ皇太子トス皇太子在ラサルトキハ儲嗣タル皇孫ヲ皇太孫トストアリ左レハ皇太孫ニ對スル犯罪ハ皇太子ニ對スルモノト同一ニ處罰スルヲ相當ナリトスルモ現行法ノ下ニ於テハ此二條ヲ適用スルノ外ナシ是レ亦改正ヲ要スルモノナラン

皇族ニ對スル犯罪ハ其害稍少ナシ故ニ危害ヲ加ヘ奉リタル場合ヲ除クノ外其刑前二條ノ刑ヨリ輕シ是レ其權衡ヲ得タルモノナリ

第二百十條 此章ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

總則第三十八條ニ於テ輕罪ノ刑ニ附加スル監視ハ之ヲ宣告ス但各本條ニ記載スルノ外監視ニ付スルヲ得ス下規定シタルカ故ニ本條ハ即チ本章ノ犯罪ニ

刑

法

付テハ輕罪ノ刑ニ處スル場合下雖モ監視ニ付スルノ必要アリトシ此明文ヲ設ケタルモノナリ唯コ、ニ注意ス可キハ第十七條第百十九條ノ輕罪ハ勿論第百十六條第百十八條ノ重罪ト雖モ減輕ノ爲メ輕罪ノ刑ニ下リタルトキハ同シク監視ニ付ス可キコト是ナリ

本章ノ講說ヲ終ルニ臨ミ一言附加ス可キコトアリ第三百六十五條ニハ「祖父母父母ニ對シタル殺傷ノ罪ハ特別ノ宥恕及ヒ不論罪ノ例ヲ用フルヲ得ス但其犯ス時知ラサル者ハ此限ニ在ラス」トアリテ祖父母父母如何ニ暴虐ナルモ子孫タル者絶對的服從ノ義務アリ萬一之ニ背キ殺傷スルコトアラハ縱令祖父母父母ニ過アルモ仍ホ通常ノ刑ヲ科スルモノト規定シタリ是レ倫理ヲ重ンスルノ意ニ出テタルモノナリ今臣民タル者ノ皇室ニ對スル關係如何ヲ按スルニ其絶對的服從ノ義務アルコトハ子孫ノ祖父母父母ニ對スルト等シク否寧ロ其上ニ在リト謂ハサル可カラス然ルニ本章ニ於テハ右ノ如キ規定ナキヲ以テ萬々一ノ事アランニハ特別ノ宥恕及ヒ不論罪ノ例ヲ用非サルヲ得ス是レ我國體ヲ損スルモノニ非サルナキ乎又意思ナク辨別ナキ者ハ總則ニ從ヒ不論罪ト爲スハ

相當ナルモ第七十五條第三項ノ無形的強制ニ出ル場合モ亦不論罪ト爲スニ至
リテハ大ニ考慮ヲ要ス可キモノナラン學者宜シク深ク討究スル所アリテ以テ
後ノ立法者ノ參考ニ資スヘキナリ

第二章 國事ニ關スル罪

國事ニ關スル罪トハ世俗ノ所謂ル國事犯ニシテ余ハ之ニ政事犯ノ名稱ヲ付シ
而シテ其常事犯トノ差異并ニ其差異アル可キ理由ヲ第一編第一部ニ説示シタ
ルヲ以テヨ、ニハ唯前ニ漏レタル一二ノ點ヲ補足スルニ止メントス
學者或ハ曰ク政事犯ナルモノハ之ヲ道德法上ヨリ觀察スルニ毫モ罪ト爲ル可
キ性質ヲ有セス唯強者目シテ之ヲ罪ト爲スノミ見ヨ其犯人ニシテ目的ヲ達セ
ンカ畜ニ刑罰ヲ受ケサルノミナラス前政府ニ代リテ政權ヲ掌握ス可シ此時ニ
方リテ誰カ之ヲ目シテ犯人ナリト爲サンヤ否反テ人民ハ其人ヲ仰キ其德ヲ稱
シ好ンテ其命令ニ服従スルニ至ラン殷湯周武ノ事以テ證ト爲スニ足ル畢竟政
治犯ハ黨派ノ争ニ基キ革命ヲ企テタル黨派敗レタルトキ始メテ此罪ヲ生出ス
即チ純然タル人定法ノ罪ニ過キサルナリト然リ犯人ニシテ其目的ヲ達セハ刑

刑

法

刑

法

罰ヲ受クルコトナカル可キモ之カ爲メ政事犯ハ道德法ノ罪ニ非スト斷言ス可
カラス蓋シ政事犯ハ必シモ高潔ナル意思ニ起ルモノニ非ス或ハ一个ノ情慾ヲ
逞シフセンカ爲メ或ハ當路者ヲ怨恨シ媚疾スル爲メ之ヲ企ル者ナシトセス縱
令人民ヲ塗炭ノ中ニ救ハントノ意思ニ出テタリトスルモ國家社會若クハ政府
ノ組織ハ一个人カ暴力ヲ用ヰテ之ヲ破壞スルヲ許ス可キニ非ス其組織ノ不善
ナルモノハ正當ノ手段ヲ以テ之カ改良ヲ謀ル可シ然ルニ事コ、ニ出テス暴動
以テ非擧ヲ企ツ國家社會及ヒ政府ハ之ヲ罰スルニ正當ノ名義ヲ有ス可シ服従
ノ義務ニ背キ主權ニ抗敵ス而カモ道德法ヲ犯サスト言フ天下豈此理アラシヤ
況ヤ其目的ヲ達センカ爲メニハ人ヲ殺シ火ヲ放ツ等ノ大惡事ヲ行フニ於テオ
ヤ余ハ決シテ或ル學者ノ説ヲ是認スルコト能ハサルナリ
然レトモ政事犯ノ道德ニ背ク程度ハ常事犯ト同シカラス常事犯人ニ付テハ公
衆一般ニ之ヲ嫌疑シ再ヒ之ト相伍スルコトヲ耻ルモ政事犯ハ人處刑ノ爲メニ
其名譽ヲ失墜スルコトナキヲ常トス然ル所以ノモノハ他ナシ常事犯ハ何レノ
世何レノ處ニ於ケルモ概シテ之ヲ罪ト爲サ、ルモノナク殺人放火盜取詐僞ノ

刑

法

如キ國境ヲ越ユルモ其罪質ヲ消失セス又時ニ刑ノ輕重アルモ之ヲ罪ト爲スハ古今一般ナリ是レ其不道德ハ人類一般ノ心ニ依テ宣告セラレ而シテ其害ハ政體ノ如何ニ關係ナケレハナリ之ニ反シ國家社會及ヒ政府ノ組織ハ時ト處トニ依テ變更シ古今内外必シモ同一ナラス左レハ其組織ヲ變更セントスル政事犯ハ時ト處トノ境遇如何ニ依テ罪ト爲ルモ若シ其境遇一變セハ罪ト爲ラサルコトアラン要スルニ一ハ絶對的ノ不道德ニシテ一ハ相對的ノ不道德ニ過キスト言フモ敢テ不可ナルコトナシ

政事犯ノ性質此ノ如シ法律ノ之ヲ待スル常事犯ト異ナル可キヤ當然ナリ佛國其他ノ國常事犯ニ對シ死刑ヲ存スルニ拘ハラズ政事犯ニ付テハ此極刑ヲ廢止セリ本法草案モ亦此例ニ倣ヘリ其理由トスル所ヲ聽クニ曰ク政事犯ハ死刑ヲ以テ威嚇スルモ決シテ之ヲ制止スルコトヲ得ス蓋シ此犯罪ヲ企ル者ハ元ヨリ生命ヲ賭シテ事ヲ舉クルモノナレハ死刑ヲ恐レテ半途其事ヲ止ムルカ如キコトナシ且ツ此犯罪ハ一人一個ノ企謀ニ出テスシテ一黨一派ノ企謀ニ出ツ左レハ一首魁ヲ死刑ニ處スルモ更ニ復タ一首魁ヲ生スルヲ妨クルコト能ハス縱令

刑

法

一黨一派ノ者ヲ悉ク死刑ニ處スルモ他日同主義ノ者新ニ蜂起スルヲ防キ難シ且ツ政界上死刑以テ首魁ヲ倒シ其同黨派同主義者ノ感情ヲ激センヨリハ寧ロ寛大ノ處置ヲ施シ以テ其感情ヲ和クルニ若カスト然レトモ立法者ハ此說ヲ採ラス仍ホ死刑ヲ存スルコト、爲シタリ是レ本法頒布ノ當時ニ在リテハ文明ノ程度未タ今日ノ如クナラス隨テ此極刑ヲ置クノ必要ヲ認メタルニ由ルナラント雖モ已ニ立憲政體ニ改マリタル今日以後ニ於テハ復タ此刑ヲ置クノ必要ナカル可キヲ以テ草案ノ如ク改正ヲ加フル方穩當ナル可シ但事ノ皇室ニ關スルモノハ固ヨリ此例ニ在ラサルナリ

以上ハ余カ所謂ル政事犯即チ本法ノ所謂ル内亂ニ關スル罪ニ付テ立論シタルニ止マリ本法ノ所謂ル外患ニ關スル罪ニ付テハ余ハ之ヲ政事犯ノ性質ヲ備ヘス其道德ニ背クノ程度ハ内亂ニ關スル罪ノ比ニ非サルヲ以テ法律特ニ之ヲ寬待ス可キモノニ非スト信ス抑此罪ヤ内亂ニ關スル罪ノ如ク一國內ニ於ケル組織ヲ變更スルヲ目的トスルニ非スシテ國家ヲ滅シ其生命ヲ斷タントスルモノナリ彼ノ國家ヲ愛ヒ政府ノ處置ヲ非トシ遂ニ其政府ヲ顛覆センコトヲ企ルハ

刑 法

其衷情嘉ス可キモノアリ憫レム可キモノアリ唯手段ノ強暴ナルカ爲メ之ヲ罪ト爲スノミ己レ威權ヲ掌握セントノ野心ニ出ルモノト雖モ歸スル所自家ノ主義ヲ實行セント欲スルヨリ事コ、ニ至ルノミ敢テ國家ヲ滅亡スルヲ目的トセス是レ政事犯ハ法律特ニ之ヲ寬待スルヲ相當ナリトスルモ外患ニ關スル罪ハ全ク之ニ異ナリ決シテ國家ヲ愛ヒ國家ノ隆盛ヲ謀ルノ熱情ヨリ事コ、ニ至ルモノニ非ス國家ヲ敵トシ國民ヲ敵トシ深恩アル父母ノ邦ニ仇ス其所爲鳥獸タモ猶ホ爲スヲ屑トセザル所ニシテ實ニ天人共ニ赦サヘル所ノモノナリト謂フ可シ此ノ如キ大罪ハ之ヲ内亂ニ關スル罪ト同視シ其犯人ヲ寬待ス可キノ理萬々之アルコトナシ故ニ本法カ此罪ニ對シ死刑ヲ存シタルハ可ナルモ無期流刑以下定役ナキ刑ヲ用ユルニ至リテハ余甚タ之ヲ遺憾トス速ニ改正アランコトヲ熱望スルナリ

或ハ曰ク外患ニ關スル罪必シモ國家ノ滅亡ヲ目的トスルモノニ非ス或ハ現政府ヲ顛覆シ社會ノ改良ヲ企圖スルモ自家ノ力足ラサルカ故ニ外國ノ勢力ヲ假ルカ如キ其外國ニ對シテ本國ニ抗スルハ政府顛覆ノ手段タルニ止マリ政府ヲ

刑 法

顛覆シ了ラハ己レ代リテ新政府ヲ組織シ以テ國家ノ幸福ヲ増進スルモ知ル可カラス犯人ノ意亦コ、ニ存スル場合ナシトセス故ニ此罪ヲ以テ一概ニ政事ニ關セサルモノナリト謂フ可カラスト然リ犯人必シモ國家ノ滅亡ヲ目的トセザル可シ然レトモ其所爲ノ結果ハ國家ノ滅亡ト爲ルニ非サレハ國家ノ獨立ヲ傷クルニ至ルヤ必然ナリ試ミニ思ヘ外國ナルモノ何等ノ利益ナキニ好ンテ事ヲ構ヘ此犯人ニ兵力ヲ假スモノアラシヤ必スヤ約スル所アリテ其成ルノ後或ハ土地ヲ割讓セシメ或ハ償金ヲ納メシメ否ラサレハ内治ニ干涉スルニ至ル可シ左レハ犯人ノ目的國家ニ仇スルニ在ラサル場合ニ於テモ其結果ハ國家ニ禍スルコト、爲ルヲ免カレス是レ此罪ハ何レノ場合ニ於テモ常事犯ト爲シ嚴刑以テ之ニ臨ムヲ必要ナリト爲ス所以ナリ

第一節 内亂ニ關スル罪

第二百一十一條 政府ヲ顛覆シ又ハ邦土ヲ僭竊シ其他朝憲ヲ素亂スルヲ目的ト爲シ内亂ヲ起シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 首魁及ヒ教唆者ハ死刑ニ處ス

二 群衆ノ指揮ヲ爲シ其他樞要ノ職務ヲ爲シタル者ハ無期流刑ニ處シ其情輕キ者ハ有期流刑ニ處ス

三 兵器金穀ヲ資給シ又ハ諸般ノ職務ヲ爲シタル者ハ重禁獄ニ處シ其情輕キ者ハ輕禁獄ニ處ス

四 教唆ニ乘シテ附和隨行シ又ハ指揮ヲ受ケテ雜役ニ供シタル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス

本條ハ内亂罪ノ既遂犯ヲ規定ス所謂ル既遂犯トハ犯人其目的ヲ達シタルコトヲ指スニ非ス内亂ヲ起シタルモ鎮壓セラレタルトキ始メテ既遂犯トシ本條ヲ適用ス蓋シ犯人其目的ヲ達シタルトキハ自家又ハ其同黨員多クハ政權ヲ掌握スルニ至ル可キヲ以テ犯人トシテ之ヲ處分スル場合ヲ生スルコトナカル可ク唯其目的ヲ達セス半途ニシテ捕ニ就キ又ハ降服シタルトキニ限り本條ノ刑ヲ受ク可シ

内亂罪ヲ構成スルニハ政府ヲ顛覆シ邦土ヲ僭竊シ其他朝憲ヲ紊亂スルノ目的ト内亂ヲ起シタル所爲トノ二要素ヲ具備セサル可カラズ

刑

法

第一ノ要素 政府ヲ顛覆スルトハ現政府ノ官吏少クモ現内閣員ヲ驅逐シ自家又ハ他人代リテ其地位ヲ占メントスルヲ謂ヒ邦土ヲ僭竊スルトハ帝國版圖ノ一部ヲ押領シ別ニ一國ヲ建テ又ハ外國ノ附庸ト爲ラントスルヲ謂フ此他郡縣ヲ廢シテ封建ト爲シ立憲政體ヲ變シテ君主專制政體ニ復セントスル等總テ朝憲ヲ紊亂スルモノニ非サルハナシ此ノ如ク朝憲ヲ紊亂セントノ目的ヲ以テ内亂ヲ起ス是レ即チ政事犯ト爲ル所以ニシテ此目的ニ出テサルモノハ縱令兵ヲ擧ケテ政府ニ抗敵スルモ決シテ内亂罪ト爲ラサルナリ

第二ノ要素 内亂ヲ起ストハ國家ノ内部ヲ騷擾擾亂スルノ意ニシテ官兵ト相戰フハ勿論未タ鋒鏑ヲ交ヘサルモ已ニ外部ニ發シテ暴動ヲ爲スヲ謂フ此内亂ノ所爲ナケレハ朝憲紊亂ノ目的ヲ以テ如何ナル事ヲ行フモ内亂罪ト爲ルコトナシ學者ノ所謂ル無形ノ暴動例ヘハ大臣擅ニ違憲ノ命令ヲ發スルカ如キ實ニ朝憲ヲ紊亂スルモノナルモ此罪ニ問フコトヲ得サルナリ

此罪ハ犯人ノ多數ナルコトヲ必要トセサルモ實際其犯人必ス多數ニシテ而カモ幾千萬ニ及フコト往々之アリ今特別ナル共犯例ヲ設ケスニ總則ノ支配ニ

委ヌルトキハ幾千萬ノ犯人皆之ヲ正犯ト爲シ同一ノ刑ニ處セサル可カラス悉ク之ヲ死刑ニ處スルハ嚴酷ニ過ク悉ク之ヲ無期又ハ有期ノ自由刑ニ處スルハ寛ニ失スルノ嫌ナキニ非ス況ヤ其犯人中首領アリ將校アリ兵卒アリ人夫アリ其地位ノ輕重同一ナラス隨テ其罪情各犯異ナルニ於テオヤ決シテ同一ノ刑ニ處ス可キニ非サルナリ因テコ、ニ共犯ノ特例ヲ設ケ犯人ヲ四級ニ區別シ各別ニ其刑ヲ定メタリ

刑 法

第一級首魁及ヒ教唆者 首魁ハ群衆ヲ統御スル者ニシテ即チ大將タルノ地位ニ立ツ者ナリ此者ハ必シモ一人ニ限ラス數人アルコトアル可シ殊ニ四方ニ分レテ蜂起スル場合ノ如キ最モ然リトス教唆者トハ單ニ文字ニ拘泥シテ解釋スルトキハ總則ニ定メタル教唆者ト同一義ナリト謂ハサル可カラス若シ然ラハ首魁ヲ教唆シタル者モ附和隨行ヲ教唆シタル者モ同シク死刑ニ處セサル可カラス是レ恐ラクハ立法者ノ意ニ非サル可シ佛文章按ヲ閱スルニ煽動者トアリ由是觀之ニ本條ノ所謂ル教唆者トハ附和隨行ノ如キ單ニナル所爲ヲ教唆スル者ニ非スシテ内亂ヲ一般ニ教唆スル者ヲ指スノ意ナルコト知ル可シ若シ夫

レ單一ナル所爲ヲ教唆シタル者ハ總則ノ例ニ依リ被教唆者ノ刑ヲ科スルニ止ム可シ

刑 法

第二級指揮者其他 一隊ノ長ト爲リテ群衆ヲ指揮シ又ハ參謀ト爲リテ作戰上ノ畫策ヲ爲ス者等此級ニ屬ス法文ニ其情輕キ者云々トアルハ聯隊ノ長ト爲ル者ト小隊ノ長ト爲ル者トノ如キ其地位大ニ懸隔シ隨テ其情狀同一ナラス之ヲ同一ノ刑ニ處スルハ權衡平ヲ得タルモノト謂ヒ難シ因テ輕重ノ區別ヲ立テタルナリ總則ノ酌量減輕ト混同ス可カラス而シテ其情ノ輕重ハ酌量減輕ト同シツ法律之ヲ裁判官ノ判定ニ一任シタルヲ以テ裁判官ハ其情輕シトシテ本項末段ヲ適用スルノ外仍ホ酌量減輕ヲ爲スコトヲ得ヘク又本項末段ニ當ラストスルモ酌量減輕ヲ爲スコトヲ得ヘシ要スルニ彼此互ニ而立スルヲ妨ケサルナリ

第三級兵器金穀ノ資給者其他 兵器金穀ヲ資給スル者トハ暴徒ノ團體ニ向テ之ヲ資給スル者ヲ謂フ特ニ附和隨行ノ一兵卒ニ金錢糧食ヲ給與スル者ノ如キハ總則ニ依リ其兵卒ノ從犯トシテ罰スルハ格別本項ヲ適用スルノ限ニ在ラ

サル可シ諸般ノ職務ヲ爲ス者トハ會計又ハ傷病者ノ治療ニ從事スル者ノ如ク
 軍事上ノ樞機ニ關セサル者ヲ謂フ其情輕キ者ト稱スルハ前段ニ同シ
 第四級附和隨行者其他 附和隨行者ハ即チ兵卒ニシテ雜役ニ供シタル者ト
 ハ人夫看護夫ノ類ナリ是等ノ者固ヨリ其内亂ヲ起シタルノ目的ヲ知リテ干與
 シタルカ故ニ責罰ヲ免カル、コトヲ得サルモ自家單獨ノ目的ハ必シモ朝憲ヲ
 紊亂セントスルニ在ラスシテ或ハ給料ヲ得ンカ爲メニスル者ノ如キ亦之ナシ
 トセス此ノ如キ者ハ嚴罰スルノ必要ナシ故ニ第三級以上ノ者ハ重罪ノ刑ニ處
 スルモ此ハ輕罪ノ刑ニ止メタリ

刑 法

第二百二十二條 内亂ヲ起スノ目的ヲ以テ兵器彈藥船舶金穀其他軍備ノ物品ヲ劫掠シタル
 者ハ已ニ内亂ヲ起シタル者ノ刑ニ同シ
 本條ノ罪ハ未ダ内亂ヲ起スニ至ラス其性質ハ豫備ニ屬スルモノナルモ事重大
 ニシテ危險目前ニ在ルカ故ニ特ニ之ヲ内亂ヲ起シタル者ト同一ニ處分ス
 此罪ハ前條ニ記載シタル目的ヲ以テ内亂ヲ起サントスルノ意思ト兵器等軍備
 ノ物品ヲ劫掠スルトノ二要素具備スルニ因テ構成ス而シテ此外部ノ所爲タル

刑

法

兵器金穀等ノ劫掠アルモ其物品ノ軍備ノ物品タラサル上ハ之ヲ本條ニ問フ可
 カラス法文ニ兵器彈藥船舶金穀ト列記シタルハ軍備ノ物品中主要ナルモノヲ
 舉示シタルニ過キス若シ反對ノ解釋ヲ取ランカ博物館ニ備ヘアル刀劍一本ヲ
 劫掠スル者ハ亦本條ニ依リ處分セラル、ノ奇觀ヲ呈ス可シ
 如何ナルヲ軍備ノ物品ト稱スル乎其物品ノ性質ニ因リ軍備品タルコトノ爭フ
 可ラカサルモノアリ軍艦軍用銃ノ如キ是ナリ又其性質ハ軍備品ナラサルモ用
 方ニ因リ軍備品ト爲ルモノアリ金穀ノ如キ是ナリ此第二類ノ物品ニ付テハ軍
 用ノ爲メニ備ヘラレタルモノナリヤ否ヤヲ明ニセサル可カラス今一個人ニシ
 テ船舶金穀ヲ所有ス其人ノ意萬一ノ時ノ用ニ備フルニ在リトスルモ其船舶金
 穀ヲ以テ直チニ軍備品ナリト爲スコカラス之ニ反シ政府ノ所有スル船舶金穀
 ハ國家萬一ノ事アルキハ直チニ其用ニ供セラル可キモノ即チ平時ノ常用ト
 同時ニ戰時ノ軍用ノ爲メニモ備ヘラレタルモノナルヲ以テ之ヲ軍備品ナリト
 爲サ、ル可カラス乃チ是等ノ物品ハ軍備品ト爲ルハ獨リ政府ノ定ムル所ニ依
 ルモノニシテ政府ノ所有ニ屬スルカ又ハ少クトモ政府カ隨意ニ使用スルコト

刑

ヲ得ル物品ニ非サレハ軍備品ト爲ルコトナシ本條ノ罪ハ政府ノ所有ニ屬シ又ハ政府カ隨意ニ使用スルコトヲ得ル物品ニシテ性質上又ハ用方上軍備品タルモノヲ却掠シ始メテ成立ス可ク政府ノ所有ニ屬スルモ軍備品タラサルモノ又ハ一個人ノ所有ニ屬スル物品ヲ却掠スル者ハ別ニ強盜等ノ罪ヲ成ス可キモ決シテ本條ノ罪ト爲ラサルナリ要スルニ立法者ハ十年西南ノ亂賊徒カ鹿兒島海軍彈藥儲蓄所ヲ襲ヒタル實例ニ鑑ミ本條ノ規定ヲ爲シタルモノナレハ此意ヲ以テ本條ヲ解釋スルヲ穩當ナリトス

第二百二十三條 政府ヲ變亂スルノ目的ヲ以テ人ヲ謀殺シタル者ハ兵ヲ擧ルニ至ラスト雖モ内亂ト同ク論シ其教唆者及ヒ下手者ヲ死刑ニ處ス

法

本條ノ罪ハ各國刑法ニ無キ所ニシテ獨リ我法律ニ於テ之ヲ見ル蓋シ人ヲ謀殺スル其目的政府ヲ變亂スルニ在ルモ之カ爲メ其常事犯タル性質ヲ變更ス可キニ非ス若シ其目的政事ニ關スルカ故ニ之ヲ政事犯ト爲ス可シトセハ獨リ謀殺ニ限ラス苟クモ此目的ヲ以テ罪ヲ犯ス者ハ等シク政事犯トシテ處分ス可シ然ルニ本法謀殺ノ一事ニ限リタルモノハ其故ナクシテアラス聞ク所ニ依レハ政

刑

法

府ヲ變亂スルノ目的ヲ以テ人ヲ謀殺スル者已遂犯ナレハ本條ノ規定ヲ待タズ謀殺ノ法條ニ依リ死刑ニ處スルコトヲ得ヘキモ其未遂犯ナルトキハ總則ニ從ヒ減刑セサルヲ得ス立法者ハ之ヲ不都合ナリトシ次條ノ規定ニ從ヒ未遂犯ノ場合ニ於テモ仍ホ死刑ニ處セシメンカ爲メ特ニ本條ヲ設ケタルモノナリト云ヘリ思フニ本法編纂ノ當時ニ於テハ大久保參議ニ對スル謀殺已遂岩倉大臣ニ對スル謀殺未遂等ノ變アリ痛ク立法者ノ腦裏ニ刺戟ヲ與ヘタリ而シテ一ハ已遂犯ニ係ルヲ以テ死刑ニ處スルコトヲ得ルモ一ハ未遂犯ニ係ルヲ以テ單純ナル謀殺罪ト爲ストキハ無期徒刑又ハ有期徒刑ニ處スルニ止マル此ノ如クナラシニハ以テ野心家ノ奸謀ヲ制シ以テ要路ノ當局者ヲ保護スルニ足ラスト是レ立法者カ若慮セシ所ニシテ此特別ノ規定ヲ設ケタルハ當時ニ在リテハ已ムヲ得サリシモノナラン

立法者ノ意果シテ前述ノ如シトセハ本條ニ人トアルハ一般ノ人ヲ指スモノニ非スシテ要路ニ立ツ所ノ人ノミヲ指スモノト解釋セサル可カラズ蓋シ常人ヲ謀殺スルモ爲メニ政府ヲ變亂ズルノ結果ヲ生セサル可キモ本條ノ罪ハ犯人ノ

刑

法

目的政府ヲ變亂スルニ在ルニ因テ成立スルモノナレハ若シ廣義ノ解釋ヲ取リ
 常人ヲモ包含スルモノトセハ犯人誤テ要路ニ立タサル人ヲ謀殺スルモ以テ政
 府ノ變亂ヲ惹起ス可シト信シ之ヲ謀殺スルトキハ亦本條ヲ適用セサルヲ得サ
 ルニ至ランカ是レ恐ラクハ立法ノ精神ニ適スルモノニ非サルナリ
 純粹ナル内亂罪ニ付テハ首魁教唆者以下雜役ニ供シタル者ニ至ルマテ其罪ニ
 干與シタル者ヲ四級ニ區別シ其刑ニ差等ヲ設ケタリ然ルニ本條ハ内亂ト同シ
 ク論スト規定シナカラ止テ教唆者下手者ヲ死刑ニ處スト云フニ過キス別ニ共
 犯中ニ就テ階級ヲ設ケス是レ本條ノ罪ハ純粹ナル内亂罪ノ如ク必スシモ多衆
 ニテ犯スモノニ非ス縱令多衆ニテ犯スコトアルモ其間ニ於テ彼此刑ノ差等ヲ
 設クルノ必要ナシ通常ノ謀殺罪多衆之ヲ犯ストキハ皆正犯ト爲シ一體ニ同刑
 ニ處ス本條ノ罪モ亦其例ニ依ルヲ至當トス是レ第二百二十一條ノ如キ區別ヲ立
 テサル所以ナリ然ルニ或ル學者ハ下手者ナル語ニ疑ヲ容レ現ニ自ラ手ヲ下シ
 テ殺害ノ事ヲ行フタル者ニ非サレハ下手者ト稱スルコトヲ得ストシ隨テ殺害
 ノ現場ニ臨ミ加功幫助ヲ爲シタルモ直接ニ殺害ノ事ヲ行ハサル者ハ本條ニ從

刑

法

ヒ死刑ニ處ス可カラス第二百二十一條ヲ適用シ或ハ樞要ノ職務ヲ爲シ或ハ諸般
 ノ職務ヲ爲シ或ハ附和隨行シタル者トシテ處分ス可シト云ヘリ是レ實ニ誤解
 ノ甚シキモノナリ抑法律ニ所謂ル下手者トハ自家ノ手ヲ以テ直接ニ人ヲ殺害
 シタル者ノミヲ指スニ非ス犯罪ト爲ル可キ所爲ニ手ヲ下シ即チ干與シタル者
 ヲ總稱ス猶ホ正犯ト稱スルト其意義異ナルコトナシ若シ或ル學者ノ說ニ從ハ
 ンカ甲乙丙三人ニテ丁ヲ殺スニ當リ甲ハ先ツ丁ヲ壓倒シ乙ハ次ニ其手足ヲ縛
 シ丙ハ最後ニ之ヲ斃ス三人謀殺ニ必要ナル所爲ヲ分擔シタルニ過キササルニ丙
 ノミ之ヲ下手者トシテ死刑ニ處シ甲乙ハ輕キ流刑又ハ禁獄ニ處スルニ止マリ
 立法者カ通常ノ謀殺罪ヨリ一層重ク罰セント欲シ此特別ノ規定ヲ爲シタル趣
 旨ニ反スルニ至ラン是レ余カ或ル學者ノ說ニ反對スル所以ナリ
 下手者ハ即チ正犯ナリ此正犯ヲ豫備中ニ幫助シタル者ハ總則ニ從ヒ其從犯ト
 シテ處分ス可シ教唆者モ總則ニ於テ之ヲ正犯ト定メタルヲ以テ本條別ニ之ヲ
 死刑ニ處スト明言スルノ必要ナシ然ルニ特ニ之ヲ明言シタルハ蛇足ノ譏ヲ免
 カレサルナリ

正犯ト從犯トヲ問ハス減輕ニ因テ本刑ヲ減ス可キトキハ死刑ヨリ順次流刑禁獄ニ下ル通常ノ謀殺罪ノ死刑ヨリ徒刑懲役ニ下ルト同シカラス是レ此謀殺ヲ内亂罪ト同視シタルヨリ生スル結果ナリトス

第二百二十四條 前三條ノ罪ハ未遂犯罪ノ時ニ於テ乃チ本刑ヲ科ス

本條ハ非常ノ變例ヲ規定シタルモノナリ通常ノ罪ハ未遂犯ニ付テハ一等又ハ二等ヲ減スルモ内亂罪ニ付テハ已遂犯未遂犯ノ區別ナク直チニ本刑ヲ科ス即チ已ニ兵ヲ擧ケタル者ニ限ラス將ニ暴發セントシ其事ニ著手スルヤ直チニ鎮壓セラレタル者又ハ兵器等ヲ劫掠セントシテ阻止セラレタル者又ハ政府變亂ノ目的ヲ以テ謀殺ニ着手シタルモ對手ヲ殺スニ至ラサル者皆已遂犯ノ場合ト同一ニ處分セラル此ノ如ク至嚴ナル規定ヲ爲シタルハ畢竟因テ以テ國家ノ安寧ヲ維持セント欲シタルニ外ナラスシテ別ニ其理由アルヲ見サルナリ

第二百二十五條 兵隊ヲ招募シ又ハ兵器金穀ヲ準備シ其他内亂ノ準備ヲ爲シタル者ハ第二百一十一條ノ例ニ照シ各一等ヲ減ス

内亂ノ陰謀ヲ爲シ未タ豫備ニ至ラサル者ハ各二等ヲ減ス

刑

本條ノ規定モ亦變例ニシテ總則第一百一十一條ニ罪ヲ犯サンイテ謀リ又ハ其豫備ヲ爲スト雖モ未タ其事ヲ行ハサル者ハ本條別ニ刑名ヲ記載スルニ非サレハ其刑ヲ科セストアル本條別ニ刑名ヲ記載シタル場合ノ一ナリ

内亂罪ニ付キ豫備陰謀ヲ罰スルハ此罪タル一タヒ發スレハ其害社會ノ全體ニ及ヒ其恐ル可キコト他ノ犯罪ノ比ニ非ス故ニ其未タ發セサルニ先チ之ヲ制裁スルヲ必要トス是レ各國ノ刑法ト同シク此變例ヲ設ケ之ヲ罰スルコトハ爲シタル所以ナリ

法

豫備ハ陰謀ヨリ一步ヲ進メ將ニ實行着手ノ域ニ入ラントスルモノニシテ本條例示スルカ如ク兵隊ヲ招募シ兵器金穀ヲ準備スルノ類ヲ指ス陰謀ハ本條明文ナキモ二人以上共ニ犯罪ノ意思ヲ決定スルノ謂ニシテ内部ノ計畫ニ止マリ未タ外部ニ顯ハレタル所爲ヲ行ハサルモノヲ指ス尤モ檄文ヲ配付シ同志ヲ募ルカ如キ勸誘ニ止マリ未タ現實ノ募集ニ至ラサルモノ、如キハ陰謀中ノ所爲ト認ムル方穩當ナラント思考ス

豫備陰謀ヲ罰スルモ未タ實害ヲ生スルニ至ラサルモノナレハ法律ハ本刑ヨリ

二等又ハ二等ヲ減ス即チ各犯人ノ地位如何ニ依リ第二百二十一條ノ第一號乃至第四號ノ刑ヨリ減輕スルナリ然ルニ陰謀中ノ如キハ群衆ノ指揮ヲ爲ス者又附和隨行スル者等固ヨリ之アル可キ筈ナシ縱令事ヲ舉クルニ至ラハ誰某ハ大將タル可シ誰某ハ兵卒タル可シト約シ各自ノ役目ヲ定メタリトスルモ這ハ是レ假定ノ事實ニシテ實行ニ至ラハ其地位ニ變動ヲ來スモ亦知ル可カラズ左レハ假定ノ事實ニ依リ刑ノ差等ヲ立ツ可キニ非サルヲ以テ陰謀ニ付テハ悉ク首魁トシテ罰スルヲ已ムヲ得ストス其豫備ノ所爲ニ進ミタル者ニ付テモ亦殆ト同一ナルモ此場合ニ於テハ已ニ有形的ノ所爲ニ着手シタルモノナレハ各犯人カ分擔スル所ノ役目ハ復タ假定ニ非スシテ眞實ナリ首魁アリテ全體ヲ指揮シ參謀アリテ作戰上ノ畫策ヲ爲シ隊長アリテ兵ヲ訓練シ兵卒トシテ招募ニ應シ又此團體ニ向テ兵器金穀ヲ資給スル者等アラン是等ハ各其地位ニ應シテ處分ス可ク一概ニ首魁ナリト論ス可キモノニ非サルナリ

第二百二十六條 内亂ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲スト雖モ未タ其事ヲ行ハサル前ニ於テ官ニ自首シタル者ハ本刑ヲ免シ六月以上三年以下ノ監視ニ付ス

刑

法

刑

法

本條ハ總則自首減輕ノ例外ヲ規定ス總則ニ於テハ一般ノ自首ハ減輕ニ止ムルモ内亂罪ノ豫備陰謀ニ付テハ本刑ヲ全免ス是レ其犯人一旦非望ヲ懷キタルモ其實行前自ラ中止シテ官ニ自首スルトキハ社會ノ將ニ受ケントシタル大害ヲ免カル、ノ利アリ犯人ヲ誘導スルニ自首免刑ノ恩典ヲ以テシ内亂ヲ未發ニ防止セント欲シタルニ由ル若シ陰謀豫備ヲ爲シタル上ハ到底刑罰ヲ免カレサルモノト爲ストキハ犯人ハ寧ロ進ンテ其事ヲ實行シ萬一ヲ僥倖スルニ若カストシ初志ヲ變ヘスモノナカル可シ是レ社會ニ大危險ヲ與フルモノナリ故ニ政略上此特別ノ規定ヲ爲シタリ

本條ハ總則ノ例外ナリ故ニ自首ノ要件ハ本條ノ場合ニ於テモ之ヲ具備セサル可カラス或ル學者ハ本條ハ單ニ官ニ自首シト云ヒ專未タ發覺セサルノ條件ヲ必要トセサルカ故ニ事已ニ發覺シタル後自ラ其犯罪ヲ申告スル者モ亦全免ヲ與ヘサル可カラスト論スルモ此論ニ從フトキハ第二百二十六條ニハ單ニ自首トアリテ官ニ對シテ爲スコトヲ必要トセサルカ故ニ常人ニ對シ自ラ犯罪ヲ告知スル者亦全免ス可シト論セサルヲ得サルニ至ラン舊律ハ事發覺後ノ自首ヲ

認メタルモ本法總則ハ之ヲ認メス故ニ本法ニ於テ自首ト稱スルハ總テ事未タ發覺セサル前ニ係ルモノニ限ルト解釋スルヲ至當ナリトス
自首者ハ本刑ヲ免スルモ一旦非望ヲ懷キタル危險ナル人物ナレハ他日又如何ナル事ヲ行フモ知ル可カラス故ニ危險豫防ノ爲メ之ヲ監視ニ付ス此監視ハ重罪ノ刑ニ附加スルモノニモ非ス輕罪ノ刑ニ附加スルモノニモ非ス一種異様ノモノナリ故ニ此監視ニ付セラレタル後再ヒ罪ヲ犯スモ總則ニ照シ加重スルノ限ニ在ラス

第二百二十七條 内亂ノ情ヲ知テ犯人ニ集會所ヲ給與シタル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス

錮ニ處ス

本條ノ罪ハ内亂罪ノ從犯タル性質ヲ有スルモノニシテ隨テ内亂已ニ起リタル場合ニハ殆ト生スルコトナク其豫備陰謀中ニ於テ生ス可キモノナリ蓋シ豫備陰謀中ハ最モ事ヲ秘密ニスルモノナレハ犯人相聚會スルニ不便ヲ感スルヤ必然ナリ此時ニ當リ其聚會所ヲ給與ス自家内亂罪ニ加ハラサルモ犯人ニ便利ヲ與スルコト大ニシテ之ガ爲メ犯罪ノ實行ヲ容易ナラシム是レ特別ノ罪トシテ

之ヲ罰スル所以ナリ

第二百二十八條 内亂ニ乘シテ人ノ身體財產ニ對シ内亂ノ目的ニ關セサル重罪輕罪ヲ犯シ

タル者ハ通常ノ刑ニ照シ重キニ從テ處斷ス

已ニ内亂ヲ起シタル上ハ人ヲ殺シ火ヲ放チ糧食馬匹等ヲ人民ヨリ徵發シ其他戰鬪ニ必要ナル所爲ヲ行フハ固ヨリ其所ニシテ是等ノ所爲通常ノ場合ニ於テハ一々犯罪ヲ構成ス可キモノナルモ内亂ノ場合ニ於テハ當然其犯罪中ニ包含セラル可キカ故ニ法律ハ別ニ其刑ヲ科ス可キニ非ス然レトモ内亂ヲ好機會トシ之ニ乘シテ或ハ私怨ヲ報シ或ハ私慾ヲ逞シラスル爲メ戰鬪ニ關係ナキ者ヲ殺シ又ハ官私ノ財物ヲ盜取スル等内亂ノ目的ニ關係ナキ重罪輕罪ヲ犯シタル者ハ即チ内亂罪ト通常ノ罪トヲ俱ニ犯シタルモノナレハ總則數罪俱發ノ例ニ從ヒ重キニ從テ處斷セサル可カラス例ヘハ一兵卒タル者人ヲ故殺シタルトキハ内亂罪ノ刑ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニシテ故殺罪ノ刑ハ無期徒刑ナリ故殺罪ノ刑内亂罪ノ刑ヨリ重キヲ以テ其重キ無期徒刑ニ處スルノ類ナリ茲ニ一疑問アリ内亂ノ豫備トシテ兵器彈藥等ヲ集メントスルモ其資金ニ乏シ

キヨリ強盜竊盜等ヲ行ヒタル者ハ即チ豫備ニ必要ナル事ヲ行ヒタルモノニシテ其強盜竊盜等ノ所爲ハ當然豫備中ニ包含スルモノトシ別ニ刑ヲ科ス可キニ非サル乎法文ニ内亂ノ目的ニ關セサル重罪輕罪ヲ犯シトアリ此強盜竊盜等ノ所爲ハ即チ内亂ノ目的ニ關スルモノニシテ別ニ罪ヲ成サハルカ如何余ハ強盜竊盜等ノ所爲ハ如何ニ内亂ノ豫備ニ必要ナルモ豫備中ニ包含セスシテ別ニ罪ヲ成ス可キモノト信ス本條ハ内亂已ニ起リタル以後ノ事ニ付キ規定シタルモノナルコトハ法文ニ内亂ニ乘シテアルニ因テ自ラ明ナリ左レハ豫備中ノ所爲ニ對シ之ヲ適用ス可カラス且ツ理論上ニ於ケルモ強盜竊盜等ノ所爲ハ常ニ豫備ニ必要ナラス無資力ナル犯人ノ爲メニハ或ハ必要ナラシ然レトモ是レ相對的ノ必要ニシテ絕對的ノ必要ニ非ス相對的ノ必要ノ所爲猶ホ當然豫備中ニ包含スルモノトセハ豫備中事ノ發覺ヲ防ク等ノ爲メ人ヲ殺シタル等亦豫備中ニ包含スルモノト爲サ、ル可カラス又内亂ノ目的ニ關スル所爲ノ罪ト爲ラサルコトハ前已ニ述ヘタル所ノ如クナルモ此強盜竊盜等ノ所爲ハ内亂即チ戰闘ヨリ必然生ス可キモノニ非サルハ勿論主權ヲ假冒シテ租稅ヲ課シ物品ヲ徵

刑

法

發スル等ノ所爲ト同一視ス可キモノニモ非サレハ之ヲ内亂ノ目的ニ關スル所爲ナリト論スルコトヲ得ス故ニ是等ノ所爲ハ必ス別ニ罰セサル可カラサルナリ

刑

法

或ル學者ハ政府ノ所有ニ屬スル金穀物品ヲ盜取スルトギハ己レヲ利スルト同時ニ敵即チ政府ヲ害スルヲ以テ純粹ノ内亂豫備ト爲サ、ル可カラスト論スルモ余ハ之ニ服スルコト能ハス内亂已ニ起レハ即チ政府ヲ敵ト爲スモノナレハ敵ノ所有物ヲ奪フハ所謂分捕ニシテ別ニ盜罪ヲ成スコトナキモ豫備中ニ在リテハ未タ公然政府ヲ敵ト爲サス隨テ敵ノ所有物ヲ分捕シタリト謂フ可カラズ假ニ豫備中ニ在リテモ已ニ政府ヲ敵ト爲シタルモノトセンカ軍人ヲ殺スハ即チ敵兵ヲ殺シタルモノトシテ是レ亦其罪ヲ問フコトヲ得サルニ至ラン何トナレハ財產ニ對スル所爲ト身體ニ對スル所爲トノ間區別ヲ爲ス可キヲ謂ハレナケレハナリ學者若シ此身體ニ對スル所爲モ亦罪ト爲ラスト辯セハ余復タ何ヲカ言ハン

第二節 外患ニ關スル罪

第二百二十九條 外國ニ與シテ本國ニ抗敵シ又ハ外國ト交戰中同盟國ニ抗敵シ其他本國ニ
背叛シテ敵兵ニ附屬シタル者ハ死刑ニ處ス

四四

刑

本條ノ罪ヲ構成スル要素ハ第一犯人日本人タルコト第二敵國ニ與スコト第三
直接又ハ間接ニ本國ニ抗敵スルコト此要素具備シテ始メテ罪ト爲ルナリ
第一ノ要素 外國人ハ日本國ニ對シ忠實ヲ盡ス可キノ義務ヲ負ハス故ニ日
本ノ敵國ニ與シ日本ニ抗敵スルモ日本ハ之ヲ敵ノ一分子トシテ待遇ス可ク決
シテ犯罪人トシテ之ヲ罰ス可カラズ殊ニ敵國人其本國ノ爲メニ日本ニ抗敵ス
ルハ即チ其本分ヲ盡シ其主ニ忠ナルモノナレハ日本ニ於テ之ヲ罰スルノ理ナ
シ此點ハ本人日本ニ在留スルト否トニ依テ區別アルコトナシ之ニ反シ日本ノ
國籍ニ在ル者ハ其身内地ニ在ルト外國ニ在ルトヲ問ハス日本國ニ對シ忠實ヲ
盡スノ義務ヲ負フモノナルニ其義務ヲ盡サズ却テ本國ニ背叛シ敵國ヲ援助ス
實ニ天人共ニ容レサル所ノ大罪ヲ犯スモノナリ法律ハ嚴罰シテ假借スルコト
ナシ
日本人タルノ分限ヲ有スルヤ否ヤハ民法人事編ノ規定ニ依リ之ヲ判定ス可シ

法

此法ノ未タ實施セラレサル今日ニ於テハ姑ク戶籍法ニ依リ日本ノ戶籍ニ上リ
タル者ハ皆悉ク日本人ナリト爲スコシ然レトモ戶籍ニ上ラサルモ日本人タル
男女ノ間ニ生レタル者又ハ日本ニ生レ其父母明ナラサル者ノ如キハ亦日本人
ナリト爲サ、ル可カラス

刑

第二ノ要素 如何ニ外國ヲ利シ本國ヲ害スルモ平時ニ在リテハ決シテ背叛
罪ト爲ラス其背叛罪ト爲ルハ本國ト外國ト互ニ敵國ト爲リタル以後ニ在リ而
シテ彼我敵國ト爲ルハ宣戰若クハ實際戰闘ヲ始メタル時ニ至リ即チ此時以後
ニ於テ始メテ本條ノ罪ヲ犯スコトヲ得ヘシ法文ニ外國ニ與シタルハ敵タル
外國ト豫メ通謀スルノ意ニ非ス犯人其外國ヲ利スルノ意思アルヲ以テ足レリ
トス

法

第三ノ要素 直接ニ本國ニ抗敵スルトハ敵兵ニ附屬シテ本國兵ト相戰フノ
類ヲ謂ヒ間接ニ本國ニ抗敵スルトハ我カ同盟國ニ抗敵スルヲ謂フ同盟國トハ
平時ニ於ケル條約國和親國ヲ指スニ非ス特ニ戰時ニ於テ攻守ヲ共ニセンコト
ヲ締約シタル國ヲ指ス此國ニ抗敵スルハ即チ本國ニ抗敵スルト異ナルコトナ

シ故ニ法律ハ彼此同一ニ處分ス可キモノト定メタリ

ボアソナード氏ハ醫師看護夫等カ敵兵ニ附屬シ敵ノ負傷者ヲ治療シ看護スル者ハ本條ノ罪ニ問フ可カラストシ其佛文章按ニ於テ特ニ其旨ヲ明言シタルモ此點ハ遂ニ採用セラレサリキ思フニ醫師看護夫敵ノ負傷者ヲ治療看護スルハ人類相扶クルノ本務ヲ盡シ茲善ヲ施スニ過キサルカ如シト雖モ同胞タル本國人ノ負傷セルヲ顧ミス故ラニ敵兵ニ附屬スルハ縱令敵國ヲ利シ本國ヲ害セントスルノ意思ナキモ敵ノ負傷者ヲ治療シ看護スルハ即チ敵兵ノ戰闘力ヲ回復セシムルモノニシテ彼ニ利アリテ我ニ害アルコト言ヲ竣タス此結果ノ生スルヲ知リナカラ敵ニ投ス本國ニ抗敵スルモノニ非スト謂フ可カラス此他利慾ニ惑ヒ敵ニ附屬シテ兵器製造等ノ業ニ從事スル者亦背叛ノ罪アリト爲サ、ル可カラス但敵ノ捕虜ト爲リ強迫セラレテ使役ニ服スル者ノ如キハ其情況ニ依リ總則ニ照シテ不論罪ト爲ルコトアル可シ

内亂罪ニ付テハ前節ニ說示シタル如ク首魁以下各共刑ヲ異ニス然ルニ外患罪ニ付テハ多衆相合シテ之ヲ犯シタルトキト雖モ皆之ヲ同一ノ刑ニ處ス權衡其

刑

法

平ヲ得サルモノ、如シ然レトモ余ハ之ヲ當然ノ事ナリト思考ス内亂罪ハ多衆之ヲ犯スヲ常トス然ルニ之ニ對シ同一ノ刑ヲ用ユルハ酷ニ過キ人情ニ適セス故ニ其刑ニ差等ヲ設クルヲ至當トスルモ外患罪ハ多衆共ニ之ヲ犯ス場合ハ濬ニシテ一人單獨ニ之ヲ犯ス場合多カル可シ縱令多衆ニテ犯シタリトスルモ此罪タル天人共ニ容レサル所ノ大罪ナリ苟クモ日本人タル者ハ身命ヲ抛擲シテ國恩ニ報ス可キニ反テ敵國ニ與シテ益、本國ヲ危急ノ地ニ置カントス其刑ヲ輕フス可キノ理萬々之アルコトナシ故ニ法律カ一體ニ死刑ニ處シ共犯中ニ就キ輕重ノ別ヲ立テサルハ其當ヲ得タルモノト謂フ可シ

第二百三十條

交戰中敵兵ヲ誘導シテ本國管内ニ入ラシメ若クハ本國及ヒ同盟國ノ都府又ハ兵器彈藥船艦其他軍事ニ關スル土地家屋物件ヲ敵國ニ交付シタル者ハ死刑ニ處ス

本條ノ罪ハ自ラ本國ニ抗敵スルニ非サルモ敵兵ニ與フルニ本國攻撃ノ便ヲ以テスルカ故ニ之ヲ罰ス而シテ此罪ハ前條ノ罪ト異ナリ日本人ニ限ラス外國人ト雖モ之ヲ犯スコトヲ得ヘシ草按ニハ外國人ノ犯シタルトキハ一等ヲ減ストノ明文ヲ置キタルモ本法之ヲ削除シタルヲ以テ日本人ト同シク死刑ニ處セサ

刑

法

ル可カラス蓋シ日本在留ノ外國人ハ其在留中ハ日本法律ノ保護ヲ受ケ居ルニ拘ハラス日本國ヲ害シ敵國ヲ利セントス日本國タルモノ之ヲ防制スルノ權ナカル可カラス是レ本條ノ制裁ヲ設ケタル所以ナリ次條以下ノ罪ニ付テモ亦同シ

刑

敵兵ヲ誘導シテ云々其所謂ル敵兵トハ一隊ヲ成スモノノ意ナリト解釋ス可シ敵ノ一兵卒ヲ本國管内ニ入ラシムルモ我カ軍隊其襲撃ヲ受クルノ恐レナシ若シ我カ軍情偵察ノ爲メ入ラシメタルモノナランニハ次條第二項ノ規定アリ本條ヲ適用スルノ限ニ在ラサルナリ

法

都府城塞ヲ敵國ニ交付ストハ其支配其使用ノ權ヲ敵兵ニ附與スルノ謂ナリ左レハ此所爲ハ常人ニ於テ之ヲ行フコト能ハサル可シ之ニ反シ兵器彈藥等軍事ニ關スル土地家屋物件ニ付テハ前節ニ所謂ル軍備ノ物品ト異ナリ其物品ノ軍用ニ供セラレ得ルモノヲ總テ包含スルヲ以テ必シモ政府ノ所有ニ屬スルモノニ限ラス一私人ノ所有ニ屬スルモノヲ敵兵ニ交付スルモ亦本條ノ罪ヲ構成ス故ニ常人其所有ノ兵器彈藥等ヲ交付シタルトキハ本條ニ依テ處罰セラル、ヲ

刑

免カレサルモノトス

法

本條ノ規定甚タ不完全ナル點アリ第一敵兵ヲ誘導シテ本國管内ニ入ラシメトノミアリテ同盟國ノ管内ニ入ラシメタル者ヲ罰セス第二敵國ヲ援助スルノ方法ハ都府城塞等ノ交付ニ止ラス或ハ敵兵ノ侵入ヲ便利ナラシムル爲メ都府ヲ燒キ砲臺ヲ毀チ又水雷ヲ除去スル等幾多ノ方法アル可シ然ルニ本條ハ單ニ交付ヲ罰スルニ過キササルヲ以テ是等ノ所爲ヲ行フ者ハ已ムヲ得ス罪責ナシト爲サ、ル可カラス是レ實ニ一大闕點ニ非スヤ尤モ陸軍刑法第五十八條ニ軍人敵ヲ利スル爲メ軍事ニ關スル家屋船舶及ヒ壘柵兵器彈藥其他軍需ノ物品若クハ戰圃ノ用ニ供ス可キ道路橋梁森林汽車電線ヲ毀壞シ若クハ火ヲ放テ之ヲ燒燬スル者ハ死刑ニ處ス第六十一條ニ軍人敵ノ間諜ヲ誘導助成隱匿シ若クハ敵ヲ利スル爲メ俘虜降人ヲ逃走セシメ及ヒ劫奪スル者ハ死刑ニ處ス下アリ而シテ第十三條ニ敵前軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ於テ第五十八條中第六十一條ニ揭クル所ノ罪ヲ犯ス者ハ軍人ニ非スト雖モ此 刑法ニ依テ處斷ス下アルカ故ニ敵前軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ於テ前掲ノ所爲ヲ行ヒタル者ハ本法ニハ明

文ヲ闕クモ右陸軍刑法ニ依リ常人ト雖モ死刑ニ處スルコトヲ得ヘシ又事ノ海軍ニ關スルモノニ付テハ海軍刑法第六十一條第六十五條第四項ニ右陸軍刑法ト同一ナル規定アルヲ以テ實際不都合ヲ生スルコトナカル可シト雖モ其常人ノ所爲敵前軍中又ハ臨戰合圍ノ地ニ於テセザルトキハ陸海軍刑法ヲ及ホスコトヲ得サルヲ以テ此場合ニ於テハ不問ニ置カサルヲ得ヌ要スルニ本條ハ不完全ノ譏ヲ免カル、コトヲ得サルナリ

第三百三十一條 本國及ヒ同盟國ノ軍情機密ヲ敵國ニ漏泄シ若クハ兵隊屯集ノ要地又ハ道路ノ險夷ヲ敵國ニ通知シタル者ハ無期流刑ニ處ス

敵國ノ間諜ヲ誘導シテ本國管内ニ入ラシメ若クハ之ヲ藏匿シタル者亦同シ

前條ノ罪ハ有形的ニ敵國ヲ援助シ本條ノ罪ハ無形的ニ敵國ヲ援助スルモノニシテ其加害ノ度彼ハ重ク此ハ輕シ故ニ本條ノ罪ハ一等輕キ所ノ刑ニ處ス軍情機密ハ當局者ニ非サレハ之ヲ詳悉スルコト能ハス故ニ之ヲ漏泄スル者ハ多クハ軍人又ハ政府ニ立ツ所ノ人ナル可シ然レトモ常人亦偶然之ヲ聞知スルコトアル可ク又詐僞ヲ以テ軍人等ヨリ之ヲ聞知スルコトアラン法律ハ即チ其

刑

法

職務ニ因テ知リタルト偶然ニ知得タルトヲ區別セス苟クモ軍情機密ヲ敵國ニ漏泄シタル者ハ皆一樣ニ之ヲ處罰ス其結果ノ害ハ彼此相異ナル所ナケレハナリ

兵隊屯集ノ要地又ハ道路ノ險夷ハ必シモ機密ト稱ス可キモノニ非サルモ之ヲ敵國ニ知ラシメンカ彼レ攻撃ノ方面ヲ定メ其方法ヲ講究スルノ便利ト爲ラン故ニ軍情機密ノ漏泄ト同一ニ處罰ス但其通知スル所ノ事項平常衆人ノ熟知スルモノナルトキハ之ヲ通知スルモ爲メニ敵國ヲ利セス又本邦ノ害ト爲ラサルカ故ニ本條ヲ以テ罰ス可カラス例ヘハ東海道ニ函嶺八里ノ天險アリ大兵ヲ行ルニ不利ナリト通知スルカ如シ左レハ本條ヲ適用スルニハ其通知スル事項衆人ノ知ラサル所ニ係ルカ若クハ極メテ詳細ニ涉リ行兵上ノ便利ト爲ル可キモノナルコトヲ要ス要スルニ第一項ハ敵國ノ爲メニ間諜ヲ爲スコトヲ罰スルヲ主旨ト爲スモノナレハ通例間諜タル者カ偵察シテ報告ス可キ事項ヲ敵國ニ知ラシメ始メテ此罪ヲ構成スルモノト解釋ス可シ

第二項ハ自ラ敵國ノ爲メニ間諜ヲ爲サ、ルモ敵國ノ間諜ヲ本國管内ニ入ラシ

刑

法

又ハ其已ニ入リタル者ヲ藏匿シ其レヲシテ容易ニ偵察ヲ爲スコトヲ得セシ
メ以テ敵國ヲ利シ本邦ヲ害スルモノニシテ其結果第一項ニ規定スル場合ト異
ナルコトナキカ故ニ同シク無期流刑ニ處スルコト、爲シタリ此點ハ間然スル
所ナキモ第三百三十條前段ト同シク本國管内ニ入ラシメトノミアリテ同盟國ノ
管内ニ入ラシメタル者ニ付キ規定ヲ爲サ、リシハ是レ亦闕點タルコトヲ免カ
レス

刑 法

本條ハ前條ト異ナリ交戦中ノ語ナシ故ニ交戦前ニ於テ本條ノ所爲ヲ行ヒタル
者亦本條ニ照シ處罰スルコトヲ得ヘシト論スル者アリ然レトモ法文中敵國ニ
漏泄シ通知シ又敵國ノ間諜云々ト明記スル上ハ此罪ノ成立スルハ交戦中ニ係
ルコト言フ埃タス交戦前ニ於テ敵國ナルモノ存スルノ理ナケレハナリ或ハ曰
ハン外國ト談判破レ將ニ交戦ニ及ハントスルニ際シ我カ機密等ヲ彼ニ漏泄ス
其害ヲ爲スコト交戦中ト敢テ異ナル所アラス然ルニ之ヲ罰スルコトヲ得スト
スルハ不都合ナラスヤト然リ余モ亦此感ヲ懷カサルニ非ス然レトモ是レ法ノ
闕點ナルコトヲ奈何セン平時ト雖モ外國ニ漏泄ス可カラサルノ機密アリ然レ

刑

トモ今日ノ法其機密ヲ漏泄スル者ヲ罰スルノ明文ナキト同一ナリ外國ノ法律
ニハ往々是等ノ事ヲ規定シタルモノアリ宜ク之ニ倣ヒ改正ヲ加フヘシ尤モ交
戦中ト稱スルハ現ニ戦闘ヲ開始シタル場合ノミナラス未タ其開始ニ至ラサル
モ宣戦アリタルトキハ亦交戦中ナリト知ル可シ

法

外患ニ關スル罪ノ重キモノハ前二條及ヒ本條ノ罪ニシテ一ハ死刑ニ處シ一ハ
無期流刑ニ處ス然レトモ此刑ハ已遂犯ノ時ニ用ヰ其未遂犯ニ係ルモノハ總則
ニ照シ一等又ハ二等ヲ減セサル可カラス今繼テ内亂ニ關スル罪ノ規定ヲ觀ル
ニ前節已ニ説示シタルカ如ク其未遂犯ノ時ニ於テ本刑ヲ科スルノミナラス其
豫備陰謀ニ止マルモノヲモ罰ス然ルニ本節ノ罪ハ未遂犯ナレハ其刑ヲ減輕ス
此點ハ猶ホ可ナリトスルモ豫備陰謀ヲ一切不問ニ置クハ余其何ノ故ナル事ヲ
解スルコト能ハス試ミニ思ヘ敵國ニ内應スル爲メ兵隊ヲ招募シ兵器金穀ヲ準
備スル者アルモ國家ハ危險ヲ感スルコトナキ乎敵國ニ通知スル爲メ軍情機密
ヲ偵察スル者アルモ國家ハ之ヲ罰スルノ必要ナキ乎余ハ立法者ガ彼ニ嚴ニシ
テ此ニ寛ナルヲ異シムナリ

第三百三十二條 陸海軍ヨリ委任ヲ受ケ物品ヲ供給シ及ヒ工作ヲ爲ス者交戦ノ際敵國ニ通

謀シ又ハ其賂遺ヲ收受シテ命令ニ違背シ軍備ノ缺乏ヲ致シタル時ハ有期流刑ニ處ス

本條ハ特別ノ罪ヲ規定シタルモノニシテ此罪タルヤ陸海軍衙ノ委任ヲ受ケ物

品ヲ供給シ工作ヲ爲ス者ニ非サレハ犯スコト能ハサル所ノモノトス

何カ故ニ此所爲ヲ嚴罰スル乎其之ヲ嚴罰スルハ軍備缺乏ノ結果ヲ生シタルノ

故ノミニ非ス敵國ト通謀シ又ハ其賂遺ヲ收受シ爲メニ敵國ヲ利シ本國ヲ害セ

ントスルノ意思アリテ此所爲ヲ行ヒタルニ由ル左レハ供給者工作者ニシテ命

令ニ違背シ供給ス可キ物品ヲ供給セス工作ス可キ機器建造物等ヲ工作セス爲

メニ軍事上ニ妨礙ヲ生スルコトアルモ敵國トノ通謀等ニ出テス單ニ怠慢又ハ

射利的ノ意思ニ出テタルトキハ其委任ヲ解キ又ハ約ニ從ヒ賠償若クハ過怠金

ヲ命スルハ格別本條ニ依テ處罰ス可キモノニ非サルナリ

軍備ノ缺乏ヲ致スコトハ糧食ヲ供給ス可キ者之ヲ供給セサル爲メ將卒饑餓ニ迫

リ陣營ヲ築造ス可キ者其工作ヲ爲サ、ル爲メ兵士已ムヲ得ス露營ヲ張ルニ至

ル等實際差支ヲ生シタル場合ニ限ラス縱令他ノ供給工作ニ依テ補足スル等ノ

刑

法

刑

法

爲メ差支ヲ生スルニ至ラサル場合ニ於テモ仍ホ軍備ノ缺乏ヲ致シタルモノト
謂ハサル可カラス何トナレハ其供給者工作者ニ於テ約束ニ違背スルコトナキ
トキハ軍備ハ益充實ス可キ筈ナルニ約束ニ違背シタル爲メ少クモ其者カ供給
シ工作ス可キ部分ノ缺乏ヲ致シタルニ相違ナク又其供給工作ニシテ遅延セン
カ寸時片刻ト雖モ缺乏ヲ致シタルニ相違ナケレハナリ

本條ノ規定一二ノ欠點アリ其賂遺ヲ受ケトアル其ノ字ハ前文ノ敵國ヲ承ケタ
ルモノナレハ敵國以外ヨリ賂遺ヲ受ケタル場合ニ係ルモノハ罪責ナシト爲サ
、ルヲ得ス又敵國ノ賂遺ト雖モ未タ收受ニ至ラス聽許即チ約束ニ止マル場合
モ亦之ヲ罰スルコトヲ得ス此他敵國ト通謀セス又其賂遺ヲ受ケサルモ敵國ノ
利ヲ圖リ供給工作ヲ爲サ、ル者ノ如キハ通謀ノ場合ト其情異ナル所ナキモ是
レ亦不問ニ付セサルヲ得サルナリ

茲ニ一疑問アリ本條ノ供給者工作者トハ自己ノ名義ヲ以テ其供給工作ヲ請負
ヒタル者ニ限ル乎若シ然リトセハ其請負人ノ手代等實際供給工作ノ事ニ當ル
者本條ノ行爲ヲ行ヒタルトキハ如何處分ス可キ乎ト云フモノ是ナリ此場合ニ

於テ其請負人ニハ意思モナク所爲モナク之ニ罪責ヲ負ハシム可キニ非ス左リ
 トテ其手代等ハ陸海軍ノ委任ヲ受ケタル供給者工作者ニ非スシテ其請負人ノ
 命ヲ受ケテ事ヲ行フモノニ過キサレハ直チニ之ヲ本條ニ問擬スルコト能ハサ
 ルカ如シ然レトモ余ハ之ヲ本條ニ問擬スルハ決シテ不當ニ非スト信ス何トナ
 レハ其手代等ハ當然請負人ニ代リタルモノニシテ即チ請負人ヨリ自己ノ代人
 トシテ差出シタルモノト看做ス可ク隨テ其陸海軍ニ對スル責任ハ本人ト同一
 ニ之ヲ負擔セシメサル可カラサレハナリ

第二百二十三條 外國ニ對シ私ニ戰端ヲ開キタル者ハ有期流刑ニ處ス其豫備ニ止ル者ハ一
 等又ハ二等ヲ減ス

本條ノ罪ハ本國ニ背叛スルモノニ非ス反テ本國ヲ利セントスルノ目的ニ出ル
 コトアル可シ然レトモ私ニ外國ト相戰フハ一ハ本國ノ兵權ヲ侵シ一ハ外國ト
 ノ媾和ヲ破リ遂ニ本國ノ危難ヲ招致スルモ知ル可カラス故ニ嚴刑ヲ以テ之ヲ
 罰シ且ツ其豫備ニ止ルモノヲモ罰ス
 外國ト稱スルハ敵國ト稱スルト其意同シカラス苟クモ一國ヲ成スモノハ我ト

刑

法

刑

法

和親條約ヲ締結シタルト否トヲ問ハス之ヲ本條ノ所謂ル外國ナリトス若シ一
 國ヲ成サヘルモノハ是レ社會アルノミニシテ我之ヲ邦國ト認メサルカ故ニ之
 ニ對シ戰端ヲ交フルモ本條ノ罪ヲ構成セス例ヘハ南洋ニ一島アリ蠻民之ニ居
 住スルモ邦國タルノ組織ヲ成サス是ニ於テ乎日本人之ヲ占領シ我版圖ニ入レ
 シト欲シ其蠻民ヲ征服スルカ如キ縱令干戈ヲ交フルコトアルモノ之ヲ外國ニ對
 スル犯罪ナリト謂フ可カラス又一國ヲ成スモノニ付テモ其一國ヲ對手トシ之
 ト相戰フニ非スシテ其一地方ニ亂入シ奪掠等ヲ行フニ過キササルモノ、如キモ
 亦本條ヲ適用シ處罰スルノ限ニ在ラサルナリ

戰端ヲ開クトハ實際戰鬪ヲ開始スルヲ謂フ或ハ曰ク戰鬪ノ端緒ヲ開キ即チ其
 原因ヲ造出スルノ意ナリト此解釋ニ從ヘハ外國ニ亂入スルニ止マルモ彼我ノ
 交渉ヲ惹起シ遂ニ戰鬪ヲ交フルニ至ルトキハ其戰鬪ノ原因ヲ造出シタルモノ
 ナルヲ以テ之ヲ處罰セサル可カラス然レトモ余ハ此解釋ヲ不當ナリトス第一
 戰端ヲ開クノ語ハ普通ノ意義ニ於テ戰鬪ノ開始スルコトヲ指シ決シテ其原因
 ヲ爲スノ意ヲ包含セス第二右ノ解釋ニ依レハ我レ暴徒ノ暴ヲ認メス隨テ彼ノ

刑

法

要償等ノ請求ニ應セス戰鬪ヲ交フルニ至ルトキハ之ヲ罰スルモ我レ彼ノ請求ヲ理アリトシ之ニ應スルトキハ暴徒ノ暴ヲ認ムルニ拘ハラス之ヲ罰スルコトヲ得ス即チ罰ス可キハ罰セス罰ス可カラサルヲ罰スルノ結果ト爲ル可シ佛國法ノ如キハ外國ニ對シ媾和ヲ破リ又ハ其報復ヲ招ク可キ所爲ヲ行ヒタル者ヲ罰スルノ條アリ或ル者ハ此事ト本條ノ罰トヲ混同シタルヨリ此ノ如キノ解釋ヲ取ルナラン其妄ナルコト深ク辯スルヲ要セサルナリ

本條ノ罪ハ前述ノ如ク戰鬪ヲ開始スルニ因テ成立ス已ニ戰鬪ト云フ犯人ノ多數ナルコト言フ埃タス然ルニ法律ハ其人ノ職務如何ヲ問ハス一概ニ有期流刑ニ處ス是レ内亂罪ニ於ケル規定ト異ナル所ニシテ權衡其平ヲ得タルモノニ非サル可シ

外患罪ノ重キモノニ付テモ法律ハ其豫備ヲ罰セス然ルニ本條ノ罪ハ豫備ヲ罰ス是レ開戰ハ必ス國外ニ於テスルモ其豫備ハ内國ニ於テ行フヲ通例トスルナラン其國外ニ出テ開戰ニ著手スルヲ待テ之ヲ罰センヨリハ寧ロ内國ニ於テ其豫備ヲ爲シ居ル場合ニ之ヲ罰スルノ優レルニ如カス大井憲太郎等カ對朝鮮事

件ノ如キ即チ之ヲ例證ト爲スニ足ル可シ

法律ハ豫備ノ場合ニ於テ本刑ニ一等又ハ二等ヲ減スルモノト規定シ未遂犯ノ場合ト其刑ヲ同一ニセリ或ハ曰ク本條ノ罪ハ其性質トシテ未遂犯ナシ是レ此規定アル所以ナリト然レトモ將ニ戰鬪ヲ開始セントシ未タ鋒鏑ヲ交ヘサル場合ノ如キ之ヲ豫備ノ所爲ト謂フ可カラス左リトテ之ヲ已遂犯ト論スルモ其當ヲ得ス故ニ余ハ之ヲ未遂犯即チ豫備ノ區域ヨリ進ンテ著手ノ區域ニ入りタルモノト論セント欲ス唯實際上未遂犯ニ止マル場合少カル可キヲ以テ法律ハ未遂犯ニ科ス可キ刑ヲ以テ豫備ノ刑ト爲シ別ニ輕重ノ差等ヲ設ケサリシノミ

法

刑

第二百二十四條 外國交戰ノ際本國ニ於テ局外中立ヲ布告シタル時其布告ニ違背シタル者ハ六月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

本條ノ罪ハ亦場合ニ依リ外國トノ交渉ヲ惹起シ甚シキハ外國ノ攻撃ヲ受ケシムルニ至ルヲ以テ之ヲ罰スルナリ蓋シ甲乙二國戰ヲ交フ其雙方又ハ一方ノ我カ和親國ナルト否トヲ問ハス苟クモ其一方ニ與シ之ト同盟シテ他ト相戰フニ非サルヨリハ義トシテ局外ニ中立セサル可カラス而シテ局外中立ニ嚴正中立

刑

アリ制限中立アリ交戦國ノ孰レニモ援助ヲ與ヘス兵器彈藥等ノ貿易ハ勿論其軍艦ノ我カ内海ニ入ルコトヲ許サ、ル等一切ノ關係ヲ絶ツモノヲ嚴正中立トシ軍艦ノ入港ヲ許シテ兵器彈藥等ノ貿易ヲ許サ、ル等一分ハ中止シ一分ハ援助ヲ與フルモノヲ制限中立トス此嚴正中立ヲ取ル可キ乎制限中立ヲ取ル可キ乎ハ時情ニ從ヒ我カ政府之ヲ決定シ之ヲ布告ス其布告ニ違背スルモノ即チ本條ノ罪ト爲ルナリ

或ハ曰ク我カ政府ノ布告ニ違背スルモ國際公法上局外中立ノ一般ノ規定ニ違背スルモノニモ亦本條ヲ適用ス可シト然レトモ國際公法ハ眞ノ法律ニ非サルノミナラス其一般ノ規定ト稱スルモノニ付テモ學者各其意見ヲ同シフセス且ツ本條明ニ其布告ニ違背シト言フニ止マル故ニ余ハ此說ニ左祖スルコト能ハサルナリ

第三百二十五條 此章ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

本條ハ別ニ説明ヲ要セス唯一ノ注意ス可キハ此章ニ記載シタル罪ヲ犯シトア

法

ルカ故ニ本節ノミナラス前節ニ記載シタル犯罪ニ付テモ固ヨリ本條ヲ適用セサル可カラサルナリ

第三章 靜謐ヲ害スル罪

本章ノ罪ハ國家公權ノ一部ヲ蔑如シ國家カ保護セントスル所ノ社會一般ノ平和ヲ擾亂スルモノニシテ其害ノ及フ所前章ノ罪ノ如ク大ナラス故ニ概シテ其刑ヲ輕クス且ツ彼ハ政事ニ關スル犯罪ナリトスルモ此ハ政事ニ關セサル犯罪ナリトシ即チ常事犯ノ刑ヲ用井タリ

第一節 兇徒聚衆ノ罪

此罪ハ別テ二ト爲ス一ハ多衆集合ノ罪ニシテ一ハ多衆暴動ノ罪ナリ第三百三十六條ハ先ツ集合ノ罪ヲ規定シ第三百三十七條以下ハ暴動ノ罪ヲ規定ス

此罪ヲ構成スル普通ノ要素三アリ第一多衆ナルコト第二暴動ヲ手段ト爲スコト第三暴動ノ目的政事ニ關スルコト是ナリ

第一多衆集合シテ暴動ヲ行ヒ又ハ之ヲ行ハンコトヲ謀ル是ニ於テ乎一般ノ平和擾亂セラレ人民其堵ニ安スルコト能ハサルニ至ル可シ然レトモ一二ノ人相

刑

法

合シテ如何ナル暴行ヲ爲スモ警察ノ力容易ニ之ヲ鎮壓スルコトヲ得ヘキカ故ニ公共ノ安寧爲メニ攪破セラル、ニ至ラサル可シ是レ此罪ニハ多數ノ集合ヲ要スル所以ナリ

多衆トハ幾人以上ナル乎舊律ニハ衆ト稱スルハ三人以上トノ明文アリタルモ本法ハ之ニ類スル規定ナシ蓋シ三四人ノ集合必シモ一般ノ危殆ヲ招カス暴動ヲ爲サントスルモ爲シ得サル場合アル可シ要スルニ其公害ヲ生スルト否トハ多ク時所等ノ關係如何ニ在リテ豫メ人員ヲ限定ス可キニ非サルヲ以テ法律ハ多衆ナリヤ否ヤヲ認定スルノ權ヲ擧ケテ之ヲ事實裁判官ニ一任シタリ

第二暴動トハ官廳ニ喧鬧シ官吏ニ強逼シ村市ヲ騷擾スル等強暴ナル舉動ヲ爲スヲ謂フ此暴動ナケレハ公共ノ安寧毫モ害ヲ受クルコトナシ左レハ穏和ナル手段ヲ以テ幾千萬ノ多衆相集合スルモ決シテ此罪ヲ構成セサルナリ

第三此罪ト内亂罪ト相異ナル主要ノ點ハ實ニ其目的ノ如何ニ存ス内亂罪ハ朝憲紊亂即チ政事上ノ改革ヲ目的トスルモ此罪ハ否ラス必ス其目的ノ政事ニ關セサルコトヲ要ス例ヘハ官ニ對シテハ工事ノ廢止囚徒ノ放免等ヲ強願スルカ

刑 法

如キ人民ニ對シテハ米穀ノ廉賣ヲ米商ニ逼リ金品ノ施與ヲ富豪ニ要ムルカ如キ其目的トスル所ノ事毫モ政事ト相涉ラサルモノ即チ此罪ヲ構成スルナリ

第二百二十六條 兇徒多衆ヲ囂聚シテ暴動ヲ謀リ官吏ノ説諭ヲ受クルト雖モ仍ホ解散セサル者首魁及ヒ教唆者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス附和隨行シタル者ハ二圓以上五圓以下ノ罰金ニ處ス

刑

本條ハ先ツ多衆集合ノ罪ヲ規定ス此罪ハ前段ニ舉示シタル三要素即チ政事以外ノ目的ヲ以テ多衆集合シ暴動ヲ行ハントヲ謀ルノ外尙ホ官吏ノ説諭ヲ受ケテ解散セサルノ一要素之ニ加ハリ始メテ其成立ヲ見ルモノトス蓋シ多衆暴動ヲ行ハントヲ謀ルモ未タ其實行ニ至ラサルモノハ之ヲ罪ト爲シ罰センヨリハ寧ロ穩ニ解散セシメ以テ一般ノ平和ヲ保持スルノ優レルニ如カス故ニ官吏説諭ヲ加フルモ剛愎ニシテ解散セサルモノニ限り之ヲ處罰スルコト、爲セ

法

官吏ノ説諭トアル其官吏トハ保安警察ニ關係アル官吏即チ地方長官警察官郡長等人民ニ對シ説諭ヲ爲スノ職權又其職務ヲ有スル官吏ヲ指スニ止マリ裁判

官及ヒ學校教員ノ如キハ之ヲ包含セス故ニ例ヘハ郡長ノ辭職勸告ヲ名トシテ郡衙ニ逼迫スル場合ニ於テ裁判官等説諭ヲ加フルコトアルモ是レ裁判官等ノ資格ヲ以テ説諭スルモノニ非サルカ故ニ之ニ應セサルモ本條ノ罪ヲ構成スルコトナシ

刑

法

本條ノ罪ハ必然的數人共犯ナレハ其犯人ヲ悉皆同一ノ刑ニ處スルモ決シテ法理ニ背反セス否同一ノ刑ニ處スルヲ以テ當然ノ事ナリトス然ルニ法律ハ首魁教唆者ヲ重ク罰シ附和隨行者ヲ輕ク罰ス加之其刑タル一ハ重禁錮ニシテ一ハ罰金ニ止マル是レ他ノ共犯處罰ノ上ニ於テ決シテ見サル所ノ變例ナリ蓋シ首魁教唆者ハ事ヲ起シタル主犯ナルカ故ニ之ヲ自由刑ニ處スルハ適當ナルモ附和隨行者ハ多クハ無智蒙昧ニシテ主犯ノ煽動ニ因テ一時感情ヲ激セラレ前後ノ思慮ナク之ニ雷同シタルニ過キサレハ特ニ重刑ヲ科スルノ必要ナシ加之首魁教唆者ト同シク短期ニモセヨ之ヲ自由刑ニ處センカ彼ノ百姓一揆ノ場合ノ如キ一郡若クハ數郡ノ丁男ヲ擧ケテ悉ク之ヲ獄舎ニ投シ其放免ニ至ル迄ノ間其地ノ農業ヲ廢止セシムルノ結果ヲ生ス可シ立法者ハ即チ舊律時代ノ實例ニ

繼ミル所アリ故ラニ金刑ヲ用ヰタルナリ

第三百三十七條

兇徒多衆ヲ嘯聚シテ官廳ニ喧鬧シ官吏ニ強逼シ又ハ村市ヲ騷擾シ其他

暴動ヲ爲シタル者首魁及ヒ教唆ハ重懲役ニ處ス其嘯聚ニ應シ煽動シテ勢ヲ助ケケル者ハ輕懲役ニ處シ情輕キ者ハ一等ヲ減ス附和隨行シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

刑

法

本條ハ多衆暴動ノ罪ヲ規定ス此罪ニハ官吏ノ説諭ヲ受クルノ條件ヲ要セサルモ其暴動ヲ實行シタルコトヲ必要トス而シテ兇徒已ニ暴動ヲ實行スルニ至レハ首魁教唆者ノ外別ニ煽動シテ勢ヲ助クル者モアラン故ニ單純ナル附知隨行者ノ外煽動助勢者ノ刑ヲ定メ首魁教唆者ヨリ一等又ハ二等輕ク之ヲ罰スルコト、爲セリ

第三百二十八條

暴動ノ際人ヲ殺死シ若クハ家屋船舶倉庫等ヲ燬燒シタル時ハ現ニ手ヲ下

シ及ヒ火ヲ放ツ者ヲ死刑ニ處ス
首魁及ヒ教唆者情ヲ知テ制セサル者亦同シ

兇徒已ニ暴動ヲ實行ス其極人ヲ殺死シ家屋等ニ放火スルコトアラン此場合ニ

刑

於テハ兇徒全體ニ其責任ヲ負ハシム可キ乎今若シ兇徒ハ一團一體ヲ成スモノナリトノ單純ナル論理ニ從ハシカ其全體ニ責任ヲ負ハシメテ可ナルカ如シ然レトモ其團體數箇ニ分レ各一隊一伍ヲ爲シ各所ニ於テ亂暴狼藉ヲ逞シフスル場合ハ勿論其一隊一伍中ニ於テモ其隊伍共同ノ所爲トシテ換言スレハ各人共同シテ之ヲ行フ場合ハ格別毫モ各人ニ共同ノ意思ナキ上ハ其中一人ノ所爲ヲ以テ各人ニ其責ヲ負ハシム可キニ非ス故ニ現ニ手ヲ下シ及ヒ火ヲ放ツ者ニ限リ之ヲ死刑ニ處ス而シテ法律カ特ニ此事ヲ明言シタルハ他ナシ殺人放火ハ暴動ノ際最モ犯シ易クシテ最モ防キ難シ且ツ此所爲ハ益暴動ノ氣焰ヲ盛ナラシムルモノナルカ故ニ故殺ノ如キ人ノ住居セサル家屋ニ放火スル如キ通常ノ場合ニ於テハ無期徒刑ニ過キササルモノナルモ此暴動ノ場合ニ於テハ仍ホ死刑ニ處スルコト、爲シ嚴罰ヲ示シテ以テ是等ノ所爲ナカラシメンコトヲ望ミタルナリ

法

法文ニ暴動ノ際云々トアリテ苟クモ暴動ノ際ニ於ケル殺人放火ハ皆死刑ニ處ス可キカ如ク見ユルモ這ハ是レ暴動ノ犯人即チ兇徒ノ所爲ニ關スル規定ナル

刑

カ故ニ兇徒以外ノ者ニ對シ本條ヲ適用ス可カラサルヤ勿論ナリトス即チ暴動已ニ起リ官民ノ混亂セルヲ好機會トシ兇徒以外ノ者私怨ヲ報センカ爲メ他人ヲ故殺スルカ如キ是ナリ又兇徒ノ犯スモノト雖モ其兇徒相互ノ間ニ於ケル所爲ニ付テハ特ニ其刑ヲ重クスルノ必要ナク隨テ其理由ナキヲ以テ是レ亦本條ヲ適用スルノ限ニ在ラサル可シ

法

又人ヲ殺死シト云フ上ハ其殺死ノ意思アルコトヲ要スルヤ勿論ナリ故ニ謀殺故殺ニ限リ毆打致死及ヒ過失殺ヲ包含セス燒燬ニ付テモ放火ノ本條ノ支配ヲ受ケ失火ハ通常ノ刑ニ處スルニ止マル可シ
又家屋船舶倉庫等ヲ燒燬シトアリ此ノ等ナル文字ハ單ニ上文ヲ承クルノ語ナル乎若シ然リトセハ無用ノ文字ヲ挿入シタルモノト謂ハサル可カラス是レ恐ラクハ立法者ノ爲ス可キ所ニ非サルナリ左レハ家屋船舶倉庫以外ノ物件ヲ一々列記スルノ煩ヲ省カンカ爲メ此文字ヲ置キタルモノト解釋スルヲ穩當ナリトス果シテ此解釋ノ如クナランニハ亦一ノ不都合ヲ生スルヲ免カレス其包含スル所廣漠ニシテ一定ノ限界ナク隨テ些細ノ物件ヲ燒燬シタル者仍ホ極刑ニ

刑 法

處セラル、ニ至ルコトナキヲ保シ難ケレハナリ然レトモ片紙ヲ燒燬スル者マ
 テ死刑ニ處ス可シトハ立法者ノ期スル所ニ非サルヤ疑ヲ容レズ左レハ汽車ヲ
 燒燬スルトカ山林ニ放火スルトカ必ス暴動ノ氣焰ヲ盛ナラシム可キモノニ限
 リ本條ヲ適用セシメントノ意ナリト解釋ス可キナリ若シ他ニ適當ナル解釋方
 法アラハ余ハ喜シテ其說ニ服從ス可シ
 首魁教唆者ハ兇徒全體ニ對シ命令禁止ノ實權ヲ握ルモノナレハ兇徒中人ヲ殺
 死シ又ハ放火スル者アルニ於テハ之ヲ制止ス可キヲ當然トス然ルニ其情ヲ知
 テ之ヲ制止セサルハ自ラ命令シテ之ヲ行ハシムルト殆ト異ナル所ナシ故ニ下
 手者放火者ト同シク之ヲ死刑ニ處ス要スルニ此重責ヲ負ハシメ以テ成ル可ク
 惡結果ノ生スルヲ防止セント欲シタルナリ
 暴動ノ際人ヲ毆打創傷シ又ハ監禁制縛スル等人身ニ危害ヲ加フルコトアリ又
 家屋ヲ毀壞シ財物ヲ奪掠スル等財産ニ損害ヲ被ラシムルコトアリ此他道路橋
 梁ヲ損壞シ電信鐵道ニ障礙ヲ與ヘ又鎮撫官吏ノ職務執行ニ抗拒スル等公益ニ
 對スル罪ヲ犯スコトアリ是等ノ場合ニ付キ法律ハ特別ノ規定ヲ爲サズ是レ當

刑 法

然暴動ノ罪ニ包含スルモノト認メタルニ由ル乎余ハ然リト信スルコト能ハス
 何トナレハ是等ノ所爲タル往々暴動ト併發スルコトアルモ暴動ニ必要ナル所
 爲ニ非ス是等ノ所爲ナキモ暴動ハ實行シ得ラル可ケレハナリ且ツ假ニ暴動ノ
 罪ニ包含スルモノトセンカ附和隨行者ハ人ヲ毆打シテ死ニ致スモ暴動ノ際ニ
 犯シタルカ爲メ重懲役ノ刑ヲ免カレ單ニ二十圓以下ノ罰金ニ處セラル、ニ止
 マル此ノ如キハ法理ノ認容スル所ニ非サルヤ言ヲ竣タス故ニ暴動ノ罪ト他ノ
 罪ト各成立スルモノトシ數罪俱發例ニ從テ處斷ス可シ唯法律ハ殺人放火ニ付
 テハ特別ノ罪トシ其刑ヲ重クシタルモ前掲ノ所爲ニ付テハ刑ヲ重クスルノ必
 要ナシトシ特別ノ規定ヲ爲サズ總則ノ支配ニ委ネタルニ過キサルノミ
 第二節 官吏ノ職務ヲ行フヲ妨害スル罪
 本節ノ罪ハ別テ抗命ノ罪ト官吏侮辱ノ罪ト爲ス共ニ官吏ノ職務ニ妨害ヲ與フ
 ルニ因テ成立スルモノナリ

第二百二十九條 官吏其職務ヲ以テ法律規則ヲ執行シ又ハ行政司法官署命令ヲ執行スルニ
 當リ暴行脅迫ヲ以テ其官吏ニ抗拒シタル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以

上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

暴行脅迫ヲ以テ其官吏ノ爲ス可カラサル事件ヲ行ハシメタル者亦同シ

凡ソ法律規則ハ細大トナク實際ニ執行セサル可カラス行政司法官署ノ命令ハ法律規則ニ依據シ其許容スル範圍内ニ於テ下スモノナレハ是レ亦法律規則ト同シク實際ニ執行セラル、コトヲ要ス然ルニ其執行ニ當リ妨害ヲ加フル者アラシカ其者ハ即チ法律規則ヲ蔑加シ國家ノ執行權ニ對抗スルモノナレハ固ヨリ之ヲ不問ニ置ク可キニ非ス是レ本條抗命ノ罪ヲ規定シタル所以ナリ

刑 法

本條ノ罪ヲ構成スル要素三アリ第一官吏其職務ヲ執行スル場合ナルコト第二抗拒ノ手段暴行脅迫ナルコト第三人民ニシテ官吏ニ抗拒スルコト是ナリ第一ノ要素巡查憲兵卒カ現行犯人ヲ逮捕スルカ如キハ官署ノ命令ニ依ルニ非スシテ法律ヲ執行スルモノナリ豫審判事ノ發シタル令狀ニ依リ非現行犯人ヲ逮捕スルカ如キハ司法官署ノ命令ヲ執行スルモノナリ孰レモ其職務ヲ執行スルモノナレハ法律ハ一樣ニ之ヲ保護シ他ノ妨害ヲ排除セサル可カラス収稅吏カ其上官ノ命令ヲ受ケ商工ノ營業所ニ臨檢シ帳簿其他ノ檢査ヲ爲ス場合ノ如

刑

キモ亦同一ナリ總テ是等職務執行ノ場合ニ於テ其官吏ニ抗拒スレハコソ實害ヲ生ス可キモ其職務執行以外ニ於テハ固ヨリ官吏ト人民トノ關係ニ非サレハ此抗命ノ罪ヲ生スルコトナシ

官吏其職務ヲ執行スル場合ト雖モ或ハ其權限ヲ越ヘ或ハ程式規則ヲ守ラサルトキ之ニ抗拒スル者仍ホ本條ノ罪ニ問フ可キ乎此點ニ付テハ學者ノ說種々ニ別レ各國ノ法亦一定セサルカ如シ

法

佛國千七百九十一年ノ法典ハ此疑問ヲ決センカ爲メ法文故ラニ適法ニ云々ト明言シ苟クモ不適法ナル處分ニ付テハ之ニ抗拒スルモ抗命ノ罪ナキコトヲ示シタリ獨逸及ヒ匈牙利ノ現行法典ノ如キ亦同シ然レトモ佛國現行ノ法典及ヒ希臘ノ法典ノ如キハ法律上此疑問ヲ決定スルヲ危險ナリトシ適法不適法ノ點ヲ默々ニ附シ單ニ法律命令ヲ執行スルニ當リ抗拒スル者罪アリト云フニ止ム又千八百四十五年バーデンノ法典千八百四十年ハノーブルノ法典ノ如キハ不規則ナル處分ヲ爲ス官吏ニ抗拒スル者ハ適法ナル處分ニ抗拒スル者ヨリ其刑ヲ減輕セリ本法ハ佛國現行法典ノ例ニ倣ヒ豫メ此問題ヲ決定セス學者ノ解釋

ニ一任シタリ

余ハ此問題ヲ解釋スルニ付キ二箇ノ規則ヲ立テント欲ス
第一官吏其職權外ノ處分ヲ爲ス場合ニ於テハ之ニ抗拒スルモ抗命ノ罪ト爲ラ
ス蓋シ官吏ノ身分ヲ有スルモ其職權ナキ事ヲ行フハ是レ其人自ラ不法ノ所爲
即チ惡事ヲ行フナリ法律ハ不法ノ所爲ヲ是認シ惡事ヲ保護ス可キ謂ハレナシ
且ツ職權ナキ者ハ官吏ニ非ス左レハ官吏ニ抗拒シ其職務ノ執行ヲ妨害シタリ
ト謂フ可カラス反テ其不法ノ所爲ニ抗拒スルハ即チ正當防衛ニシテ法律上之
ヲ罪ト爲ス可カラサルモノトス

第二官吏其職權内ノ處分ヲ爲ス場合ニシテ議論ノ分ル、ハ實ニ此場合ニ在リ
佛國ノ判決例ニ依レハ官吏ハ秩序維持ノ爲メ委任ヲ受ケタルモノナレハ常ニ
此秩序ヲ尊重シ而シテ法律ニ從フニ非サレハ事ニ從ハサルモノト推測セサル
可カラス又人民タル者ハ官權ヲ尊重シ官吏ノ命令ニ服從セサル可カラサルヲ
原則ト爲スト云ヘリ然リ官吏ハ適法ノ處分ヲ爲スモノト推測スルハ可ナリ然
レトモ其反對ノ場合アルヲ奈何セン且ツ人民モ亦私權ヲ有ス法律之ヲ保護セ

刑

法

サル可カラス此私權ト官權ト相抵觸ス是レ問題ノ困難ナル所以ニシテ左ニ之
カ決定ヲ試ミント欲ス

(イ)官吏其處分ヲ爲スニ法律又ハ官廳ノ命令アルトキ例ヘハ巡查憲兵卒カ裁判
所ノ發シタル令狀ヲ携帶シ之ヲ執行セントスルニ當リ其令狀ニ不規則ノ點ア
リ又ハ其執行方法程式ニ從ハサルコトアルモ其人ハ職權アル官吏ニシテ其執
行セントスル令狀ヲ現ニ携帶スル上ハ人民タル者之ニ服從セサル可カラス佛
國ノ判決例ニ令狀ノ不規則ナルト執行ノ不規則ナルトハ裁判所之ヲ判決ス可
シ人民私ニ之カ判決ヲ爲ス可キニ非ス人民ノ判決ヲ許サハ秩序コレヨリ紊亂
セシトアルハ至言ナリトス左レハ此場合ニ於テハ人民ハ一旦其令狀ニ服從シ
而シテ後不規則ノ點アレハ法律ニ從ヒ之カ取消ヲ求ム可シ自ラ其令狀ヲ無効
ナリト判決シ其執行ニ抗拒スルコトヲ許ス可カラス

(ロ)前ニ反シ官吏其執行ノ權ヲ證明ス可キ公正ノ書類ヲ携帶セサルトキ例ヘハ
令狀ナクシテ非現行犯人ヲ逮捕シ又ハ徵稅令書ヲ發セスシテ租稅ヲ徵收セン
トスルカ如キ場合ニ於テハ人民タル者之ニ服從スルノ義務ナク隨テ之ニ抗拒

刑

法

スルモ抗命ノ罪ト爲ラサルモノト解釋ス可シ何トナレハ此場合ハ官吏其職權
ナキ處分ヲ爲スト一般渠レ自ラ法律ヲ破リ而カモ場合ニ依リ一ノ刑法上ノ罪
ト爲ル可キ事ヲ行フモノナレハ此不法ノ處分ニ對シ服從ノ義務ヲ負ハシム可
キノ理ナケレハナリ

右ノ區別ハフオースタン、エリト及ヒガセー等佛國刑法學者ノ設ケタル所ニシ
テ余ハ甚タ當ヲ得タルモノナリト信スルカ故ニ之ヲ採リテ本問題ノ決定ニ充
當ス

第二ノ要素暴行トハ腕力ヲ用ユル總テノ粗暴ノ行爲ヲ謂フ面部ニ唾スルカ如
キハ包含セズ脅迫トハ暴行ヲ加ヘント脅迫シ對手ニ畏怖心ヲ生セシム可キモ
ノヲ謂フ暴行以外ノ事ヲ以テ恐喝スルカ如キハ包含セズ此暴行脅迫共ニ能動
ノ所爲ニ屬シ進ンテ抗拒ヲ爲スモノナレハ法律ハ此手段ニ依レル抗命ヲ罰ス
ルモ此他ノ手段ニ依レルモノ例ヘハ門戸ヲ閉鎖シテ官吏ノ進入ヲ防キ又ハ遁
逃シテ執行ヲ免カル、カ如キハ之ヲ罪ト爲サス官吏ノ身體ニ危害ヲ及ホスコ
トナケレハナリ

刑

法

刑

法

第三ノ要素此罪ハ人民ニシテ官吏ニ抗拒スル所爲アルコトヲ要ス蓋シ官吏ニ
シテ他ノ官吏ノ職務執行ニ抗拒スル場合ハ實際多カラサル可シト雖モ亦斷ヘ
テ之ナシト爲ス可カラス例ヘハ令狀數通ヲ巡查數名ニ交付シ之カ執行ヲ爲サ
シムルニ當リ各巡查互ニ功ヲ争ヒ甲カ已ニ被告人ヲ逮捕セントシタルヲ排斥
シテ乙其逮捕ノ處分ヲ爲スカ如シ此場合ニ於テ乙ハ甲ノ職務執行ヲ妨害シタ
ルニ相違ナキモ自家モ亦職務執行ノ爲メニシタルモノナレハ抗命ノ罪アリト
論ス可カラス唯其處置穩當ナラサルヲ以テ懲戒ノ處分ヲ用ユルハ格別ナリト
ス又官吏ニ對シ暴行脅迫ヲ爲スモ抗拒ノ所爲ヲ行ハサルトキ例ヘハ逮捕又ハ
物件差押ノ處分ニ服從シタルモ其官吏ヲ怨ミ暴行ヲ爲スカ如キモ亦抗命ノ罪
アリト爲ス可カラス官吏ノ職務執行ニ抗拒スルノ意ナキノミナラス其執行處
分ニ服從シタルモノナレハナリ

本條第二項ハ暴行脅迫ヲ以テ官吏ノ爲ス可カラサル事ヲ行ハシメタルモノハ
第一項抗命ノ罪ト同シク處罰ス可キコト、規定シタリ是レ官吏ノ爲ス可カラ
サル事ヲ爲サシムルハ其爲ス可キ事ヲ爲サシメサルト其害異ナル所ナシト認

メタルニ由ル

官吏ノ爲ス可カラサル事トハ法律規則上禁制セラレタル事ハ勿論其禁制ナキモ官吏カ爲スコトヲ欲セサル事ヲモ包含スルモノト解釋スルヲ相當ナリトス何トナレハ爲スト爲サ、ルトハ官吏ノ權内ニ在ルモ其爲スコトヲ欲セサルハ即チ爲ス可カラスト判定シタルニ外ナラスシテ人民ハ其意思ヲ枉ケ強テ其事ヲ爲サシムルノ權利ヲ有セス之ヲ強フルハ官權ヲ侮蔑スルモノニシテ不問ニ付ス可キ理由ナケレハナリ

第四百十條 前條ノ罪ヲ犯シ因テ官吏ヲ毆傷シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ

加ヘ重キニ從テ處斷ス

前條ノ罪ハ暴行又ハ脅迫ヲ以テ其一要素トス而シテ其暴行ヲ用ユル場合ニ於テハ其結果官吏ヲ死傷ニ致スコトアリ此場合ニ於テハ數罪俱發トシテ處斷ス可キ乎曰ク否暴行ナル一所爲雙方ニ涉リ各其要素タリ然ルニ之ヲ二罪トシテ罰スルハ一所爲ヲ二重ニ罰スルモノニシテ恰モ強盜ノ所爲中ニハ竊盜ノ所爲ヲモ包含スルモノトシ強盜竊盜ノ二罪トシテ罰スルト同シク法理ノ認容セサ

刑

法

刑

法

ル所ナリ即チ此場合ハ所謂ル想像的數罪ナレハ孰レカ一方ノ重キニ從テ處斷ス可シ唯法律ハ普通ノ毆打創傷ト比較セス其刑ニ一等ヲ加ヘタルモノト比較シ重キニ從テ處斷セシムルカ爲メ特ニ本條ヲ設ケタルモノトス其毆打創傷ノ刑ニ一等ヲ加ヘタルハ抗命ノ爲メニスルモノナレハ普通ノ場合ニ於ケルヨリモ其情重ク且ツ官吏ヲ保護シ法律命令ノ執行ヲ確實ナラシムルノ必要アルニ由ル

第四百十一條 官吏ノ職務ニ對シ其目前ニ於テ形容若クハ言語ヲ以テ侮辱シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

其目前ニ非スト雖モ刊行ノ文書圖書又ハ公然ノ演說ヲ以テ侮辱シタル者亦同シ

本條ハ官吏侮辱ノ罪ヲ規定ス抑官吏ニ大小高卑ノ別アルモ其職務ヲ行フハ孰レモ國家公共ノ事ニ從フモノニシテ法律特ニ厚ク之ヲ保護セサル可カラズ今官吏其職務ヲ行フニ當リ之ヲ侮辱ス是レ獨リ其官吏ノ名譽ヲ害スルノミナラス併セテ國家ノ公權ヲ蔑如シ其公權ノ執行ニ妨害ヲ與フルヤ必然ナリ故ニ本條特ニ侮辱ノ罪ヲ規定ス

本條第一項ノ罪ヲ構成スル要素四アリ第一官吏ヲ侮辱スルコト第二其侮辱ハ官吏ノ職務ニ對スルコト第三其侮辱ハ官吏ノ目前ニ於テスルコト第四其侮辱ノ手段ハ形容若クハ言語ヲ以テスルコト是ナリ

第一ノ要素ニ付テハ深ク辯スルノ必要ナシ唯一ノ注意ス可キハ茲ニ官吏ト稱スルハ勿論現任ノ官吏ニ止マリ退官者ヲ包含セス然ル所以ノモノハ退官者ニ對シ其在官中ノ非行ヲ擧ケテ侮辱ヲ加フルモ之カ爲メ國家ノ事務ニ妨害ヲ與フルコトナケレハナリ

刑

法

第二ノ要素官吏ノ職務ニ對シ侮辱ストハ如何ナル事ナル乎職務ハ無形ニ屬ス無形ノ職務ニ對シ侮辱ヲ加ヘント欲スルモ能ハサル可シ佛文草按ニハ「官吏其職務ヲ行フノ際又ハ其職務ニ關シ云々」下アリタリ此語ノ意モ亦佛文草按ノ意ト同一ナル可シ果シテ彼此同一ナリト解釋スルヲ相當ナリトセハ侮辱ノ模樣場合ニ依リ差別アルコトヲ認メサル可カラズ即チ官吏其職務ヲ行フノ際ニ於テハ其職務上ノ行爲ヲ擧ケテ侮辱スルハ勿論其職務ニ關係ナキ事即チ私行等ヲ擧ケテ侮辱スルモ此罪成立ス可キモノト爲サハル可カラズ例ヘハ裁判官法

刑

法

廷ニ於テ審判ヲ爲スニ當リ其裁判官ヲ愚物ナリト罵ルカ如キ單ニ裁判官其人ニ害ヲ與フルノミナラス現ニ國家ノ一機關トシテ職務ヲ行フ者ヲ侮辱スルヨリ延テ裁判ノ威嚴信用ヲ失墜セシムルニ至ル可シ故ニ其指摘スル所ノ事如何ヲ區別セス共ニ侮辱ノ罪アルモノト爲ス可シ之ニ反シ官吏其職務ヲ行フノ際ニ非サル場合ニ於テハ其職務ニ關係シタル事ヲ以テ侮辱スルニ非サレハ此罪成立セサルモノト爲ス可シ例ヘハ途上裁判官某ノ退公スルニ會シ之ニ對シ汝ハ愚物ナリト罵ルモ某ハ現ニ其職務ヲ行フ場合ニ非ス又其罵ル所ノ事ハ其職務ニ關係ヲ有セス故ニ侮辱ノ罪ト爲ス可カラズ然レトモ汝ハ云々ノ訴訟事件ニ付キ賄賂ヲ收受シタリト言フトキハ是レ其事ハ職務ニ關係ヲ有シ爲メニ裁判ノ威嚴信用ヲ害スルニ至ル可キヲ以テ固ヨリ侮辱ノ罪トシテ之ヲ罰セサル可カラズ

第三ノ要素官吏ノ在ラサル場所ニ於テ二三ノ人相會シ其官吏ノ非行ヲ擧ケテ相談話スルモ爲メニ其官吏ノ名譽ヲ毀損シ公權ノ威嚴信用ヲ害スルコトナシ又之ニ因テ其職務ノ執行ニ何等ノ妨害ヲ及ホスコトナキヤ必然ナリ之ニ反シ

刑

其官吏ノ目前即チ其現在スル場所ニ於テセンカ害ヲ生スルコト言フ埃タス是
 レ其目前ニ於テスルヲ一條件ト爲シタル所以ナリ
 官吏ノ目前ニ於テスルモ第三者ノ在ラサルトキハ侮辱ノ罪成立セスト論スル
 者アリ誹譏ノ罪ニ付テハ此論相當ナルモ侮辱ノ罪ハ誹譏ノ罪ト同シカラス單
 ニ名譽ヲ毀損スルノ一事ヲ以テ罪ト定メタルニ非ス公權ヲ蔑如シ其執行ニ妨
 害ヲ與フルカ爲メ特ニ之ヲ罰スルモノナリ左レハ官吏ト相對シ他人其場所ニ
 在ラサルトキハ如何ナル言語ヲ吐キ如何ナル舉動ヲ爲スモ官吏ハ其名譽ヲ毀
 損セラレタリト感セザル可キモ公權ハ蔑如セラレサルモノト謂フ可カラス又
 此ノ如キ侮辱ヲ受クルモ毫モ威嚴ヲ損セス公權ノ執行ニ何等ノ妨害ナシト謂
 フ可カラス故ニ草按ニ於ケルカ如ク公然ノ條件ヲ要スル規定アラハ格別本法
 ノ解釋トシテハ此論恐ラクハ其當ヲ得サルモノナラン
 第四ノ要素言語ヲ以テ侮辱ストハ官吏ノ惡事醜行ヲ擧ケテ之ヲ陳述シ其他嘲
 弄的ノ言語ヲ發スルヲ謂ヒ形容ヲ以テ侮辱スルトハ或ハ毆打スルノ狀ヲ示シ
 或ハ舌ヲ吐ク等輕蔑ノ意ヲ身體ノ動作ニ表白スルヲ謂フ此言語形容以外ノ方

法

刑

法ニ依ルモノハ侮辱ノ罪ト爲ラス即チ書面ヲ贈リテ侮辱スルノ類ナリ佛國大
 審院ハ書面ニ依ルモノヲ言語ニ依ルモノト同視シ其侮辱ヲ罰ス可シト判決シ
 タルコトアリシモ各控訴院皆之ニ反對シタルヨリ總會議ヲ開キ遂ニ其判決例
 ヲ改メタルコトアリ然レトモ口頭ヲ以テ侮辱スルト書面ヲ以テ侮辱スルト其
 侮辱タルコトハ一ナルニ一ハ之ヲ罰シ一ハ不問ニ付スルハ不都合ナリトシ千
 八百六十三年五月十三日ノ法律ヲ以テ公ニセサル文書圖書ヲ以テ侮辱シタル
 者ヲモ罰スルコト、爲セリ本法ニハ書面ヲ贈リテ侮辱スル者ヲ罰スルノ規定
 ナキカ故ニ之ヲ不問ニ付セサル可カラス然レトモ侮辱ト爲ル可キ行爲等ヲ記
 シタル書面圖書ヲ官吏ノ目前ニ展示シ例ヘハ裁判官カ賄賂ヲ收受スルノ狀ヲ
 記シタル圖書ヲ其裁判官ノ現在スル法廷ニ展示スルカ如キハ即チ一ノ形容ヲ
 以テ侮辱スルニ外ナラサレハ之ヲ本條ニ問フモ決シテ比附援引ニ非サル可シ
 ト信ス

法

本條第二項ノ罪ハ前段第一第二ノ要素ト刊行ノ文書圖書又ハ公然ノ演說ヲ以
 テ侮辱スルノ一要素ト相合シテ構成スルモノトス

刑 法

何カ故ニ刊行ノ文書圖書ニ限リ其刊行セサルモノヲ以テ侮辱スル者ヲ罰セサル乎蓋シ立法者ハ其刊行スルモノハ員數必ス多ク隨テ廣ク世上ニ傳播シ害ヲ爲スコト大ナルモ其刊行セサルモノハ之ニ反スト思惟シ此區別ヲ立テタルモツナラン又公然ノ演說ニ限リ秘密ノ演說ヲ除キタルハ亦秘密ノ場所ニ於テ演說スルモ其事世上ニ漏泄セス隨テ害ヲ爲スコトナシト認メタルニ由ルナラン是レ一應其理アルカ如クナルモ文書圖書ヲ刊行シタルモノニ限リタルハ其當ヲ得ス何トナレハ刊行ノ方法ニ依ラサルモ多數ノ者ニ筆寫セシメ以テ數百千ノ文書圖書ヲ作ルコトヲ得之ヲ廣ク世上ニ傳播スルコトヲ得レハナリ且ツ一葉ノ文書圖書ト雖モ之ヲ街頭ニ指示センカ公衆ノ目ニ觸レ隨テ侮辱ノ效ヲ奏スルコトヲ得ヘシ彼ノ誹譏ノ罪ニ付テハ書類圖書ヲ公布シトアルニ止マリ其刊行ニ係ルコトヲ要セサルニ本條ハ否ラス實ニ不當ノ規定ト謂ハサルヲ得サルナリ

又一ノ闕點アリ誹毀ノ罪ハ雜劇偶像ヲ作爲シテ誹毀スルモノヲモ罰スルモ本條ニハ此事ノ規定ナキヲ以テ官吏カ不正ヲ行フノ狀ヲ劇場ニ演シ又ハ其偶像

刑

ヲ作爲シ以テ公衆ノ觀覽ニ供スルモノ之ヲ侮辱ノ罪ニ問フコトヲ得ス然レトモ誹毀ノ罪ヲ構成スル要素具備スルトキハ之ヲ其罪ニ問フハ妨ナカル可シ何トナレハ官吏ノ身分ヲ有スルカ故ニ名譽上ニ關スル法律ノ保護ヲ受クルコトヲ得サルノ理ナケレハナリ故ニ其人一人ノ資格ヲ以テ告訴ヲ爲シタルトキハ法律ハ一人トシテノ保護ヲ與ヘ其誹毀ヲ爲シタル者ヲ罰セサル可カラ

法

茲ニ一言附加ス可キモノアリ初メ草按ニハ官吏ヲ侮辱スルモ其事實ヲ證明シタルトキハ其罪ヲ問ハサルコト、爲シタルモ本法ハ此明文ヲ削除シタリ故ニ誹毀ノ罪ニ於ケルト同シク事實ノ有無ヲ問ハス一體ニ侮辱ノ罪トシテ罰セサル可カラ然レトモ新聞紙條例第二十五條ニ新聞紙ニ記載シタル事項ニ付キ誹毀ノ訴アル場合ニ於テ其私行ニ涉ルモノヲ除クノ外裁判所ニ於テ其人ヲ害スルノ惡意ニ出テス專ラ公益ノ爲メニスルモノト認ムル時ハ被告人ニ事實ヲ證明スルヲ許スヲ得若シ其證明ノ確立ヲ得タル時ハ誹毀ノ罪ヲ免ス云々トアリ而シテ常人カ公共ノ事ニ從フ場合少ク隨テ公益ノ爲メニ之ヲ誹毀スル

コト稀ナル可キモ公益ノ爲メニ官吏ノ職務上ニ於ケル非行ヲ許クコト多キニ居ル可シ即チ新聞紙條例ハ主トシテ官吏ニ對スル場合ヲ豫想シ之カ規定ヲ爲シタルモノ、如シ若シ然ラハ新聞紙ヲ以テ官吏ヲ侮辱シタル場合ニ限リ事實ノ證明ヲ許シ其證明ノ確立ヲ得タルトキハ其刑ヲ免セサル可カラス然ルニ從來ノ判決例ニ依ルニ右新聞紙條例ノ規定ハ常人ニ對スル誹毀ノ場合ニ適用ス可キモ官吏侮辱ノ場合ニ適用ス可キモノニ非スト爲セリ學者多クハ此判決例ヲ批難スルモ余ハ全ク之ニ反對セント欲ス若シ夫レ侮辱ノ罪ヲ以テ單ニ官吏ノ名譽ヲ毀損スルモノナリトセハ侮辱ト云ヒ誹毀ト云ヒ其物體ノ異ナルカ爲メ其名稱ヲ異ニスルニ止マリ侮辱モ亦一ノ誹毀ニ外ナラサルカ故ニ條例ニ所謂誹毀ノ訴ノ中ニハ侮辱ノ訴ヲ包含スルモノト解釋スルヲ當然トス然レトモ余ハ侮辱ノ罪ヲ以テ官吏ノ名譽ヲ毀損スルニ止マルモノト爲サス同時ニ公權ヲ蔑如シ其執行ニ妨害ヲ與フルカ故ニ法律ハ之ヲ特別ノ罪ト爲シタルモノト確信ス即チ彼此相似ル所アルモノハ私益ニ對スル罪ニシテ一ハ公益ニ對スル罪タリ其性質相同シカラサルカ故ニ判決例ヲ以テ其當ヲ得タルモノト爲ス

刑 法

ナリ

第三節 囚徒逃走ノ罪及ヒ其罪人ヲ藏匿スル罪

本節ニ於テハ主トシテ囚徒逃走ノ罪及ヒ罪人藏匿ノ罪ノ二者ヲ規定シ而シテ尙ホ罪證隱蔽ノ罪ヲモ附記セリ

第四百二十二條 已決ノ囚徒逃走シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス

若シ獄舎獄具ヲ毀壞シ又ハ暴行脅迫ヲ爲シテ逃走シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

錮ニ處ス

本條ハ已決ノ囚徒ノ逃走シタル場合ノ罪ヲ規定シタリ抑已決ノ囚徒トハ有罪ノ判決確定シ而シテ其ノ刑ノ執行ノ爲メ獄舎ニ繋留セラレ又ハ逮捕セラレタルモノヲ謂フ故ニ假令有罪ノ判決確定スルモ未タ獄舎ニ繋留セラレ又ハ逮捕セラレサルモノハ之ヲ囚徒ト謂フヲ得ス隨テ其入獄逮捕前ニ逃走スルコトアルモ本條ヲ以テ之ヲ處罰スルコトヲ得ス密ニ本條ヲ以テ之ヲ處罰セラレサルノミナラス法律ハ全然之ヲ不問ニ附セリ蓋シ獄ヲ厭フハ人情ノ常ニシテ地ニ書セルノ牢タモ足猶ホ之ニ入ルヲ避ク況ンヤ現在身ヲ鐵窓ノ中ニ幽セラレ其

刑 法

刑

法

身體ノ自由ヲ剝奪セラル、ニ於テオヤ故ニ假令有罪ノ判決確定スルモ犯罪人
 タルモノ自カラ進ンテ其刑ノ執行ヲ受クルノ義務ナク國家ヨリ進ンテ之ヲ執
 行セサル可カラス是ヲ以テ其未タ執行ニ著手セサル場合ニ於テ逃走スルコト
 アルモ是レ人情ノ已ムヲ得サル所トシテ之ヲ默過スルノ外ナキナリ然レトモ
 一旦國家カ其刑ノ執行ニ著手シタル以上ハ犯罪人タルモノハ其ノ命令ニ服從
 セサル可カラサルノ義務ヲ生スルヲ以テ此場合ニ於テハ最早恣ニ逃走スルコ
 トヲ得ス或ハ此點ニ付テモ佛法及ヒ其他ノ法律ノ規定又諸學者ノ說ニ於テ囚
 徒カ單純ノ逃走罪即チ獄舎獄具ヲ毀壞スルニ非ス又暴行脅迫ノ所爲ニ出テタ
 ルニ非ス單ニ獄吏カ看守ノ隙ヲ窺ヒテ逃走シタル場合ニ於テハ仍ホ之ヲ罰ス
 可カラストスルモノアリ而シテ其理由トスル所ハ即チ前ニ掲ケタル如ク自由
 ヲ好愛スルハ人類普通ノ情ナレハ既ニ一旦其拘束ヲ受ケタル後ト雖モ猶ホ其
 ノ拘束ヲ受ケサル場合ノ如ク之ヲ恕セサル可カラサルノミナラス其之ヲシテ
 逃走スルノ間隙ヲ與ヘタル獄吏ノ不注意ニ出ツルモノナレハ即チ國家ニモ亦
 怠慢ノ責ナシト謂フ可カラス其自己ノ怠慢ノ故ヲ以テ囚徒ヲ罰スルハ不法ナ

刑

法

リト云フニ在リ而シテ此說勢力ナキニ非スト雖モ本法ハ之ニ倣ハス即チ單純
 ノ逃走ノ所爲ヲモ尙ホ之ヲ罰スルコト、セリ蓋シ自由ヲ望ムハ人生ノ常情ナ
 リト雖モ既ニ國家ノ權カヲ以テ之ヲ拘束シタル以上ハ其未タ之ヲ拘束セサル
 場合ト同視スルコトヲ得ス前ノ場合ニ於テハ未タ其刑罰ヲ執行セス又其執行
 ニ著手セス犯人ハ全ク其自由ヲ保持スルヲ以テ其執行ヲ避クル爲メ逃走スル
 モ敢テ之ヲ咎ム可キニ非スト雖モ此場合ニ於テハ既ニ其刑ノ執行ヲ受ケ又ハ
 受ケントシ其自由ヲ剝奪セラレタルモノナレハ如何ニ自由ヲ欲スルハ人生ノ
 至情ナリト雖モ最早國家ノ權力ニ服從セサル可カラサレハナリ若シ夫レ人情
 已ムヲ得サルノ故ヲ以テ之ヲ恕スルトキハ此他ノ犯罪ニ於テモ之ヲ罰スルコ
 トヲ得サルモノ多カラシ例ヘハ貧窶ニ迫リテ人ノ食物ヲ竊取スルカ如キ又ハ
 不俱戴天ノ恨ヲ報ヒシカ爲メ人ヲ殺傷スルカ如キ或ハ憫ム可ク或ハ嘉ミス可
 キ至情ニ出テタルモノナレハ法律ハ之ヲ寬假セサル可カラサルニ至ラン豈ニ
 斯ノ如キノ理アラシヤ故ニ國家ノ執行權ヲ甚如シテ逃走スルモノ、如キハ假
 令暴行脅迫等ノ所爲ニ出テスト雖モ仍ホ之ヲ處罰スルハ蓋シ當然ノ法律ナリ

ト謂ハサルヲ得ス現ニ羅馬法ニ於テモ單純ノ逃走者ヲ罰シ又我カ舊律ニ於テ
 モ之ヲ罰シタリシ本法ハ即チ之ヲ維持シタルモノナリ
 我國目今ノ監獄制度ハ未タ完全ナラス一二ノ集治監ノ如キ稍々完備セルモノ
 ナキニ非スト雖モ其他各府縣ノ監獄ハ其費用總テ地方稅ノ負擔ニ係ルヲ以テ
 嘗ニ其構造ノ粗惡ナルノミナラス獄吏ノ如キモ亦寡少ニシテ十分ノ取締ヲ爲
 スニ足ラサレハ囚徒ノ逃走ヲ爲ス至テ易ク隨テ其ノ數亦タ鮮カラス故ニ之ヲ
 防制センニハ勢ヒ法律ヲ以テ之ヲ嚴罰セサル可カラス旁々本條第一項ハ當然
 ノ規定ナリトス

囚徒ノ逃走ニ付キ法律ハ別段種々ノ場合ヲ想像シテ之ヲ規定セサリシカ故ニ
 疑義ヲ生スルノ點尠カラス今其一二ノ場合ヲ假想シテ之レカ解説ヲ試ミン
 第一囚徒カ水火震災等ノ事變ノ際ニ當リ自己ノ生命身體ノ危險ヲ避ケンカ爲
 メ逃走シタル場合ニ於テモ法律ハ仍ホ之ヲ罰スル乎曰ク是レ法律ノ所謂逃走
 ノ所爲ニ非サルヲ以テ之ヲ罰スルコトヲ得ス蓋シ法律ノ所謂逃走ナルモノハ
 刑罰ノ執行ヲ遁ル、ノ意思ヲ以テ脱獄スルノ謂ニシテ而シテ危險ヲ避クルカ

刑

法

爲メニ逃走スルハ刑罰ノ執行ヲ遁ル、ノ所爲ニ非サレハナリ勿論此場合ニ於
 テモ逃走ノ事實ハ之レ有ルモ其意思ナク唯自己ノ身軀性命ヲ防衛センカ爲メ
 ナレハ總則ノ規定ニ依テ之ヲ不論罪ト爲スノ外ナキナリ

次ニ囚徒カ自カラ進ンテ逃走シタルニ非ス獄吏ヨリ之ヲ解放シタル場合監獄
 九條例ハ出火ニ際シ獄吏ヨリ出獄ノ命ヲ受ケ而シテ其鎮火ノ後尙ホ歸監セ
 ス直チニ逃走シタル場合モ逃走罪トシテ之ヲ處罰スル乎曰ク此場合ニ於テモ
 余ハ之ヲ罰スルヲ得スト思考ス蓋シ此場合ニ於ケル解放ハ單ニ一時ノ解放タ
 ルニ過キス危險ノ去リタルトキハ直チニ歸監ス可キノ條件ヲ以テ出獄ヲ許サ
 レタルモノナリ然ルニ其命シタル條件ヲ遵奉セス剩サヘ此ノ犯シ易ク防キ難
 キノ事變ノ際ヲ奇貨トシテ逃走シタルモノナレハ之ヲ嚴罰シテ差支ナキニ似
 タリ然レトモ法ハ枉ク可カラズ明文ノ無キ所罪之ニ從フコトヲ得ス今夫レ獄
 吏ヨリ縱タレタルモノハ自ラ脱獄逃走シタルニ非ス又獄ニ歸ラサルハ所謂逃
 走ノ所爲ニ非ス何トナレハ歸ラサルノ所爲ハ即チ不行爲ニ出ツルモノニシテ
 而シテ逃走ノ所爲ハ即チ行爲ニ出ツルモノナレハナリ假令又一旦解放サレタ

刑

法

ル上逃走ノ所爲アリタリトスルモ既ニ自由ヲ得タル後ナレハ之ヲ逃走罪トシテ罰スルコトヲ得ス之ヲ要スルニ所謂逃走トハ自カラ進ンテ脱獄緝捕スルノ謂ニシテ本問ノ如キ他ヨリ縱タル場合ヲ包含スルモノニ非サルナリ
 囚徒カ逃走ノ手段トシテ獄舎獄具ヲ毀壞シ又ハ暴行脅迫ヲ爲シテ逃走シタルトキハ法律ハ本條第二項ノ規定ヲ以テ之ヲ重罰セリ是レ畢竟其情狀ノ重キカ爲メナレハ敢テ詳細ナル説明ヲ須ヒス唯タ茲ニ其方法ニテ一言センニ獄具例ハ手錠若クハ錠等ヲ毀壞スルノ所爲カ逃走ノ後ニ係ルトキハ如何換言スレハ獄具ヲ毀壞スルノ所爲ハ逃走ノ準備トシテ之ヲ爲シタル場合ニ非サレハ本項ヲ以テ之ヲ重罰セサル乎然リ茲ニ所謂毀壞ノ所爲ハ其逃走ノ手段トシテ之ニ伴フタル場合ニ非サレハ本項ヲ以テ之ヲ處分スルコトヲ得ス何トナレハ逃走ノ後ニ錠若クハ手錠等ヲ毀壞スルハ是レ其逃走ノ當然ノ結果ナレハ所謂單純ノ逃走タルニ過キサレハナリ其暴行脅迫等ノ所爲ニ付テモ之ト同シク其暴行脅迫カ逃走後ニ係ルトキ例ハ逃走後警察官吏ノ逮捕ヲ拒マンカ爲メ之ニ對シ暴行ヲ加フルカ如キハ他ノ別罪トナルハ格別本項ノ適用ヲ受クルモノニ

刑

法

非サルナリ

茲ニ一ノ疑問アリ即チ暴行脅迫ノ所爲ハ何人ニ對シテ爲スヲ要スル乎囚徒ヲ監守スル獄吏ニ對シテ之ヲ爲シタル場合ノミ本項ノ加重ノ情狀ト爲ル乎將タ其區別ナク何人ニ對シテ之ヲ爲シタルトキト雖モ仍ホ本項ニ包含スル乎ト云フモノ是ナリ余ハ本問ニ對シテ之ヲ狹義ニ解セス即チ何人ニ對シ暴行脅迫ヲ加フルモ本項ノ制裁ヲ受クルモノト思考ス蓋シ法律ハ主トシテ囚徒ヲ監守スル獄吏ニ對スル暴行脅迫ノ場合ヲ想像スト雖モ然レトモ亦此場合ノミニ制限シタルニ非サレハ其他ノ者ニ對シテ暴行脅迫ヲ加ヘタル場合ヲ除外スルコトヲ得ス故ニ例ハ逃走ノ際同囚徒ノ爲メニ撞見セラレ其制止ニ逢ヒタルニ因リ之ニ暴行脅迫ヲ加ヘ以テ其逃走ヲ遂ケタル場合ノ如キ亦本項ヲ以テ之ヲ處罰スルコトヲ得ヘシ勿論囚徒タルモノ其同囚徒ノ逃走ヲ防制スルノ職權ナシト雖モ而カモ他人ノ犯罪ヲ制禦スルハ一般國民タルモノハ權利ナルノミナラス現行犯罪アルニ當リテハ司法警察官吏ニ代リ以テ其犯人ヲ逮捕スルハ國民タルモノハ權利ニシテ又寧ロ其義務ナリト謂フモ可ナルモノナレハ之ヲ保護シ

刑

法

以テ其暴行者ヲ嚴罰スルハ蓋シ理ノ當ニ然ルヘキ所ナラン
 本條ノ規定ハ總テノ已決囚ニ對シテ等シク之ヲ適用スルモノナリ即チ罪ノ輕
 重大小ヲ問ハス拘留ノ如キ輕少ナル刑ニ服スルモノト無期徒刑ノ如キ重大ナル
 刑ニ服スルモノトヲ分タス總テ之ヲ同一ニ處分スルノ精神ナリ蓋シ罪ノ輕重
 ニ論ナク均シク同一ノ囚徒タルノミナラス其國家ノ權カヲ蔑如シ執行ヲ遁ル
 ハノ點ニ至テモ亦其ノ間ニ軒輊ナケレハナリ然レトモ實際上ヨリ之ヲ見レハ
 本條ノ規定ハ其實効ナキ場合アリ例ヘハ無期徒刑ノ囚徒ノ逃走シタル場合ノ如
 キ其囚徒ハ既ニ終身牢獄ノ中ニ踴躅ス可キモノナレハ假令之ニ逃走罪ノ刑ヲ
 加フルモ更ニ其ノ効ヲ見サル可シ尤モ其囚徒ニシテ定役ナキ刑即チ無期流刑
 ニ服スルモノナレハ聊カ其利益ナキニ非ス何トカレハ逃走罪ノ刑ハ重禁錮ニ
 シテ定役アルモノナレハ先ツ此刑ヲ執行シテ以テ定役ノ苦痛ヲ嘗メシムルコ
 トヲ得レハナリ唯夫ノ無期徒刑ノ囚徒ニ至テハ既ニ嚴重ナル定役ノ苦楚ヲ嘗
 メツハアルモノナレハ假令先キニ逃走罪ノ重禁錮刑ヲ執行スルモ更ニ其苦痛
 ヲ感セサルノミナラス却テ之ヲ減却スルノ嫌アリ左レハトテ刑法上無期徒刑

刑

法

囚ノ逃走者ヲ待ツニ死刑ヲ以テスルコトヲ得サレハ結局無期徒刑ノ囚徒ハ幾
 度逃走ノ罪ヲ犯スモ之ニ對シ實効アル制裁ヲ科スルコトヲ得ス唯監獄則第十四
 條ニ依リ其刑ノ執行方法ヲ苛酷ニシ即チ兩脚又ハ一脚ニ鉄ヲ施シ仍ホ鉄丸ヲ
 屬シタル鉄索ヲ其鉄ニ貫キ腰間ニ繚帶セシムル等ノ方法ヲ以テ之ヲ懲罰スル
 コトヲ得ルノミ果シテ然ルトキハ草案ノ規定ニ於ケル如ク無期徒刑ノ囚徒逃
 走ノ罪ヲ犯スモ之ヲ罰セストノ明文ヲ設クルヲ以テ可ト爲ス乎曰ク何ソ夫レ
 然ラン抑前ニ記シタル如ク無期徒刑ノ囚徒逃走ノ罪ヲ犯スモ通例事實ノ上ニ
 於テハ別ニ實効アル刑ヲ科スルコトヲ得サルモ法律上及ヒ裁判上之ヲ不問ニ
 付スルノ理ナキノミナラス若シ其ノ無期徒刑ニシテ非常上告又ハ再審ノ訴ニ
 因リ消滅シタルトキハ則チ其既ニ言渡シタル逃走罪ノ刑ヲ執行スルコトヲ得
 ルニ至ルモノナレハ本法ニ於テ草案ノ規定ヲ削リシハ蓋シ其當ヲ得タルモノ
 ト謂フ可シ

刑

法

不論罪ニ係ル幼者及ヒ瘡癩者ハ監獄内ノ懲治場ニ留置セララルコトアリ本法
第七
十九條第八十條第八十條又監視ニ付セラレタル者住居ナク及ヒ引取人ナキトキハ
二條及ヒ監獄則第一條

其期限間監獄中ノ別房ニ留置セラル刑法附則第 三十二條是等ノ者ハ本條ニ所謂已決ノ囚徒ナル乎即チ若シ是等ノ者カ其獄内ヨリ逃走シタルトキハ之ヲ逃走罪トシテ處罰スルコトヲ得ル乎如何抑々懲治場ニ留置セラレタル者ハ夫ノ囚徒ト同シク獄内ニ於テ其ノ自由ヲ拘束セラレタルモノナレハ若シ脱獄シテ逃亡シタルトキハ即チ逃走罪ヲ構成スルニ似タリ然レトモ法律ノ所謂囚徒トハ刑罰ノ執行ノ爲メニ監獄ニ入レラレタルモノナレハ懲治場ノ如キ刑ノ執行場ニ非ス即チ所謂脅迫教育場ニ入レラレタルモノヲ目シテ之ヲ囚徒ト謂フコトヲ得ス從テ本條ヲ以テ之ヲ處罰スルコトヲ得サルナリ又監視ノ執行ノ爲メ別房ニ留置セラルハ即チ刑罰執行ノ爲メナルモ然レトモ元來監視ハ其被監視者ノ住居ニ於テ執行ス可キモノナルニ此場合ニ於テハ其住居カキ爲メ止ムヲ得ス監獄中ノ別房ヲ以テ其住居ニ代ヘタルニ過キサレハ猶ホ自己ノ住居ニ在ルモノト看做サハルヲ得ス從テ其ノ自己ノ住居タル別房ヨリ逃走スルモ所謂囚徒ノ逃走トシテ之ヲ處分スルコトヲ得サルナリ

第四百十三條 已決ノ囚徒逃走ノ罪ヲ犯スト雖モ再犯ヲ以テ論セス其刑期限内再ヒ逃走

シタル者ハ再犯ヲ以テ論ス

已決ノ囚徒逃走ノ罪ヲ犯ストキハ事實ノ上ヨリ之ヲ見レハ常ニ再犯ナリ何トナレハ先キニ確定シタル一罪アリテ而シテ其刑ノ執行中ニ非サレハ之ヲ犯スコトヲ得サルモノナレハナリ果シテ然ラハ逃走ノ罪ハ總則ノ規定ニ從ヒ常ニ再犯トシテ其ノ刑ヲ加重ス可キ乎曰ク否逃走罪ノ性質上再犯ノ故ヲ以テ其刑ヲ加重スルコトヲ得ス蓋シ此罪ハ必ス再犯ニ非サレハ犯スコトヲ得サル一種特別ノモノナレハ若シ總則ノ規定ニ從ヒ常ニ之ヲ加重スルトキハ法律カ前條ニ定メタル所ノ逃走罪ノ本刑ハ遂ニ之ヲ適用スル場合ナキニ至レハナリ前條第一項ニ於テ單純ノ逃走者ヲ罰スルニ一月以上六月以下ノ重禁錮ヲ以テシタルニ若シ再犯ノ故ヲ以テ之ヲ加重シ之ニ一等即チ其四分ノ一ヲ加フルトキハ三十七日以上七個月半トナルヲ以テ立方者カ罪刑ノ權衡ヲ見テ制定シタル所ノ明文ハ遂ニ其用ヲ爲サハルニ了ラン豈ニ斯ノ如キノ理アラシヤ加之法律カ再犯加重ヲ爲ス所以ノ理由ヨリ之ヲ觀察スルモ逃走ノ罪ハ再犯ノ故ヲ以テ之ヲ加重スルコトヲ得ス抑法律上再犯加重ヲ爲ス所以ノモノハ先キニ一罪ヲ犯

刑 法

シ其ノ刑ヲ執行シタルニ更ニ懲戒ノ實ナク再ヒ罪ヲ犯スカ如キハ其情狀重ク到底普通ノ刑ヲ以テシテハ悔改ノ効ナカル可シト云フニ在リ然ルニ囚徒逃走ノ罪ハ其現ニ刑ノ執行ヲ受ケツ、アル所ノ罪ト相離ル可カラサル關係ヲ有シ單ニ其刑ノ執行ヲ免カレシトスルニ出ツルモノナレハ則チ前キノ刑ニ懲リスシテ重ネテ罪ヲ犯シタルモノト謂フヲ得ス故ニ孰レノ黜ヨリ之ヲ見ルモ逃走ノ罪ハ到底再犯ノ故ヲ以テ之ヲ加重スルノ理由ナク隨テ法律ノ規定ヲ以テ特ニ之ヲ言明スルノ要ナカル可シ

然レトモ其刑期限内再ヒ逃走ノ罪ヲ犯シタルトキハ再犯ノ故ヲ以テ其ノ刑ヲ加重セサル可カラス何トナレハ前キニ一タヒ逃走ノ罪ヲ犯シタルニ因リ之ヲ罰シタルニ更ニ再ヒ逃走ノ罪ヲ犯スカ如キハ其罪狀重ク到底先キニ科シタル刑ヲ以テシテハ懲戒ノ効ナカル可ケレハナリ但シ再犯ノ故ヲ以テ之ヲ加重スル場合ハ其同一ノ刑期限内ニ於テ再ヒ逃走ノ罪ヲ犯シタル場合ナルコトヲ要ス故ニ例ハハ竊盜ノ罪ニテ三年ノ刑ニ處セラレタル者其最初ノ二年間ニ於テ逃走ノ罪ヲ犯シテ又其殘期ノ一年間ニ更ニ逃走ノ罪ヲ犯シタル場合ノ如

刑

法

刑

法

キハ即チ同一ノ刑期限内ニ於テ再ヒ逃走シタル者ナレハ再犯ヲ以テ之ヲ論スルモ若シ其竊盜罪ノ殘期一年間ニ於テハ逃走セス而シテ其前ノ逃走罪ノ刑期執行中ニ於テ更ニ逃走シタル場合ノ如キハ即チ同一ノ刑期限内ニ非サルヲ以テ再犯ヲ以テ之ヲ論スルコトヲ得サルナリ尤モ此ノ場合ニ於テハ竊盜罪ノ刑期ト最初ノ逃走罪ノ刑期トハ繼續スルモノナルヲ以テ事實ノ上ヨリ之ヲ見レハ同一ノ刑期限内ナルニ似タリト雖モ法律上ヨリ之ヲ論スルトキハ則チ個々別々ノ刑期ナリト謂ハサルヲ得ス何トナレハ是レ恰モ竊盜罪ノ刑期滿了シテ而シテ其一旦放免ノ上更ニ逃走罪ノ刑ヲ執行スルト同シケレハナリ但斯克論スルトキハ甚タ奇怪ナル結果ヲ呈スルコトアリ即チ其現ニ執行ヲ受ケツ、アル所ノ刑カ定役ナキ刑例ハ輕禁錮三年ナリトシテ前例ト同シク其初メノ二年間ニ逃走ノ罪ヲ犯シタリトスレハ則チ逃走罪ノ刑ハ重禁錮ニシテ定役ニ服スルモノナルヲ以テ先ツ此刑ヲ執行シテ輕禁錮ノ殘期一年ハ後廻シト爲サ、ル可カラス本法第九條然ルニ其逃走罪ノ刑期執行中更ニ逃走シタリトスルモ同一ノ刑期限内ニ於ケル再度ノ逃走ニ非サルヲ以テ再犯トシテ之ヲ加

重スルコトヲ得ス之ニ反シテ其逃走罪ノ刑期満了シタル後輕禁錮ノ殘期執行中ニ至リ更ニ逃走シタルトキハ則チ同一ノ刑期限内ニ於ケル再度ノ逃走ナルヲ以テ再犯トシテ之ヲ加重ス夫レ犯人ノ意思及ヒ事實ハ同一ナルニ時ノ前後ニ因テ或ハ之ヲ加重シ或ハ之ヲ加重セスト云フカ如キハ極メテ奇怪ナル現象ナレトモ然レトモ法律ノ所謂其刑期限内トハ同一ノ刑期限内ナルヲ以テ勢ヒ前ノ如ク論決セサル可カラサルナリ或ハ此點ニ付テ囚徒逃走ノ罪ハ其執行ヲ遁レントスル本罪ニ對シテ之ヲ再犯トスルコトヲ得サルモ若シ其本罪ノ前ニ於テ尙ホ一ノ犯罪アルトキハ其ノ犯罪ニ對シテ之ヲ再犯ト爲スコトヲ得ルトセハ則チ前例輕禁錮ノ刑期間ニ於ケル逃走罪ノ執行中ニ逃走シタル者ニ對シテモ其最後ノ逃走罪ヲ以テ其本罪(即チ最初ノ逃走罪)ノ前ノ犯罪即チ輕禁錮ノ罪ト對比シテ之ヲ再犯ト爲スコトヲ得レハ斯カル奇怪ナル結果ヲ避クルニ至ル可シト論スル者アリ如何ニモ論者ノ說ニ從フトキハ兎ニ角前後兩度逃走スルトキハ常ニ之ヲ再犯トシテ其ノ刑ヲ加重スルコトヲ得ルヲ以テ時ノ前後ニ因リ或ハ之ヲ加重シ或ハ之ヲ加重セサルカ如キ不都合ナシト雖モ然レトモ此

刑

法

刑

法

說從フ可カラス何トナレハ元來囚徒逃走ノ罪ハ其執行ヲ遁レントスル所ノ本罪ト離ル可カラサル關係ヲ有スルモノナルヲ以テ其本罪ノ刑期限内再度逃走スルトキハ格別之ヲ本罪ト分離シテ其本罪ノ前ニ於ケル別罪ト對照シテ以テ之ヲ再犯ト爲スカ如キノ理アラサレハナリ故ニ縱令前陳ノ如キ奇怪ナル結果ヲ生スルモ寧ロ現行法ノ規定ヲ以テ優レリト爲サ、ルヲ得ス

第四百四十四條 未決ノ囚徒入監中逃走シタル者ハ第四百四十二條ノ例ニ同シ但原犯ノ罪ヲ

判決スル時ニ於テ數罪俱發ノ例ニ照シテ處斷ス

本條ニハ未決囚徒ノ逃走ノ罪ヲ規定シタリ抑、未決囚徒ノ逃走罪ハ夫ノ已決囚徒ノ逃走罪ト大ニ異ナルモノアリ蓋シ既決ノ囚徒ハ刑罰ノ執行ヲ遁レンカ爲メ逃走スルモノナルモ未決ノ囚徒ハ未タ刑ノ言渡ヲ受ケス若クハ其ノ言渡ノ確定セサルモノナレハ刑罰ノ執行ヲ遁ル、ノ目的ヲ以テ逃走スルモノニ非ス尤モ其結局ハ刑罰ノ執行ヲ避クルニ至ルコトアル可シト雖モ而カモ令狀ヲ以テ逮捕監禁セラレタル裁判所ノ手中ヨリ脱セントスルヲ其主タル目的ト爲スモノナリ而シテ法律ヲ以テ之ヲ罰スル所以ハ未決囚ハ裁判所ノ命令ニ從ヒ獄

舍内ニ在ル可キニ其命令ニ違背シテ逃走スルハ取締上不都合ナリト云フニ在

刑

本條ニハ「入監中」ナル文字アリテ而シテ第四百四十二條ニハ其文字ナシ隨テ多少議論ノ種子トナレリ蓋シ入監中トハ即チ監獄ニ入レラレタル場合ノ謂ナレハ其入監以前ニ於テハ假令逃走スルモ本條ヲ以テ之處分スルコトヲ得ス故ニ今令狀ヲ以テ逮捕セラレタル者勾引ノ途中ヨリ逃走スルモ未タ入監ノ處分ヲ經サルモノナレハ既ニ其自由ヲ拘束セラレタルニ拘ハラス逃走罪トシテ之ヲ處分スルコトヲ得ス加之既ニ豫審廷又ハ公判廷ニ引致セラレタル後其法廷ヨリ逃走スルモ尙ホ未タ入監中ト謂フコトヲ得サルヲ以テ此場合ニ於テモ亦本條ヲ以テ之ヲ處分スルコトヲ得ス唯豫審ト公判トヲ問ハス其身監獄ニ入レラレタル後始メテ所謂入監中ト爲ルヲ以テ本條ヲ以テ之ヲ處分スルコトヲ得ルニ至ル同シク裁判所ノ命令ニ因リ其自由ヲ拘束セラレタル者ナルニ一旦監獄ニ入レラレタル後ニ非サレハ逃走スルモ其罪ナシトハ聊カ不倫ノ感ナキニ非ラスト雖モ而カモ拘束中ヲ以テ之ヲ入監中ナリト強辯スルヲ得サレハ現行法ノ

法

刑

上ニ於テハ已ムヲ得ス嚴格ニ之ヲ解釋スルノ外ナシ然ルニ第四百四十二條即チ已決囚徒ノ逃走ノ場合ニ於テハ入監中ノ文字ナキヲ以テ假令未タ監獄ニ入レラレスト雖モ既ニ其自由ヲ拘束セラレタル後逃走スルニ於テハ之ヲ逃走罪トシテ處罰スルニ差支ナシ即チ未決勾留ヲ受ケサリシ犯罪人若クハ保釋責付ヲ得タル犯罪人ニ對シ檢事ノ發シタル逮捕狀ニ依リ監獄ニ護送スルノ途中其者逃走シタルトキハ既ニ裁判確定シ其刑ノ執行ニ著手シタル後ナルヲ以テ入監中ノ者ト同シク之ヲ既決囚徒ノ逃走罪トシテ處分スルコトヲ得ルナリ未決囚ニ付テモ立法上之ト同一ノ規定ヲ爲シ即チ此入監中ナル制限ヲ除去スルヲ相當トス未決囚徒カ逃走ノ罪ヲ犯ス場合ハ其前ニ一ノ被告事件アリテ既ニ入監ノ處分ヲ受ケタル後ナルコト言フ俟タズ故ニ若シ其前ノ被告事件ニシテ果シテ有罪ナリト確定スルトキハ逃走罪トハ數罪俱發ト爲ル隨テ總則ニ定メタル數罪俱發ノ例ニ照シ其一ノ重キニ從ヒ之ヲ處斷セサル可カラス但其前ノ被告事件ニシテ若シ無罪ト爲ルトキハ逃走罪ノ刑ノミ獨リ存シ被告人ハ單ニ逃走罪ノミヲ以テ處分セラレハニ至ル或ハ此場合ニ於テ其前ノ被告事件ニシテ果

法

刑
シテ無罪ナリト確定シタルトキハ隨テ其逃走ノ罪モ之ヲ不問ニ付セサル可カ
ラスト論スル者ナキニ非ス蓋シ裁判所又ハ檢事ノ不明ニ因リ犯罪ノ實跡ナキ
ニ入監ノ處分ヲ受ケタル者ハ即チ裁判所又ハ檢事ノ爲メニ損害ヲ蒙リタルモ
ノナレハ其損害ヲ免カレンカ爲メ逃走スルモ之ヲ罪ス可カラサルニ似タリ然
レトモ其被告事件ニシテ縱令無罪ナリト信スルモ兎ニ角一旦嫌疑ヲ受ケ入監
セラレタル者ナレハ其命令ヲ遵奉シ而シテ後日裁判所ニ於テ辯護權ヲ行ヒ以
テ其自由ヲ回復スルノ外ナシ然ルニ敢テ其道ヲ以テセス恣ニ逃走スルカ如キ
ハ國家ノ命令ニ違背スルモノナレハ之ヲ處罰スルコソ却テ當然ナレ尤モ其入
監ノ手續ニシテ法律ニ違背シタルトキ即チ不法ノ監禁ナリシトキハ假令逃走
スルモ之ヲ罰スルコトヲ得ス故ニ例ヘハ令狀ナクシテ非現行犯ノ被告人ヲ監
禁シタル場合ノ如キ其之ヲ監禁シタル者カ却テ不法監禁ノ犯罪者ナレハ其被
害者タル被告人ハ自己ノ防衛權ニ依リ以テ逃走スルコトヲ得ルナリ但敢テ不
法ノ監禁ト云フニ非ス唯僅カニ不當ノ監禁ト云フニ過キササル場合例ヘハ令狀
アリト雖モ其ノ令狀ニシテ法式ヲ具備セザル場合ノ如キ縱シ其令狀ハ後日ニ

刑 法

至リ無効ト爲ルコトアルモ兎ニ角法律上ノ手續ヲ經タル監禁ナルヲ以テ一先
ツ其命令ニ服従シ而シテ相當ノ道ヲ以テ自由ヲ回復スルノ手段ニ出テサル可
カラス然ルヲ恣ニ其監禁ヲ免カレントシテ逃走スルハ即チ裁判所ノ命令ヲ蔑
如スルモノナレハ之ヲ罰セサル可カラサルナリ

刑
第四百四十五條 囚徒三人以上通謀シテ逃走シタル時ハ第四百四十二條ノ例ニ照シ各一等ヲ
加フ

法
本條ニ於テハ囚徒逃走罪ノ加重ノ情狀ヲ定メタルニ過キス即チ多數ノ囚徒通
謀シテ逃走罪ヲ犯ストキハ其犯罪ノ容易ナル丈ケ其レ丈ケ其ノ危害ノ度モ
重大ナルヲ以テ之ヲ重罰スルコト、セリ敢テ別ニ説明ヲ要セス唯法文ニ囚徒
三人以上云々トアルハ同一ノ獄内ニ在ル囚徒ノ謂ニシテ甲地ノ獄ニ在ル者ト
乙地ノ獄ニ在ル者トノ間ニ於ケル通謀ハ本條加重ノ原因ト爲ルモノニ非ス
以上ハ囚徒自ラ逃走ノ罪ヲ犯セル場合ニ付テノ規定ナリ以下他人カ囚徒ノ逃
走ヲ助クル場合ノ規定ニ付テ之ヲ觀察セン

第四百四十六條 囚徒ヲ逃走セシムル爲メ兇器其他ノ器具ヲ給與シ又ハ逃走ノ方法ヲ指示

シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス因テ
囚徒ノ逃走ヲ致シタル時ハ一等ヲ加フ

刑

本條ニ於テハ囚徒ヲ逃走セシムル爲メ兇器其他ノ器具ヲ給與シ又ハ逃走ノ方
法ヲ指示シタル者ノ罪ヲ規定シタリ抑、器具ヲ給與シ方法ヲ指示シ以テ囚徒ノ
逃走ヲ便宜ナラシムルノ所爲ハ即チ所謂豫備ノ所爲ナルヲ以テ法律上ノ原則
ヨリ之ヲ論スルトキハ罰ス可カラサルモノナリ唯其囚徒カ給與セラレタル器
具ヲ利用シ指示セラレタル方法ニ從ヒ以テ逃走ノ罪ヲ犯シタル場合ニ於テ始
テ從犯トシテ之ヲ罰スルヲ得ルノミ然レトモ本條ニ規定シタル所爲ハ其危險
重大ナルヲ以テ法律ハ之ヲ逃走罪ノ豫備ノ所爲ト爲サス又其從犯トモ爲サス
一種特別ノ罪トシテ之ヲ罰スルコト、セリ即チ本條ノ規定ハ總則ニ定メタル
共犯ノ例外ナリト知ル可シ

法

法律ハ囚徒ノ逃走ヲ便宜ナラシムル幫助ノ方法ヲ制限セリ故ニ本條ニ規定シ
タル器具給與方法指示ノ以外ノ手段ヲ以テ囚徒ヲ逃走セシメントスル者アル
モ本條ニ依リ之ヲ罰スルコトヲ得ス例ヘハ獄舎ノ門戸ヲ開放シ逃走ノ便ヲ與

ヘタル者ノ如キ是ナリ

既ニ内亂外患ニ關スル罪ノ章下ニ於テ兵器ナル語ヲ見タリシガ兇器ナル文字
ハ本條ニ於テ始メテ接スル所ノモノナリ抑、兇器トハ兵器ヨリ其ノ意義廣ク之

刑

ヲ別チテ性質上ノ兇器及ヒ用方上ノ兇器ノ二ト爲ス性質上ノ兇器トハ即チ所
謂兵器ニシテ人ヲ殺傷スルノ器械タル銃砲刀槍ノ如キモノヲ云ヒ而シテ用方
上ノ兇器トハ其元來ノ性質ハ人ヲ殺傷スル爲メノモノニ非サルモ其用方ニ因
リ人ヲ殺傷スルコトヲ得ヘキ棍棒ノ如キモノヲ謂フ後ノ各條ニ於テモ兇器カ
ル語ヲ見ルコト多シ例ヘハ人ノ住所ヲ侵ス罪第一百七條竊盜ノ罪第三百及七
十條及ヒ強盜
ノ罪第三百七
十條如シ是等ノ場合ニ於テモ亦兇器ナル語ハ本條ト同シク性質上
ノ兇器及ヒ用方上ノ兇器ノ二者ヲ含ムモノト知ル可シ

法

兇器ノ給與ヲ得タル囚徒ニシテ若シ其兇器ヲ用ヒ暴行脅迫ノ罪ヲ犯シタルト
キハ其之ヲ供與シタル者ハ亦其暴行脅迫罪ノ從犯タルヲ以テ本條ノ罪ト其從
犯ノ罪トノ想像上ノ數罪俱發トナル可シ故ニ本條ノ罪ト其從犯ノ罪トヲ比較
シテ孰レカ其一ノ重キモノニ從ヒ之ヲ處斷セサル可カラス若シ又其給與ヲ得

刑

法

タル囚徒カ其兇器ヲ使用シテ看守者ヲ殺傷シタル場合ノ如キハ其罪本條ノ罪ヨリ重キモノナルヲ以テ其兇器ヲ給與シタル者ハ殺傷罪ノ正犯タル囚徒ノ從犯トシテ以テ其罪ヲ正サ、ル可カラス但獄舎獄具毀壞ノ爲メニ給與シタルニ止マリ殺傷等ノ用ニ供セシムルノ意思ナキ場合ハ固ヨリ此限ニ在ラサルナリ

第四百十七條 囚徒ヲ劫奪シ又ハ普行脅迫ヲ以テ囚徒ノ逃走ヲ助ケタル者ハ一年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

若シ重罪ノ刑ニ處セラレタル囚徒ニ係ル時ハ輕懲役ニ處ス

本條ニ於テハ囚徒ヲ劫奪シ又ハ暴行脅迫ヲ以テ囚徒ノ逃走ヲ助ケタル者ノ刑ヲ規定シタリ抑、囚徒ヲ劫奪スルトハ其囚徒ヲ看守シ若クハ之ヲ護送スル者ノ手ヨリ之ヲ奪ヒ去ルノ謂ニシテ而シテ囚徒ノ逃走ヲ助ケルトハ自ラ進ンテ之ヲ劫奪スルニ非ス唯其囚徒カ逃走セントスル場合ニ當リ暴行脅迫ノ手段ヲ以テ其逃走ノ目的ヲ達セシムルノ謂ナリ故ニ前段ノ囚徒劫奪ノ場合ニ於テハ之ヲ劫奪スル者ノ罪アリテ劫奪セラル、囚徒ニハ其罪ナシ即チ囚徒自身ニハ逃走ノ意思ナク唯他ヨリ之ヲ奪ヒ去ラシメタルニ過キサレハナリ然ルニ後段

刑

法

ノ逃走助成ノ場合ニ於テハ其逃走セントスル囚徒及ヒ其逃走ヲ助ケタル者共ニ其罪アリ即チ囚徒ハ前數條ノ規定ニ從ヒ之ヲ罰シ其逃走ヲ助ケタル者ハ本條ニ依テ之ヲ罰スルナリ但此場合ニ於テモ亦普通ノ原則ニ從フトキハ總則ノ規定ニ依リ共犯トシテ之ヲ罰セサル可カラスト雖モ而カモ暴行脅迫ヲ以テ囚徒ノ逃走ヲ助ケタル者ヲ罰スルニ其囚徒ト同一ノ刑ヲ以テスルハ輕キニ失スルニ因リ前條トノ權衡上特ニ本條ノ刑ヲ設ケ以テ重ク之ヲ罰シタルモノナラシ

法律ハ暴行脅迫ヲ以テ囚徒ノ逃走ヲ助ケタル者云々〔下記セリ故ニ暴行脅迫以外ノ手段ヲ以テ囚徒ノ逃走ヲ助ケタル者之ヲ罰スルコトヲ得ス即チ看守者又ハ護送者ニ魔匪劑ヲ飲マシメ以テ逃走ノ間隙ヲ與ヘタル者ノ如キ是ナリ事聊カ立法論ニ涉レトモ他ノ罪ニ付テハ藥酒等ヲ用井テ人ヲ昏睡セシメタル場合ハ暴行脅迫ヲ行ヒテ人ヲ強制シタル場合ト同一ニ之ヲ處分セリ夫ノ強姦及ヒ強盜ノ罪ノ如シ然ルニ其理由ニ至テハ全ク同一ナルニモ拘ハラズ本條ニ於テハ其明文ノ闕如セル爲メ解釋上之ヲ奈何トモスルヲ得サルナリ

又看守者若クハ護送者ニ賄賂ヲ與ヘテ以テ囚徒ヲ逃走セシムル者モ亦本條ヲ以テ之ヲ處罰スルコトヲ得ス然レトモ此場合ニ於テハ寧ロ次條ノ教唆者トシテ之ヲ罰スル方適當ナルカ如シ

刑

第二項ニ於テハ重罪ノ刑ニ處セラレタル囚徒ヲ劫奪シ又ハ暴行脅迫ヲ以テ其囚徒ノ逃走ヲ助ケタル者ヲ罰スルニ重罪ノ刑タル輕懲役ヲ以テセリ是レ畢竟重キ罪ヲ犯セル囚徒ヲ逃走セシムルトキハ其危險大ナルヲ以テ隨テ之ヲ逃走セシメタル者ノ責任ヲ重クシ以テ其刑ヲ加重シタルニ過キス之ヲ他國ノ法律ニ照スニ佛國ノ如キハ單ニ重罪ノ刑ニ處セラレタル囚徒ニ係ル場合ノミニ限ラス其重罪犯ノ被告人ニ係ル場合ニ於テモ亦同シク其刑ヲ加重セリ然ルニ我法律ニ於テハ重罪ノ刑ニ處セラレタル囚徒ニ係ル時ハ云々トアルヲ以テ其重罪ノ被告人ニ係ル場合ニ於テハ本項ヲ以テ之ヲ重罰スルコトヲ得ス抑法律ニ於テ重罪ノ囚徒ニ係ル場合ニ付キ特ニ其刑ヲ加重シタル所以ハ即チ前述ノ如ク其危險ノ重大ナルニ出テタルモノナレハ獨リ重罪ノ刑ニ處セラレタル囚徒ニ係ル場合ニ止メス其重罪ノ被告人ニ係ル場合ニ於テモ亦同シク之ヲ重罰セ

法

刑

サル可カラサルカ如シ例ヘハ謀殺犯又ハ強盜殺人ノ被告人ヲ逃走セシムルカ如キ其危險實ニ重大ナルニ輕キ第一項ノ刑ヲ以テ之ヲ處罰スルハ聊カ罪刑ノ權衡ヲ得サル感ナキニ非ス然レトモ伊國刑法ニ於テハ本條及ヒ佛國刑法ノ如キ區別ヲ設ケス即チ罪ノ輕重ヲ論セス總テ囚徒ヲ逃走セシメタル者ハ皆同一ノ刑ヲ以テ之ヲ處罰スルコト、爲セリ是レ亦其理ナキニ非ラス蓋シ囚徒ノ逃走ニ關シタル者ヲ罰スル所以ハ國家ノ裁判權及ヒ刑罰權ノ執行ヲ妨害スルニ出ツルモノナレハ其囚徒ノ死刑ニ處セラレ可キモノト拘留ニ處セラレ可キモノトヲ問ハス其刑罰權及ヒ裁判權ニ妨害ヲ與フル點ニ至テハ則チ同一ナレハナリ然リ國家ノ權利ヲ害スル所以ニ至テハ則チ同一ナリト雖モ而カモ其害ノ大小ニ因テ刑ニ輕重ノ區別ヲ設クルモ亦其理ナキニ非サレハ隨テ佛國及ヒ本邦ノ刑法ノ如キ區別ヲ爲スモ敢テ不法ト謂フ可カラス實際上ニ於テ伊國刑法ノ如キハ刑罰ノ範圍極メテ廣キモノナレハ其害ノ大小ニ應シテ自由ニ相當ノ刑ヲ定ムルコトヲ得ルヲ以テ假令是等ノ區別ナキモ敢テ差支ナシト雖モ本邦刑法ノ如ク刑罰ノ範圍狹隘ナルニ於テハ其區別ヲ立ツルコト尤モ必要ナラ

法

但一般ノ立法上ヨリ之ヲ論スルトキハ余ハ本邦及ヒ佛國ノ法制ノ如ク區別
ヲ設ケルヲ以テ其當ヲ得タルモノト信シ而シテ本法ノ單ニ重罪ノ刑ニ處セラ
レタル囚徒ニ係ル場合ノミニ限リテ其ノ被告人ノ場合ニ及ハサリシヲ遺憾ト
ス

刑

本條ヲ終ルニ臨ミ所謂重罪ノ刑ニ處セラレタル囚徒ノ意義ヲ補述セン抑刑ニ
處セラレトハ唯其刑ノ言渡アリタルノミナラス其裁判ノ確定シタルヲ謂フ
蓋シ第一審ニ於テ重罪ノ刑ニ處ス可キ言渡アリト雖モ上訴ニ因リ其言渡ノ廢
棄若クハ破毀セラルトコト往々之レ有レハナリ故ニ其未タ裁判ノ確定セサル
間ハ假令既ニ刑ノ言渡アリタル後ト雖モ所謂被告人タルニ過キサレヲ以テ是
等ノ者ヲ却奪スル者アリト雖モ本條第一項ヲ以テ之ヲ處罰スルノ外ナク唯其
裁判確定ノ後ニ至リ之ヲ却奪スル者ノミ第二項ヲ以テ處分スルコトヲ得ルニ
過キス

法

第四百十八條 囚徒ヲ看守シ又ハ護送スル者囚徒ヲ逃走セシメタル時ハ亦前條ノ例ニ同
シ

刑

夫レ看守者護送者ハ常人ト異ナリテ囚徒ヲ看守シ又ハ護送スルノ職務ヲ負フ
者ナリ故ニ若シ囚徒ヲ却奪セントスル者アルカ又ハ其囚徒カ逃走セントスル
トキハ必ス之ヲ防止セサル可カラス然ルニ其看守者若クハ護送者ニシテ自ラ
其囚徒ヲ逃走セシムルカ如キハ畜ニ其任務ヲ盡サ、ルノミナラス亦其ノ職責
ニ背クモノナレハ其罪狀實ニ重シ又必要上ヨリ之ヲ見ルモ看守者護送者ハ囚
徒ヲ逃走セシムルコト至テ容易ナルモノナレハ之ヲ豫防セントセハ勢ヒ其刑
ヲ加重シ以テ之ヲ嚴罰セサル可カラス是レ本條ニ於テ單純ニ囚徒ヲ逃走セシ
メタル者ヲ罰スルニ前條ノ暴行脅迫等ニ出テタル者ニ科スルノ刑ヲ以テシタ
ル所以ナリ

法

法律ニハ單ニ囚徒ヲ逃走セシメタル時ハ云々ト規定シテ敢テ其方法ニ付キ制
限ヲ設ケサルヲ以テ廣漠ナル意味ヲ有スルモノト解セサル可カラス故ニ看守
者若クハ護送者自ラ囚徒ノ縛ヲ解キ以テ之ヲ縱ツカ如キ又獄舎ノ門戸ヲ開キ
以テ逃走ノ便ヲ與フルカ如キ場合ノミナラス其他第四百十六條ノ規定ニ於ケ
ル兇器其他ノ器具ヲ給與シ又ハ逃走ノ方法ヲ指示スルカ如キ孰レモ皆本條ノ

包含スル所ナリト知ル可シ

然レトモ若シ囚徒ガ自ラ逃走セントスル場合ニ於テ看守者若クハ護送者之ヲ
制禦セス故ラニ袖手傍觀シ去リタルトキハ如何此場合ニ於テハ看守者護送者
自ラ進ンテ囚徒ヲ逃走セシメタルニ非ス唯其逃走ヲ制止セサルニ止マルモノ
ナレハ則チ一ノ不行爲ニ過キスシテ決シテ行爲ニ出テタルニ非ス左レハ職務
上ノ義務ニ背クト云フノ故ヲ以テ懲戒例ニ依リ之ヲ懲罰スルハ格別本條ノ刑
ヲ以テ其罪ヲ正ス可カラサルニ似タリ然レトモ前段ニ解陳セル如ク本條ノ法
文ハ至テ廣漠ナル意義ヲ有スルヲ以テ余ハ是等ノ場合ニ於テモ仍ホ本條ヲ以
テ之ヲ處罰スルコトヲ得ヘシト信ス蓋シ看守者護送者ニ於テ制止シ得ヘキニ
制止セス故ラニ拱默看過スルハ即チ其實自ラ之ヲ逃走セシメタルト同一般ナ
レハナリ勿論情狀ノ上ヨリ之ヲ見レハ行爲不行爲ノ差ハ之レ有リト雖モ是レ
唯罪狀ノ輕重タルニ過キスシテ決シテ其罪ノ成否ニ關係スルモノニ非ス特ニ
第五百十條ノ規定ト比較シテ之ヲ觀察スルモ右等ノ所爲ニシテ本條ニ包含セ
サルノ理ナキヤ明ケシ尤モ看守者等ニ於テ逃走セシムルノ意思ナク即チ單ニ

刑

法

懈怠アリシニ過キサル場合ハ本條ノ規定ニ包含セサルコト亦言ヲ跋タサル所
ナリ

第四百十九條 前數條ニ記載シタル輕罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例
ニ照シテ處斷ス

法律ハ囚徒ガ自ラ逃走ノ罪ヲ犯サントスル場合ト他人ノ之ニ關係セル場合ト
ヲ分タス總テ其ノ未遂犯ヲ罰セリ是レ其罪ヲ遂クルトキハ重大ナル危險アル
ヲ以テノ故ノミ致テ説明セス

第一百五十條 看守者又ハ護送者其懈怠ニ因リ囚徒ノ逃走ヲ覺ラサル時ハ一圓以上二十圓
以下ノ罰金ニ處ス

若シ重罪ノ刑ニ處セラレタル囚徒ニ係ル時ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス
看守者護送者ニシテ囚徒ノ逃走ヲ覺ラサル如キハ實ニ曠職ノ甚シキモノナレ
ハ法律ハ其懈怠ヲ戒メ之ヲ待ツニ刑罰ノ制裁ヲ以テセリ然レトモ此場合ニ於
テハ看守者等ニ囚徒ヲ逃走セシムルノ意思アルニ非ス唯其懈怠ニ因リ逃走ヲ
覺知セサリシニ止マルモノナレハ法律ハ亦其罪狀ニ應シテ之ニ科スルニ單ニ

刑

法

財産刑ノミヲ以テシタリ

本條ハ看守者護送者ノ懈怠ヲ責ムルノ規定ナレハ若シ其懈怠ナカリシトキハ之ヲ處罰スルヲ得ス故ニ逃走セントスル囚徒若クハ囚徒ヲ劫奪セントスル者多數ニシテ看守者看護者ノ力能ク之ヲ制禦スルコトヲ得ザリシ場合ニ於テハ所謂不可抗力ニ因リ其職任ヲ果スラ得サルニ止マルモノナレハ敢テ本條ノ問フ所ニ非サルナリ唯看守者護送者ニシテ其職務ノ時間中他ノ遊戯ニ耽リ若クハ睡眠ヲ貪リ以テ囚徒ノ逃走ヲ覺知セザリシ場合ノ如キハ本條ノ處罰スル所ナリ

刑 法

本條第二項ニ於テ重罪ノ刑ニ處セラレタル囚徒ニ係ル場合ハ其刑ヲ加重セリ是レ既ニ第四百四十七條ノ下ニ於テ解説シタル所ナレハ須ラク之ヲ參看ス可シ
第五百十一條 犯罪人又ハ逃走ノ囚徒及ヒ監視ニ付セラレタル者ナルコトヲ知テ之ヲ藏匿シ若クハ隱避セシメタル者ハ十一日以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
若シ重罪ノ刑ニ處セラレタル囚徒ニ係ル時ハ一等ヲ加フ

刑

法

前條迄ハ囚徒ノ逃走ニ關スル罪ヲ定メタリシカ本條ニ於テハ之ニ異ナリテ罪人ヲ藏匿シ若クハ之ヲ隱避セシメタル者ノ刑ヲ規定シタリ
犯罪人トハ有罪ノ判決ヲ受ケ既ニ其判決ノ確定シタル者ヲ謂フ蓋シ未タ裁判言渡ヲ受ケサル者若クハ既ニ其言渡ヲ受ケタルモ未タ確定セサル者ハ單ニ被告人タルニ過キサレハ之ヲ目シテ犯罪人ト謂フヲ得ス此故ニ未タ未決拘留ノ處分ヲ受ケサル被告人若クハ保釋責付ヲ得タル被告人(既ニ入監ノ處分ヲ受ケ脱獄逃走シタル被告人ニ付テハ下段ニ於テ別ニ其規定アリ)ヲ藏匿隱避スル者アリト雖モ法律ハ之ヲ不問ニ付シ去ラサル可カラス然レトモ例ヘハ現ニ人ヲ殺傷シタル被告人タルコトヲ知リシハ之ヲ藏匿シ若クハ隱避セシムル者ノ如キハ單ニ道德ニ背戾スルノミナラス亦國家ノ裁判權及ヒ刑罰權ノ執行ニ妨害ヲ與フルモノナルヲ以テ社會刑罰權ノ原理ヨリ論スルトキハ必ス之ヲ罰セサル可カラス現ニ佛文草案ニ於テハ「刑事訴追ノ目的ト爲リシ者」トアリテ被告人ヲ藏匿隱避スル者ヲモ處罰スルコトヲ得タリシカ現行法ニ於テハ其文字ヲ削除シ之ヲ「犯罪人」ト改メタルヲ以テ已ムヲ得ス是等ノ徒ヲシテ法網ノ外ニ横行

セシムルニ至レリ或ハ曰ク未ダ有罪ノ確定判決ヲ受ケスト雖モ後日ニ至リ果シテ其者ノ犯罪人ナリシコト分明ナルニ至リシトキハ是レ亦本條ノ所謂犯罪人タルヲ以テ是等ノ者ヲ藏匿隱避シタル者ハ即チ本條ニ依リ之ヲ處罰スルコトヲ得ヘシト蓋シ此說ハ裁判確定ノ形式ニ重キヲ措カス其實躰ノ上ヨリ犯罪人ナルヤ否ヤヲ定メントセルモノナラン然レトモ此說ニ從フトキハ奇怪ナル結果ヲ生ス例ヘハ甲ナル被告人アリテ乙者之ヲ藏匿シタリトセン若シ甲者果シテ犯罪人ナリシトキハ則チ乙者ハ本條ニ依リ之ヲ罰ス可キモ若シ之ニ反シテ甲者ニシテ其罪跡ナカリシトキハ則チ乙者ハ之ヲ不問ニ付セサル可カラス故ニ被告人タル甲者ニ對スル判決ノ確定セサル間ハ其藏匿者タル乙者ノ罪ノ有無ヲ判別スルコト能ハサルノミナラス若シ其間ニ被告人死去スルトキハ遂ニ永劫藏匿者ノ裁判ヲ爲スノ期ナキニ至ル可シ然レハ則チ此場合ニ於テ未必ノ條件ニ繋ゲテ之ヲ罰セン乎即チ嘗テ實例ニモ在リシ如ク先ツ藏匿者ヲ罰シ而シテ後日被藏匿者タル被告人ノ無罪ナリシトキハ更ニ藏匿者ノ爲メ非常上告若クハ再審ヲ爲シテ以テ其前ノ裁判ヲ取消ストセン乎曰ク罪ノ有無未ダ判

刑

法

刑

法

然セサルニ當リ未必ノ條件ニ繋ゲテ人ヲ罰スルカ如キハ刑律ノ本旨ニ於テ許サ、ル所ナルノミナラス此場合ニ於テハ非常上告若クハ再審ノ理由ナキヲ奈何セン何トナレハ前ノ裁判ニ於テハ被藏匿者タル被告人ヲ犯罪人ト認定シテ以テ其藏匿者ヲ罰シタルモノナレハ則チ擬律ノ錯誤アルニ非ス又再審ノ理由タル事實上ノ錯誤ナケレハナリ之ヲ要スルニ佛文草案ノ如クセハ被告人ヲ藏匿スル者ヲモ罰スルコトヲ得ルノミナラス斯カル疑問ノ生スルコト無カリシモ現行法ニ於テハ已ムヲ得ス「犯罪人」トハ既ニ有罪ノ確定判決ヲ受ケタル者ト解セサル可カラサルナリ
逃走ノ囚徒トハ已決未決ノ囚徒ヲ包含ス敢テ解説スルノ要ナカル可シ
監視ニ付セラレタル者ヲ藏匿シ若クハ隱避セシムル場合ハ實際上多ク其例ヲ見サル可シ蓋シ監視ナルモノハ被監視人ニ唯絶對ノ自由ヲ與ヘサルニ過キスシテ半ハ其自由ヲ保有セシムルモノナリ即チ一地方ヲ定メテ自由ニ住居シ旅行スルコトヲ得セシムルモノナレハ刑法附則第二章參看其地方ニ在テハ殆ト通常人ト異ナルコトナシ故ニ被監視人ニ於テモ敢テ藏匿隱避スルノ必要ナク隨テ他人

ニ在テモ亦之ヲ藏匿隱避スル者ナガル可シ但シ監視ニ付セラレタル者ハ酒宴遊興ノ席ニ會同ス可カラサルノ制限アリト雖モ而カモ其席ニ會同スルハ其會同スル被監視人ノ罪アルノミニシテ之ヲ會同セシメタル者ニ藏匿ノ罪アルニ非サルナリ故ニ通例監視ニ付セラレタル者ヲ藏匿スル罪ノ生スル場合ナシト云フモ可ナリ唯監視ニ付セラレタル者カ監視規則ヲ犯シ擅ニ他ノ地方ニ旅行シタルトキハ藏匿スルノ必要ナルヲ以テ此場合ニ於テ始メテ此罪ノ成立スルヲ見ルコトアランノミニ或ハ其住居ノ地方内ニ於テモ警察官吏臨檢ノ際其家宅ニ在ラサル者ハ即チ他ノ家宅ニ潜伏シタル者ニシテ而シテ其之ヲ潜伏セシメタル者ハ本條ノ藏匿者トシテ之ヲ處罰セサル可カラスト論スル者ナキニ非ス然レトモ法律ニ於テ警察官吏ニ被監視者ノ家宅ニ臨檢スルコトヲ許シタルハ刑則第八條ニ唯家宅不侵ノ例外ヲ認メタルニ過キスシテ敢テ被監視者ニ常ニ其家宅ニ在ル可キ義務ヲ命シタルニ非ス故ニ被監視者ハ毎月二度所轄ノ警察所ニ到リ其謹慎ナルコトヲ表スルニ於テハ同上第七條其他ノ時間ハ他ノ家ニ宿泊スルモ其自由ナレハ隨テ之ヲ宿泊セシムル者ニ藏匿ノ罪アリトスルヲ得サル

刑

法

ナリ

本條ノ罪ハ學理上ヨリ之ヲ見ルトキハ一ノ事後從犯ナリ然レトモ法律ハ之ヲ特別ノ罪トシテ以テ之ヲ罰セリ尙ホ刑罰ノ點ニ付キ一言ヲ費サン囚徒ノ逃走ニ關スル罪ニ於テハ法律ハ定役アル重禁錮ヲ以テ之ヲ罰シタルシカ本條ノ罪ニ付テハ草案ニ於テ重禁錮ノ規定ナリシニモ拘ハラス特ニ之ヲ改メテ定役ナキ輕禁錮ヲ以テ之ヲ罰スルコトセリ蓋シ囚徒ヲ逃走セシムル者ノ如キハ破廉恥ノ所爲ナルモ本條ノ藏匿若クハ隱避ノ所爲ハ多少他ノ危急ヲ憫ミ情義上之ヲ爲スモノニシテ所謂窮鳥入懷獵夫不殺之底ノ慈悲心ニ出ツルモノナレハ其犯人ノ意思ニ於テ道德ニ背戾スルコト至テ輕ケレハナリ然レトモ犯罪ノ性質如何ヲ問ハス總テ之ヲ罰スルニ輕禁錮ヲ以テシタルシハ余ノ服スル能ハサル所ナリ現ニ夫ノ強盜犯ノ如キ實際上親分子分等ノ關係ヨリ常ニ之ヲ藏匿隱避スル者アリ是等ノ者ヲ罰スルニ定役ナキ輕禁錮ヲ以テスルハ實ニ罪刑ノ其配ヲ得サルノミナラス亦以テ懲戒ノ實ヲ舉クルコト難カル可シ故ニ余ハ政事犯ノ如キ廉恥ヲ破ラサル犯罪人

刑

法

刑

法

ヲ藏匿隱避スル者ハ之ヲ罰スルニ輕禁錮ヲ以テシ其他ノ犯罪ニ付テハ寧ロ草案ノ如ク重禁錮ヲ以テ之ヲ處分スルヲ立法上其當ヲ得タルモノト信ス

第一百五十二條 他人ノ罪ヲ免レシメシムルヲ圖リ其罪證ト爲ル可キ物件ヲ隱蔽シタル者ハ十一日以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

本條モ亦一種異ナリタル罪ヲ規定セリ即チ前數條ニ於テハ囚徒ノ逃走ニ關スル罪及ヒ罪人藏匿ノ罪ヲ定メタリシカ本條ニ於テハ之ニ異ナリテ罪證隱蔽ノ罪ヲ掲ケタリ

罪證隱蔽ノ罪ニ付テハ佛文章案ニ於テハ極メテ狹ク之ヲ規定シ單ニ殺人罪ノ死屍ヲ隱蔽シタル場合ノミヲ掲ケタリシカ現行法ニ於テハ之ヲ擴メテ一般ノ犯罪ニ及ホセリ蓋シ殺人罪ノ死屍ハ無上ノ證據タル可キモ其他ノ犯罪ニ付テモ亦各有力ナル證據アリ獨リ殺人罪ニ付テノミ其罪證隱蔽ノ所爲ヲ罰シ其他ノ犯罪ニ於テ之ヲ不問ニ付スルノ理ナシ是レ現行法ノ如ク修正セラレタル所以ナリ

抑罪證隱蔽ノ罪ヲ罰スル所以ノモノハ裁判權ノ執行ニ妨害ヲ與フルニ出ツ故

刑

法

ニ罪證隱蔽ノ罪ノ生スルハ必ス其裁判ノ確定前ニ限ル可ク其確定後ニ於テハ假令罪證ヲ隱蔽スルモ以テ此罪ノ成立スル理ナキナリ

法律ニハ罪證ト爲ル可キ物件ヲ隱蔽シタル者トノミ規定シテ其他ノ事ニ及ハス故ニ同シク罪證ヲ隱蔽スルモ有形ノ物件ニ非サレハ本條ヲ以テ之ヲ處罰スルコトヲ得ス蓋シ有形ノ物件以外ノモノニシテ罪證ト爲ル可キモノ尠ナカラス例ヘハ犯罪ノ場所ニ淋漓タル流血ヲ留ムルカ如シ此流血ヲ拭ヒ去ルトキハ則チ罪證ヲ隱蔽スルモノナレバ所謂物件ニ非サルヲ以テ之ヲ不問ニ付スルノ外ナカル可シ但物件ニ非サルモノ人證ニ付テハ偽證罪ノ條下ニ於テ別ニ其規定アリ就テ之ヲ參看ス可シ第二百五十二條

所謂隱蔽トハ強チ物件ヲ其儘蔽ヒ隱スノ意ニ非スシテ之ヲ毀棄滅盡スルノ義ヲモ含ム故ニ例ヘハ人ヲ殺傷シタル棍棒ヲ燒燬スルノ所爲モ亦本條ノ制裁ヲ受クルモノト知ル可シ

法律ハ犯罪人カ刑罰ノ責任ヲ免カレンカ爲メ自ラ其罪證ト爲ル可キ物件ヲ隱蔽スルモ之ヲ罰セス蓋シ自己ノ罪跡ヲ晦マサンカ爲メ其證據物件ヲ隱蔽スル

ハ惡ム可キノ所爲ナリト雖モ而ガモ刑罰ノ苦痛ヲ免カレントスルハ人情ノ已ムヲ得サル所ナルノミナラス罪證ノ隱蔽ハ夫ノ囚徒ノ逃走ト異ニシテ國家ノ威權ヲ甚如シ以テ其所爲ニ抵抗スルモノニ非ス即チ同シク刑罰ノ責任ヲ免カレントスル人情ノ自然ニ出ツルモノナリト雖モ囚徒ノ逃走ハ既ニ國家ノ權力ヲ以テ其自由ヲ拘束シ監禁ノ處分ヲ經タル後ニ係ルモ罪證ノ隱蔽ハ未タ其證據物件ニ對シ國家ノ權力ヲ加ヘサル前ニ在ルモノナレハ則チ彼此ノ間其徑庭アリ是レ法律カーハ之ヲ處罰シ一ハ之ヲ寬假シタル所以ナリ然レトモ他人ノ罪ヲ免カレシメンコトヲ圖リ其罪證ト爲ル可キ物件ヲ隱蔽スルノ所爲ハ人情ノ已ムヲ得サルニ出ツルモノニ非ス俗ニ所謂いらぬ世話ヲ燒キ以テ裁判權ハ執行ヲ妨害スルモノナレハ未タ國家カ其證據物件ニ干涉セサル前ト雖モ法律ハ之ヲ處罰セリ但シ自己ノ罪證ヲ隱蔽センカ爲メニ出ツル所爲ナルモ若シ其物件ニシテ既ニ國家ノ權内ニ屬シ封印ヲ施シアルカ又ハ未タ國家ノ處分ヲ經サルモ他人ノ所有物ナリシトキハ或ハ封印破棄ノ罪ト爲リ或ハ竊盜若クハ物件毀壞ノ罪トナルコトアル可シ

刑

法

第五百三十三條 前二條ノ罪ヲ犯シタル者犯人ノ親屬ニ係ル時ハ其罪ヲ論セス

親屬間ニ於テ互ニ惡事ヲ容隱スルハ道德ヲ命スル所ナリ罪證ヲ隱蔽シ犯人ヲ藏匿スルハ法律ノ禁スル所ナリ今夫レ親屬ノ犯人逃レ來リ哀ヲ乞フニ際シ之ヲ藏匿シ若クハ其罪證ヲ隱蔽セン乎法律ノ禁止ニ背クヲ奈何然ラハ之ヲ拒絕セン乎道德ノ命令ニ戾ルヲ奈何局ニ當ル者誰レカ其去就ニ感ハザランヤ是ニ於テ乎我法律ハ步ヲ道德ニ讓リ親屬ノ間ニ於テハ假令犯人ヲ藏匿シ苦クハ其罪證ヲ隱蔽スルモ其罪ヲ論セスト明言シ以テ道德上ノ義務ヲ全フセシメンコトヲ期セリ

刑

法

自己ノ親屬ト他人ト共犯ノ場合ニ於テ之ヲ藏匿シ若クハ其罪證ヲ隱蔽シタルトキハ如何ニ之ヲ決ス可キ乎曰ク此場合ニ於テハ區別シテ之ヲ論セサル可カラス例ヘハ甲者刀ヲ以テ人ヲ殺シ乙者ハ其從犯トシテ之ヲ幫助シ而シテ丙者ハ乙者ノ親屬ナルヲ以テ其罪證タル刀ヲ隱蔽シタルトセン此場合ニ於テ假令其刀ハ乙者ノ興リ知ラザリシモノニモセヨ事件全體ニ付テノ罪證タルヲ以テ丙者ハ即チ自己ノ親屬ノ爲メニ之ヲ隱蔽シタルモノトシテ本條ニ依リ不論罪

ト爲ス可キモ若シ之ニ反シテ丙者カ甲乙兩人ヲ隱匿シタルトキハ則チ乙者ニ付テハ親屬ナルヲ以テ之ヲ不論罪ト爲ス可キモ甲者ニ對シテハ他人ナルヲ以テ此ノ部分ニ於テハ罪人藏匿ノ罪ヲ成スモノトス

第四節 附加刑ノ執行ヲ遁ル、罪

既ニ前節ノ下ニ於テ主刑ノ執行ヲ遁ル、ノ罪ヲ觀タリ本節ニ於テハ附加刑ノ執行ヲ遁ル、ノ罪ヲ講セン抑附加刑ニ六種アリ剝奪公權、停止公權、監視、禁治産、罰金、沒收是ナリ我刑法ハ前三者ニ付テハ其執行ヲ遁ル、ノ罪ヲ規定シ後三者ニ付テハ其規定ヲ設ケス蓋シ禁治産者カ其執行ヲ遁レ財産ヲ管理シ處分スルモ民法上其効ナク又罰金ニ付テハ法律上換刑ノ途アルヲ以テ其執行ヲ遁ル、ノ場合ナク而シテ沒收ニ付テハ其言渡ト同時ニ其物ノ所有權ハ國家ニ移轉スルヲ以テ是レ亦其執行ヲ遁ル、ノ場合ナケレハナリ唯剝奪公權、停止公權及ヒ監視ノ三者ニ在テハ其執行ヲ遁ル、ヲ得ヘク又其執行ヲ遁ル、ニ於テハ他ノ害ト爲ルヲ以テ法律ハ特ニ其罪ヲ規定シ以テ之テ處罰セリ

第一百五十四條 公權ヲ剝奪モラレ又ハ公權ヲ停止セラレタル者私ニ其權ヲ行ヒタル時ハ

刑

一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

公權ヲ剝奪セラレ若クハ停止セラレタル者私ニ其權ヲ行フトキハ國家ニ害アリ故ニ法律ハ之ヲ罰セリ所謂私ニトハ法律上ノ意味ニテハ只公ニ對スル私ノ義ニ非スシテ次ノ第五節ノ私ノ字ト同シク即チ不正ニ其事ヲ行フノ意ナリ蓋シ不正ニ其權利ヲ行フトハ自ラ進ンテ其無キ權利ヲ有ルカ如クニ見セ掛ケ以テ他ノ其權利ヲ有スル者ト同一ノ地位ニ立タントスルノ謂ニシテ例ヘハ議員選舉ノ際ニ於テ既ニ公權ヲ剝奪若クハ停止セラレタルニ拘ハラズ自ラ進ンテ其候補者ト爲リ以テ其當選ヲ爭フカ如シ但余ハ特ニ自ラ進ンテ其權利ヲ行フ云々ト言ヘリ故ニ自ラ進ンテ其選舉ヲ爭フタルニ非スシテ他ヨリ選舉セラレ而シテ其剝奪、停止ノ事情ヲ述ヘテ之ヲ辭退セサルニ止マル場合ハ本條ニ所謂私ニ其權ヲ行フタル者ト謂フヲ得ス何トナレハ自己ノ營惡ヲ表白セサルヲ責ムルハ即チ難キヲ人ニ責ムルモノニシテ法律ノ爲ス可キ所ニ非サレハナリ

第一百五十五條 監視ニ付セラレタル者其規則ニ違背シタル時ハ十五日以上六月以下ノ重

禁錮ニ處ス

本條ニ付テハ格別説明ス可キ點ナシ夫ノ特別監視モ本條ニ包含スルヤ否ヤノ疑問アルノミ從來ノ實例ニ於テハ特別監視規則ノ違反者モ亦本條ニ依リ處罰シ來リシカ余ハ常ニ反對ノ見解ヲ有セリ蓋シ本節ノ表題ニモアルカ如ク本條ハ附加刑ノ執行ヲ通ル、ノ罪ナリ然ルニ所謂特別監視ナルモノハ我刑法附加刑ノ一ニ位スルモノニ非サレハナリ 第十條第五十五條附則第二章及第三章參看

第百五十六條 前二條ノ罪ハ其刑期限内再ヒ犯シタル時ニ非サレハ再犯ヲ以テ論スルコトヲ得ス

本條ハ第百四十三條ト同義ナルヲ以テ別ニ之ヲ説明セス

第五節 私ニ軍用ノ銃礮彈藥ヲ製造シ及ヒ所有スル罪

軍用ノ銃礮彈藥即チ專ラ陸海軍ノ用ニ供スル物品ヲシテ普通人民ニ其製造所有ノ自由ヲ與フルトキハ其禍蓋シ測ル可カラサルモノアリ抑銃礮彈藥ハ凶器ニシテ其用一ニ戰亂暴動等ニ在リ故ニ何人モ之ヲ製造シ所有スルコトヲ得ルトキハ不逞ノ徒四方ニ蜂起シ内亂外患一揆騷擾等踵ヲ接シテ續出スルニ至ラ

刑

ン左レハ政府ニ於テハ國家ノ秩序ヲ維持シ人民ノ安寧ヲ保護センカ爲メ是等ノ物ノ製造所有ノ權ヲ一ニ自己ノ獨專内ニ移シ以テ人民ヲシテ恣ニ之ニ干與スルコトヲ得サラシメタリ然ルニ若シ私ニ之ヲ製造シ所有スルトキハ一ハ政府ノ獨專權ヲ侵シ一ハ不測ノ禍ヲ醸スニ至ルヲ以テ嚴ニ之ヲ處罰セサル可カラス是レ即チ本節ノ設ケアル所以ナリ

第百五十七條 官命ヲ受ケス又ハ官許ヲ得スシテ陸海軍ノ用ニ供スル銃礮彈藥其他破裂質ノ物品ヲ製造シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス其之ヲ輸入シタル者亦同シ

前項ノ物品ヲ私ニ販賣シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

法

本條第一項ニ於テハ軍用ノ物品ヲ製造輸入スル者ノ罪ヲ規定シ第二項ニ於テハ其物品ヲ販賣スル者ノ罪ヲ規定セリ
銃礮彈藥ニ付テ別ニ説明ヲ要セス其他破裂質ノ物品トハ總テ一般ノ破裂ノ物品ヲ謂フニ非スシテ是レ亦陸海軍ノ用ニ供スルモノナラサル可カラス即チ水

刑

雷火又ハ地雷火ノ如キモノニシテ夫ノ通常ノダイナマイトノ如キモノハ本條ノ包含スル所ニ非サルナリ蓋シ「ダイナマイト」ハ破裂質ノ物品タルニ相違ナシト雖モ是レ陸海軍ノ專用物ニ非ラスシテ礦山事業等ニモ用ユルモノナレハナリ但シ是等ノ物品ニ付テハ特別ノ法律アリ即チ爆發物取締罰則ニ依リ以テ之ヲ處分ス可キナリ

法

軍用ノ物品ハ通例政府ニ於テ之ヲ製造スト雖モ時ニ或ハ人民ニ其製造ヲ命シ或ハ之ヲ許可スル場合アリ是等ノ場合ニ於テハ政府ノ命令ニ從ヒ又ハ其許可ヲ受ケテ製造スルモノナレハ法律ノ之ヲ罰セサルヤ言フ歟タス唯此等ノ手續ヲ經ス所謂私ニ之ヲ製造スル者ノミ之ヲ罰ス製造トハ即チ作り出スノ義ニシテ無キ物ヲ拵ヘルノ謂ナリ輸入モ亦製造ト同シク從來我國ニ存在セサルモノヲ新ニ外國ヨリ舶載シ來ルモノナレハ則チ我國ニ於テ之ヲ製造スルト一般ナリ故ニ法律ハ二者ヲ罰スルニ同一ノ刑ヲ以テシタリ
陸海軍ノ用ニ供スル云々トハ現ニ今日陸海軍ノ用ニ供スル銃礮等ニ限ルノ謂

刑

法

ナル乎學者中此疑問ニ對シ然リ現在ノ軍用品ナラサル可カラストノ說ヲ唱フル者アレトモ余ハ現在ノ軍用品ニ非サルモ其性質陸海軍ノ用ニ供スルニ足ルモノナレハ則チ本條ニ包含スト思惟ス蓋シ法文ニハ用ニ供スル物品トアリテ用ニ供ス可キ物品ト非サルヲ以テ廣ク之ヲ解ス可カラサルニ似タリ然レトモ區々文字ノ上ニ拘泥シテ法律ノ精神如何ヲ顧ミサルハ善ク法ヲ解スル者ニ非ス抑本條ヲ設ケタル所以ハ即チ公安ヲ保護セントノ主旨ニ出ツルモノナレハ其銃礮等ノ現用品ナルト否トヲ問フノ要ナシ例ヘハ今日我陸軍ニ於テハ專ラ村田銃ヲ用ユト雖モ而カモ尙ホ此外泰西諸國ノ發明ニ係ル銃礮抄ナカラス是等ノ物品中我村田銃ニ優ルコトナキモ亦決シテ之ニ劣ルコトナキ者アラン特ニ輓近軍事上ノ進歩著シク今日ノ現用品ヨリモ一層精巧優等ナルモノヲ發明スル者ノ出シモ知ル可カラス然ルニ是等ノ物品ヲ私ニ製造輸入スル者アルニ當リ若シ本條ヲ以テ之ヲ處罰スルコトヲ得ストセハ其禍害實ニ測ル可カラス加之論者ノ如ク本條ヲ狹義ニ解シ之ヲ現用品ニ限ルトセハ故ラニ其現用品ニ幾分ノ變更ヲ加ヘ以テ之ヲ製造スル者ヲモ尙ホ本條ニ包含セスト論決セサル

刑

法

可カラサルニ至ラン豈ニ斯クノ如キノ理アランヤ本條ハ必ス之ヲ廣義ニ解セ
 サル可カラス故ニ夫ノ今日既ニ廢物ニ屬シタル和銃(火細銃)ノ如キモ亦本條ノ
 支配スル所ナリト知ル可シ但和銃ニ付テハ明治五年第二十八號ノ布告ニ於テ
 四匁八分以下ノ者ハ軍用銃ニ非ス獵銃ナリト定メタルヲ以テ若シ四匁八分以
 下ノ銃砲ヲ私ニ製造スル者アルモ本條ヲ以テ之ヲ罰スルコトヲ得ス唯該布告
 ニ依リ之ヲ處分スルコトヲ得ルノミ
 私ニ販賣スル者ハ之ヲ製造輸入スル者ト異ニシテ既ニ他ノ製造輸入シタルモ
 ノヲ運轉播布スルニ過キササルモノナレハ其罪狀輕シ故ニ法律ハ販賣者ヲ罰ス
 ルニ製造者輸入者ノ刑ニ半ハスルノ刑ヲ以テシタリ
 若シ自ラ製造輸入シ而シテ又自ラ其物品ヲ販賣シタル者アルトキハ本條第一
 項及ヒ第二項ノ二罪トシテ以テ之ヲ罰スル乎曰ク否此場合ニ於テハ單ニ第一
 項ノ二罪タルニ過キス蓋シ此場合ニ於ケル販賣ノ所爲ハ其製造輸入ノ結果タ
 ルニ外ナラスシテ所謂想像上ノ數罪俱發タルニ止マレハナリ尤モ此場合ニ於
 テモ時ニ第二項ノ販賣罪ノミヲ以テ之ヲ處罰スルコトナキニ非ス即チ其製造

刑

法

輸入ノ所爲ハ三年以前ニ在リテ既ニ公訴ノ時効ニ罹リタルモ其販賣ノ所爲ハ
 未タ時効ノ期間ヲ經過セサルトキノ如キ是ナリ此場合ニ於テハ製造輸入ノ所
 爲ハ時効ニ因リ之ヲ追究スルヲ得スト雖モ販賣ノ所爲ハ未タ時効ヲ經サルヲ
 以テ其製造輸入ノ如何ヲ問ハス之ヲ罰セサル可カラサルナリ
 本法ニハ所々ニ販賣交換ナル文辭アリテ販賣ト交換トハ之ヲ同一ニ罰セリ第三百九十二條
第三百九十三條然レトモ本條ニ於テハ交換ノ文辭ナキヲ以テ假令軍用ノ銃砲彈
 藥等ヲ交換スルモノアルモ之ヲ處罰スルコトヲ得ス蓋シ販賣ト交換トハ二者
 其性質ヲ異ニスレハコソ法律ニ於テハ特ニ之ヲ區別シテ記載シタルナレ左レ
 ハ本條ニ限り交換ヲ以テ販賣中ニ包含セシムルコトヲ得サルナリ
 第五百五十八條 前條ノ罪ヲ犯スト雖モ職工又ハ雇人ニシテ止メ正犯ノ使令ニ供シタル者

ハ各本刑ニ照シ二等ヲ減ス

本條ニ於テハ前條ニ規定シタル製造輸入及ヒ販賣ノ所爲ニ關係シタル職工又
 ハ雇人ノ刑ヲ揭ケタリ蓋シ職工雇人等ニ於テ其情ヲ知り製造輸入等ノ所爲ニ
 從事スルトキハ總則ノ規定ニ依リ其雇主等ト共ニ正犯ヲ以テ之ヲ論セサル可

刑

カラス然レトモ職工、雇人ハ單ニ其賃銀ヲ得ルノ目的ヲ以テ雇主等ノ使役ニ服スルニ過キサルモノナレハ其社會ヲ害シ道德ニ背クコト至テ輕シ是ヲ以テ本條ニ於テ職工、雇人ハ正犯ナルニモ拘ハラス前條ノ刑ニ照シ各二等ヲ減シテ之ヲ罰スルコト、爲セリ是レ猶ホ國事犯ニ於ケル附和隨行者等ノ正犯ナルニモ拘ハラス之ヲ輕ク罰スルカ如シ

第百五十九條 前二條ノ罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

本條ニ付テハ別ニ説明ヲ要セス

法

第百六十條 第百五十七條ニ記載シタル物品ヲ私ニ所有シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

抑、軍用ノ銃砲彈藥等ハ其物自ラ危險ナルモノナレハ之ヲ人民ニ所有セシム可カラス故ニ若シ私ニ之ヲ所有スル者アルトキハ法律ハ本條ヲ以テ之ヲ處罰スルコト、爲セリ
所有トハ民法上ノ所謂所有ト異ナレリ佛文章案ニハ「ポッセシヨン」(占有ノ意)ト有

刑

リシヲ之ヲ譯シテ所有ト爲セリ起草者ノ意思ハ民法上ノ所有ニ非スシテ占有即チ握持ニ在リ故ニ法文ノ如何ヲ問ハス必ス之ヲ占有ノ意ニ解セサル可カラス蓋シ用語上聊カ妥當ヲ欠クノ嫌アリト雖モ草案ノ意思ヲ變更シタル可シト見ユルノ點秋毫モ存在スルコト無ケレバナリ
占有ノ原因ハ法律之ヲ問ハス兎ニ角現在之ヲ所持スル者アレハ法律ハ輒チ之ヲ處罰ス故ニ他人ヨリ之ヲ買入レ若クハ讓受クル者ハ勿論他ヨリ之ヲ竊取シテ所持スル者モ亦本條ニ包含ス加之政府ノ許可ヲ得テ之ヲ販賣スル者ノ店舖ニ就キ之ヲ買取ル者ト雖モ若シ其手續ヲ經サリシ場合若クハ相續ニ因リ先代ヨリ讓受タル者ノ如キ孰レモ皆本條ニ觸ル、所ナリト知ル可シ

法

第百六十一條 第百五十七條ニ記載シタル物品ノ製造ニ供シタル器械ニシテ單ニ其用ニ

供ス可キ者ハ何人ノ所有ヲ問ハス之ヲ沒收ス

本條ハ沒收ノ特例ヲ定メタルモノナリ總則ノ規定第四十四條ニ依レハ犯罪ノ用ニ供シタル物件ハ犯人ノ所有ニ係リ又ハ所有主ナキトキノ外之ヲ沒收スルコトヲ得サルヲ以テ軍用ノ銃砲彈藥等ヲ製造シタル器械モ若シ總則ノ規定ニ從フ

刑

トキハ其之ヲ製造シタル犯人ノ所有ニ係ルトキニ非サレハ之ヲ沒收スルコトヲ得サルニ至ル然レトモ是等ノ物品ヲシテ民間ニ存在セシムルトキハ犯罪ノ媒介ト爲リテ何時危險ヲ醸生スルニ至ルヤモ圖ル可カラサルヲ以テ本條ニ於テ一ノ特例ヲ沒ケ假令他人ノ所有ニ係ル場合ト雖モ仍ホ之ヲ沒收スルコト、爲セリ尤モ他ノ用ニモ供シ得ヘキモノニ付テハ總則ノ規定ニ從ハサル可カラス

銃砲彈藥等危險物ノ取締ニ付テハ刑法上以上掲ケタル二三個條ノ規定アルニ過キス然レトモ尙ホ此外火藥取締罰則及ヒ爆發物取締罰則等ノ特別法アリテ刑法ト共ニ並ヒ行ハレ以テ其取締ヲ嚴重ニセ

法

第六節 往來通信ヲ妨害スル罪

水陸ノ道路ハ公衆ノ往來スル所ニシテ郵便電信ハ公衆ノ音信ヲ通スル器械ナリ然ルニ若シ其通路及ハ郵便電信ニ妨害ヲ加フルトキハ之ヲ小ニシテハ人民相互ノ交際ヲ妨ケ之ヲ大ニシテハ物貨ノ流通ヲ塞キ軍隊ノ往來ヲ妨クル等要スルニ公共ノ利益ヲ害スルニ至ル是レ本節ノ規定アル所以ナリ

第六十二條 道路橋梁河溝港埠ヲ損壞シテ往來ヲ妨害シタル者ハ二月以上二年以下ノ

重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

刑

法律ハ道路橋梁河溝及ヒ港埠ノ四者ヲ擧ケテ其他ニ及バス蓋シ此四者ハ公衆ノ往來スル主要ノモノナリト雖モ尙ホ此外人民ノ往來ニ供スルモノアリ即チ夫ノ渡船場ノ舟ノ如キ橋梁ニ代ニテ用ユル所ノモノニシテ其効殆ト橋梁ト同一ナリ隨テ其之ヲ損壞シタルトキハ妨害ニ於テモ亦敢テ橋梁ヲ損壞シタル場合ト異ナルコトナシ然レトモ本條ニ於テハ其規定ナキヲ以テ之ヲ處罰スルニ由ナキナリ

法

法律ニハ道路……ヲ損壞シテ云々ト規定セリ蓋シ損壞トハ其物ノ形狀ヲ變セシメ以テ其用ヲ爲サ、ルニ至ラシムルノ謂ニシテ例ハ道路ナレハ其平坦ナルモノヲ高低ニシ橋梁ナレハ之ヲ伐リ逸ツスカ如シ然レトモ所謂損壞以外ノ方法ニ因リ以テ往來ノ妨害ヲ爲スニ至ルコトアリ例ハ道路ニ大木ヲ伐リ横ヘルカ如シ但此場合ニ於テモ仍ホ之ヲ損壞ナリト謂フハ牽強附會ニ涉ルヲ以テ之ヲ無罪トスルノ外ナカル可シ

刑

法

本條ハ天下ノ公道タル道路橋梁等ヲ損壞シテ以テ公衆ノ往來ヲ妨害スル者ヲ罰スルニ在リ故ニ夫ノ一個人ノ用ニ供スル邸内ノ路次若クハ庭園ノ橋梁等ヲ損壞スルモノアルモ本條ヲ以テ之ヲ處罰スルコトヲ得ス然レトモ一個人ノ所有ニ屬スル道路橋梁ナルモ若シ其所有主ニシテ明ニ公衆ノ通行ニ供シタルモノナルカ又ハ暗ニ其使用ヲ許シタルモノニシテ既ニ從來衆人ノ往來セルモノニ係ルトキハ本條ヲ以テ之ヲ處分セサル可カラス何トナレハ此場合ニ於テハ其妨害ノ及フ所敢テ天下ノ公道ト擇フコト無ケレハナリ左レハ本條ノ罪ノ成否ノ岐ル、黜ハ其道路橋梁等ノ公衆ノ用ニ供スルモノナルト否ヤトニ在リテ敢テ其所有主ノ國タルト將タ一個人タルトニ存セサルナリ唯普通ノ場合ニ於テハ一個人ノ所有ニ屬スルモノヲ包含セスト謂フノミ

法文ニハ損壞シテ往來ヲ妨害シタル者云々トアリ故ニ道路等ヲ損壞スルモ往來ヲ妨害スルノ結果ヲ生セサルトキハ本條ノ罪ヲ構成セス例ヘハ橋梁ヲ切斷スルモ幸ニシテ通行人ノ無キトキハ未タ本條ヲ以テ之ヲ處分スルコトヲ得サル乎曰ク否此場合ニ於テハ既ニ往來ヲ妨害シタルモノナリ何トナレハ其實害

刑

法

ノ有無ハ兎モ角既ニ橋梁ヲ切斷シタルトキハ其レト同時ニ公衆ノ用ニ供スル物ノ性質ヲ失ハシメタルモノナレハナリ殊ニ本條ノ罪ハ其未遂犯ヲ罰スルモノナルニ若シ損壞ノ事實アルモ未タ人ノ通行セサル前ハ其罪成立セストセハ其未遂犯ノ場合ハ何レノ時期ヲ想像スルコトヲ得ルヤ遂ニ之ヲ知ルコトヲ得サルニ至ラン佛文草案ニハ往來ヲ妨害シ得ヘク之ヲ損壞シタル者ハ云々トアリタリ是レ即チ其損壞ノ程度ヲ示シタルモノナリ故ニ其損壞ノ程度少クシテ未タ往來ヲ妨害スルニ足ラサルトキハ之ヲ罰スルコトヲ得サルモ若シ其損壞大ニシテ往來ヲ妨害スルニ足ルトキハ假令未タ實害ノ生セサル前ト雖モ之ヲ罰スルノ法意ナリキ而シテ本法ニ於テモ亦其精神ハ敢テ之ト異ナルコトナカル可シ是レ前ノ論決ヲ與フル所以ナリ

本條ノ罪ニ付テハ犯人ノ意思ノ如何ハ之ヲ問フヲ要セス草案ニハ故意云々ノ文字アリシモ其必要ナキヲ以テ之ヲ省キタリ即チ唯損壞スルノ意思アリテ之ヲ損壞スレハ足レルモノニシテ敢テ往來ヲ妨害スルノ意思ヲ要セサルナリ是レ後ノ汽車船舶ノ往來ヲ妨害スル罪ト異ナレル所ナリ

第六十三條 偽計又ハ威力ヲ以テ郵便ヲ妨害シ若クハ之ヲ阻止シタル者ハ亦前條ニ同シ

本條ハ郵便妨害ノ罪ヲ定メタリ所謂偽計トハ即チ虚偽ノ計畧ヲ構ヘテ郵便脚夫ヲ欺キ以テ故ラニ迂路ヲ取ラシムルカ如キモノニシテ而シテ威力トハ暴行脅迫ヲ加ヘ以テ之ヲ阻止スルカ如キモノヲ謂フ蓋シ是等ノ事アルトキハ營ニ其脚夫及ヒ發信人、受信人ニ妨害ヲ與フルノミナラス遂ニハ一般郵便事務ノ信用ヲ失ヒ公衆ノ妨害ト爲ルニ至ル是レ法律カ往來妨害ノ罪ト之ヲ同一ニ罰スル所以ナリ

法律ハ郵便妨害ノ方法ヲ偽計、威力ノ二者ニ限レリ是レ實ニ粗笨ナル規定ト謂ハサルヲ得ス何トナレハ尙ホ此外ニ郵便ヲ妨害スルノ方法多々アレハナリ例ヘハ郵便物ヲ搭載シタル馬車ヲ損壞スルカ如キ又ハ路傍ニ備ヘ置ケル郵便箱ヲ破毀スルカ如キ是ナリ然レトモ今日ニ於テハ夫ノ郵便條例ナル特別法ノ在ル有リテ是等ノ闕點ヲ補ヘルヲ以テ敢テ實際上ニハ差支ナカル可シ

第六十四條 電信ノ器械柱木ヲ損壞シ又ハ條線ヲ切斷シテ電氣ヲ不通ニ致シタル者ハ

三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

若シ器械柱木條線ヲ切斷シテ電信ノ妨害ヲ爲スト雖モ不通ニ至ラサル時ハ一等ヲ減ス

本條ニ於テハ電信妨害ノ罪ヲ定メタリ電信妨害ノ罪ニ付テハ法律ハ郵便妨害ノ罪ニ反シテ器械柱木及ヒ條線ニ對スル所爲ノミヲ規定セリ蓋シ電信ハ郵便ト異ナリテ主トシテ器械等ニ依リ以テ其用ヲ達スルモノナルカ故ニ法律ハ特ニ此點ニノミ重キヲ措キタルモノナラン然レトモ是レ亦緻密ナル規定ト謂フヲ得ス何トナレハ電信ニ付テモ亦其接手若クハ配達人等ニ對シ偽計ヲ施シ又ハ威力ヲ加ヘ以テ之ヲ妨害阻止スル場合アレハナリ但本條ニ付テモ亦電信條例ナル特別法ノ存スルアリテ其闕漏ヲ補ヘリ

同シク是レ通信ヲ妨害スルノ罪ナリ然ルニ本條ノ罪ハ前條ノ罪ニ比シテ其刑ノ重キ所以ノモノニ蓋シ郵便ノ妨害ハ其及フ所一時ニ止マルモノナリト雖モ之ニ反シテ電信ノ妨害ハ修繕ノ時間等長ク隨テ其害ノ及フ所多シトスルニ出テタルモノナラン歟

法律ハ電氣ヲ不通ニ致スト否トニ因リテ其刑ニ輕重ノ別ヲ設ケタリ蓋シ器械

法

刑

法

刑

柱木條線ヲ功斷スレハ則チ其時ニ於テ犯罪成立シ而シテ電氣ヲ不通ニ致スト
否トハ單ニ其結果タルニ過キス然ルニ本條ニ於テ其結果ノ如何ニ因リ刑ニ輕
重ノ區別ヲ設ケタルハ夫ノ毆打創傷ノ罪ト共ニ我刑法上ノ特例ナリト謂ハサ
ルヲ得ス

既ニ其結果ノ如何ヲ見テ以テ之ヲ罰スルモノナルカ故ニ犯人ノ意思ノ如何ハ
法律ノ問フ所ニ非ス即チ第六十二條ノ罪ト同シク單一ノ故意アレハ足レル
モノニシテ敢テ電氣ヲ不通ニ致スノ意思アルヲ要セサルナリ

第六十五條 汽車ノ往來ヲ妨害スル爲メ鐵道及ヒ其標識ヲ損壞シ其他危險ナル障礙ヲ
爲シタル者ハ重懲役ニ處ス

第六十六條 船舶ノ往來ヲ妨害スル爲メ燈臺浮標其他航海ノ安寧ヲ保護スル標識ヲ損
壞シ又ハ詐僞ノ標識ヲ點示シタル者ハ亦前條ニ同シ

第六十五條ニ於テハ汽車ノ往來ヲ妨害スル罪ヲ規定シ而シテ第六十六條
ニ於テハ船舶ノ往來ヲ妨害スルノ罪ヲ掲載セリ法律ハ瀛車若クハ船舶ニ對ス
ル妨害ノ罪ニ付テハ前數條ノ罪ト異ニシテ之ヲ罰スルニ重罪ノ刑ヲ以テセリ

刑

法

蓋シ瀛車若クハ船舶ハ旅客及ヒ貨物ヲ搭載セルモノナルカ故ニ(貨物ノミノ運
送ノ場合ト雖モ其運轉手等ハ必ス乘リ込ミ居ルナリ)若シ其往來ヲ妨害スルト
キハ營ニ鉅萬ノ財貨ヲ損傷スルノミナラス貴重ナル吾人ノ身体生命ヲ戕害ス
ルニ至ルノ恐アルヲ以テ其危險夫ノ郵便電信等ニ對スル妨害ト同日ノ談ニ非
ス是レ法律カ特ニ之ヲ重罪トシテ嚴罰スル所以ナリ

瀛車ノ往來ヲ妨害スル罪ニ付テハ法律ハ鐵道若クハ危險豫防ノ爲メニ設ケタ
ル標識ヲ損壞スルノ所爲並ニ危險ナル障礙例ヘハ軌道内ニ大石ヲ投スルカ如
キ所爲ヲ罰シ而シテ船舶ノ往來ヲ妨害スル罪ニ付テハ燈臺浮標若クハ其他ノ
標識ヲ損壞スルノ所爲並ニ詐僞ノ標識ヲ點示スルノ所爲ヲ罰セリ按スルニ此
兩條ノ規定ニ付テハ各其闕點アリ先ツ第六十五條即チ汽車ノ往來ヲ妨害ス
ル罪ニ付テハ其標識ヲ損壞スル所爲ノミヲ見テ詐僞ノ標識ヲ點示スル場合ヲ
掲ケス故ニ例ヘハ正當ノ標識ナキ場所ニ詐僞ノ標識ヲ點示シ以テ其往來ヲ妨
害スル者アルモ之ヲ處罰スルコトヲ得ス蓋シ正當ノ標識アル場所ニ詐僞ノ標
識ヲ點示シタル者ハ所謂危險ナル障礙ヲ爲シタル者トシテ之ヲ論スルコトヲ

刑

法

得ルモ元來標識ナキ場所ニ詐僞ノ標識ヲ點示シタル者ハ之ヲ危險ナル障礙ヲ爲シタル者ト謂フコトヲ得ス何トナレハ障礙ナル文字ハ他ノ物ヲ用ヰ以テ本來ノ物ノ用ヲ爲サ、ラシムルノ意味ヲ有スルモノナレハ元來標識ナキ場所ニ詐僞ノ標識ヲ點示スルモ之ヲ以テ正當ノ標識若クハ鐵道ニ障礙ヲ與ヘタルモノト謂フコトヲ得サレハナリ次ニ第百六十六條即チ船舶ノ往來ヲ妨害スル罪ニ付テハ法律ハ標識ヲ損壞シ若クハ詐僞ノ標識ヲ點示スルノ所爲ノミヲ見テ前條ニ所謂危險ナル障礙ノ場合ヲ掲ゲス故ニ例ヘハ船舶ノ往來ヲ妨害スル爲メ港口ニ水雷ヲ布キ若クハ木柵ヲ設ケ又ハ海底水淺キ所ニ巨岩ヲ投スルカ如キ者アルモ本條ヲ以テ之ヲ處分スルコトヲ得ス唯是等ノ所爲中第三編第二章第九節船舶ヲ覆没スル罪ニ該當スルモノアレハ該節ニ依リテ以テ之ヲ處罰スルヲ得ルノミ左レハ第百六十五條ニハ詐僞ノ標識云々ノ文字ヲ加ヘ而シテ第百六十六條ニハ危險ナル障礙云々ノ字句ヲ補フヲ以テ立法上其當ヲ得タルモノトス

第百六十五條及ヒ第百六十六條共ニ往來ヲ妨害スル爲メト規定シアルヲ以テ

刑

法

此兩條ノ罪ノ成立スルニハ必ス汽車若クハ船舶ノ往來ヲ妨害セントスル特別ノ意思ナカル可カラス故ニ單一ノ故意ノミヲ以テ汽車若クハ船舶ノ往來ヲ妨害スル者アルモ之ヲ不問ニ付セサルヲ得ス即チ嘗テ實例ニモアリシ夫ノ鐵道驛夫カ故ラニ石ヲ軌道ノ上ニ置キ而シテ之ヲ取除キ以テ賞與ヲ得ントシテ之ヲ忘却シタル所爲ノ如キ又漁夫カ漁業上ノ妨害トナルヲ以テ海上ノ浮標等ヲ損壞シタル所爲ノ如キ孰レモ皆其故意ヨリ出テタルモノナレトモ然レトモ法律ニ要シタル特別ノ意思ナキヲ以テ之ヲ處罰スルコトヲ得サルナリ但汽車ニ付テハ未タ特別法ノ頒布ナキモ船舶ニ付テハ航路標識條例ナルモノアルヲ以テ夫ノ漁夫ノ如キハ纔ニ該條例ニ依リ以テ之ヲ處分スルコトヲ得ルニ至レリ

第百六十六條ニハ航海ノ安寧ヲ保護スル云々トアリ故ニ本條ハ海上ノ船舶ニ付テノ規定ニシテ夫ノ河川湖沼ニ浮ヘル船舶ニ付テハ本條ノ包含スル所ニ非ス蓋シ河川湖沼ヲ往來スル船舶ニ在テモ亦貨物ヲ積ミ旅客ヲ載スルモノナレトモ法律ハ河川湖沼ニ付テハ船舶ノ安寧ヲ保護スル爲メノ燈臺浮標等ノ設ケナシト見テ之ヲ省キタルモノナラン然レトモ大川又ハ激流等ニ在テハ標識ヲ

設タル場合ナシトモ限ル可カラサルノミナラス夫ノ琵琶湖ノ如キハ殆ント海上ト同一ナルモノナルニ是等ノ場合ヲ豫想セザリシハ是レ亦法ノ闕點ナリト謂ハサルヲ得ス唯今日ニ在テハ河上又ハ湖上ノ取締ノ爲メ各地方長官ノ定ムル輕微ノ刑ヲ以テ之ヲ處分スルヲ得ルノミ

刑 第六十七條 前數條ニ記載シタル罪其事務ニ關スル官吏及ヒ雇人職工自ラ犯シタル時ハ各本刑ニ照シ一等ヲ加フ

前數條ニ記載シタル事務ニ關係アル官吏及ヒ雇人等ハ其關係アル事務ニ妨害ヲ加ヘントスル者アルトキハ之ヲ防禦シ以テ其事務ノ安全ヲ圖ラサル可カラサル者ナリ然ルニ其職責ニ背キ自ラ妨害ヲ與フル如キハ其罪狀太々重シ是レ法律カ其刑ヲ加重シ以テ之ヲ嚴罰スル所以ナリ

刑 第六十八條 第六十二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ殺傷シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

道路橋梁等ヲ損壞シテ往來ヲ妨害シ其結果人ヲ殺傷スルニ至ルトキハ假令犯人ニ人ヲ殺傷スルノ意思ナキモ其所爲ヨリ生スル結果ナルヲ以テ法律ハ之ヲ

毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷スルコト、セリ是レ亦一ノ想像上ノ數罪俱發ナリトス

刑 第六十九條 第六十五條第六十六條ノ罪ヲ犯シ因テ汽車ヲ顛覆シ又ハ船舶ヲ覆没シタル時ハ無期徒刑ニ處シ人ヲ死ニ致シタル時ハ死刑ニ處ス

前條ニ於テハ第六十二條本條ニ於テハ第六十五條及ヒ第六十六條ノ罪ヨリ生スル結果ヲ規定シ而シテ第六十三條及ヒ第六十四條ニ付テハ其結果ヲ豫定セル條文ナシ蓋シ郵便電信ヲ妨害スルモ其結果人ヲ殺傷スルニ至ルコトナカル可ケレハナリ

法 汽車ヲ顛覆シ船舶ヲ覆没シタルトキハ假令人ヲ殺傷スルコトナキモ之ヲ無期徒刑ニ處シ又顛覆覆没ニ至ラサルモ人ヲ死ニ致シタルトキハ之ヲ死刑ニ處スルコト、爲セリ本條ノ規定ニ付テハ二個ノ闕點アリ先ツ法律ニ汽車ヲ顛覆シトアルヲ以テ其顛覆セスシテ線路ヲ脱シタル場合ニ於テハ損害ノ大ナルニモ拘ハラス單ニ重懲役ヲ以テ之ヲ罰スルノ外ナキニ至ラン次ニ船舶ノ損害ニ付テモ亦所謂覆没ニ限ルモノニ非ス夫ノ坐礁膠砂ノ如キモ其害敢テ覆没ニ讓ラ

ス然ルニ是レ亦本條ニ依リ之ヲ重罰スルヲ得ス僅ニ重懲役ニ甘ニスルノ外ナ
キニ至レリ

一四六

第七十條 此節ニ記載シタル輕罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照
シテ處斷ス

刑

本條ハ別ニ之ヲ説明セス
之ヲ要スルニ本節ノ規定ハ完全妥當ヲ闕クモノ甚タ多ク漸ク種々ノ特別法ヲ
以テ之ヲ補充シタリト雖モ而カモ尙ホ不十分ノ點渺ナカラス他日刑法改正ノ
際大ニ之ヲ刷新スルノ外ナシ

第七節 人ノ住所ヲ侵ス罪

法

抑吾人ノ住所ハ其城郭ニシテ他人ノ故ナク侵入スルコトヲ容ス可キモノニ非
ス然ルニ正當ノ事故ナク之ニ侵入スル者ハ必スヤ家人ヲ殺傷スルカ若クハ財
物ヲ盜取スルカノ如キ不正ノ目的ヲ有スルモノナラント想像セザル可カラス
果シテ不正ノ目的ニテ侵入シ其罪ヲ犯シタルトキハ法律ハ其罪ヲ正シ以テ之
ヲ處罰スルコトヲ得ルモ若シ其目的ヲ達セス單ニ侵入ノ所爲アリシニ止マル

刑

トキハ則チ之ヲ如何ニス可キ乎蓋シ侵入ノ所爲ハ犯罪ノ豫備タルニ過キサル
ヲ以テ法律ノ原則ヨリ之ヲ論スルトキハ處罰スルコトヲ得サルモノナルモ然
レトモ故ナク人ノ城郭ヲ侵シ且ツ危險ノ目的ヲ包藏セルヲ以テ法律ハ之ヲ特
別ノ罪即チ所謂家宅侵入罪トシテ處罰セリ

法

帝國憲法第二十五條ニ曰ク日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ヲ除ク外其ノ許諾
ナクシテ住所ニ侵入セラレ及ヒ搜索セラル、コトナシ」下是レ即チ住所ノ不可
侵ヲ認メタルモノナリ然レトモ憲法ハ國家ニ對スル臣民ノ權利ヲ定メタルモ
ノ即チ官吏カ法律ノ規定以外ニ於テ人民ノ家宅ニ侵入スルコトヲ得サルノ規
定タルニ過キスシテ一個人タル人民カ他ノ人民ノ家宅ニ侵入スル場合ハ憲法
ノ與リ知ル所ニ非ス而シテ本節ノ規定ハ官吏カ憲法ニ背キテ人民ノ住所ニ侵
入スル場合ナルカ將タ一個人タル人民カ他ノ人民ノ住所ニ侵入スル場合ナル
カ法律ニ於テハ更ニ其區別ナキヲ以テ此二者ヲ包含スルモノト解セサル可カ
ラス然レトモ立法上ヨリ之ヲ論スルトキハ元來本節ノ規定ハ本章即チ靜謐ヲ
害スル罪ノ章中ニ列記ス可キモノニ非サルノミナラス官吏カ人民ノ住所ヲ侵

ス場合ト人民カ他ノ人民ノ住所ヲ侵ス場合トヲ混同シテ規定ス可キモノニ非
 ス何トナレハ人民カ他ノ人民ノ家宅ニ侵入スル場合ハ勿論假令官吏カ人民ノ
 住所ニ侵入スルモ之カ爲メニ公ケノ靜謐ヲ害スルノ理ナク隨テ官吏カ人民ノ
 家宅ヲ侵ス場合ハ之ヲ「官吏人民ニ對スル罪」本編第九
章第二節ノ中ニ編入シテ而シテ人民
 カ他ノ人民ノ家宅ヲ侵ス場合ハ之ヲ第三編中ニ掲載ス可キモノナレハナリ若
 シ官吏又ハ人民カ或ル家宅ニ侵入シタルノミヲ以テ之カ爲メニ公衆ノ靜謐ヲ
 害スルモノトセハ則チ或ル家宅ニ於テ殺傷犯若クハ強竊盜犯等ノアリタルト
 キモ亦公衆ノ靜謐ヲ害スルモノト謂ハサルヲ得ス其極遂ニ第三編ニ規定シタ
 ル諸種ノ犯罪ヲ以テ皆之ヲ靜謐ヲ害スル罪ノ章中ニ臚列セサル可カラサルノ
 奇觀ヲ呈スルニ至ラン佛國ニ於テハ當初住所侵入ノ罪ヲ以テ官吏カ人民ニ對
 スル場合ニ限リ之ヲ官吏人民ニ對スル罪ノ中ニ規定シタリシカ一千八百三十
 二年ノ法律ヲ以テ人民カ他ノ人民ノ住所ヲ侵ス場合ニ付テモ亦其規定ヲ設ケ
 タリ而シテ官吏カ人民ノ家宅ニ侵入スル場合ニ付テハ其刑重ク人民相互ノ間
 ニ係ル場合ハ其刑輕シ是レ立法上其當ヲ得タルモノト謂フ可シ

刑

法

第七十一條 晝間故ナク人ノ住居シタル邸宅又ハ人ノ看守シタル建築物ニ入りタル者

ハ十一日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス若シ左ニ記載シタル所爲アル時ハ一等ヲ加フ

一 門戶牆壁ヲ踰越損壞シ又ハ鎖鑰ヲ開キテ入りタル時

一 兇器其他犯罪ノ用ニ供ス可キ物品ヲ携帯シテ入りタル時

三 暴行ヲ爲シテ入りタル時

四 二人以上ニテ入りタル時

第七十二條 夜間故ナク人ノ住居シタル邸宅又ハ人ノ看守シタル建築物ニ入りタル者

ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

若シ前條ニ記載シタル加重ス可キ所爲アル時ハ一等ヲ加フ

右兩條ハ同シク住所侵入ノ罪ニシテ唯其間ニ晝夜ノ區別アルニ過キス故ニ其
 犯罪構成ノ條件及ヒ刑罰加重ノ情狀等全ク同一ナリ是レ之ヲ併説スル所以ナ
 リ

先ツ晝夜ノ區別ニ付キ一言ヲ費サン抑晝間ハ何人モ起キ出テ、業務ニ従事ス
 ル時間ナルヲ以テ他人ノ故ナク侵入スル者アルモ之ヲ防グコト易ク隨テ犯人

刑

法

ハ其目的ヲ達スルコト難シ之ニ反シテ夜間ハ何人モ就臥安眠スル時間ナルヲ以テ其侵入ノ容易ナル丈ケ其レ丈ケ之ヲ防止スルコト難ク隨テ犯人ノ目的ハ達シ易シ是レ法律カ晝夜ノ區別ニ從ヒ刑ニ輕重ノ差ヲ設ケタル所以ナリ然レトモ本法ハ如何ナル時間ヲ以テ晝ト爲シ又如何ナル時間ヲ以テ夜ト爲スカニ付テハ一言ノ之ニ及フナシ今他國ノ法制ヲ按スルニ佛國及ヒ獨逸ニテハ時季ノ如何ニ依リテ其區別ヲ立テ佛國ハ十月一日ヨリ翌年三月三十一日迄ハ午前六時ヨリ午後六時迄ヲ以テ晝間ト爲シ四月一日ヨリ九月三十日迄ハ午前四時ヨリ午後九時迄ヲ以テ晝間ト爲シ而シテ獨逸ニ於テハ十月一日ヨリ翌年三月三十一日迄ハ午前六時ヨリ午後九時迄ヲ以テ晝間ト爲シ其他ノ時季ニ付テハ總テ佛國ト同一ナリ又英國ニ於テハ法律一定ノ時間ヲ設ケス唯拂曉黃昏人類ヲ辨シ辨セサルノ時ヲ以テ晝夜ノ別ト爲セリ我カ刑事訴訟法ニハ日出前日沒後等ノ文字アリ同法第七十八條乃チ或ハ日出前日沒後ハ即チ夜間ナレハ本條モ亦此區別ニ從ヒ日出日沒ヲ以テ晝夜ノ境界ト爲スコシト論スル者ナキニ非ス然レトモ唯刑事訴訟法ヲ援引スルニ過キサルノミナラス實際上日出日沒ノ如何ハ

刑

法

雨中又ハ曇天等ニ在テハ之ヲ知ルコトヲ得ス特ニ吾人普通ノ間ニ在テ晝夜ノ語ハ必スシモ日出日沒ヲ以テ之ヲ區別スルモノニ非ス日既ニ地平線下ニ沒スルモ未タ暮靄ノ至ラサル間ハ何人モ之ヲ夜間ト云フモノナキニ非スヤ故ニ本條ニ於ケル晝夜ノ區別ハ夫ノ佛獨ノ如ク時間ニ依ルコトヲ得サルハ勿論又刑事訴訟法ニ從ヒ日出日沒ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得ス唯立法者カ是等ノ判定ヲ事實裁判官ニ一任シタルモノト見ルヲ以テ最モ正當ナル解釋ナリト信ス左レハ其結果ハ實際上英法ノ如ク拂曉ヨリ黃昏ノ時刻迄ヲ以テ晝間ト爲スニ至ル可シ蓋シ晝夜ノ區別ニ因リ刑ニ輕重ノ差ヲ設ケタルハ其危險ノ程度ニ應シタルモノナレハ夫ノ一定ノ時間若クハ日出日沒ノ如何ニ拘ハラズ實際上人類ヲ辨シ得ルト否トニ因リ之ヲ區別スルコソ當然ナル可シ住所ヲ侵ス罪ハ第一正當ノ理由ナキコト第二侵入ノ場所カ人ノ住居シタル邸宅又ハ人ノ看守シタル建造物ナルコト第三侵入ノ所爲アルコトノ三條件ヲ以テ成立ス

刑

法

第一正當ノ理由ナキコト、法文ニ故ナグトアルハ即チ正當ノ理由ナキノ謂ナリ

刑

蓋シ人ノ住所ニ侵入スル以上ハ事ノ正否ニ拘ハラズ何カ其故アルニ相違ナシ然レモ法律ハ正當ノ理由ナキ者ヲ以テ之ヲ故ナキ者ト言ヘリ夫ノ人事百般ノ交渉上他ノ家ヲ訪問スルカ如キ又官吏カ其職務ノ執行上人民ノ住所ニ出張スルカ如キハ即チ孰レモ正當ノ理由アルモノナレハ固ヨリ侵入罪ノ成立スル理ナシト雖モ是等ノ場合ヲ除キ地ノ家ニ侵入スル者ハ多ク正當ノ理由ナキモノトス但正當ノ理由アルヤ否ヤハ實際上其時ノ模様ニ因ルモノナレハ其判斷ハ之ヲ事實裁判官ニ一任スルノ外ナシ唯茲ニ一言ス可キハ其侵入ノ原因ニシテ不正ナルモ時ニ依リテハ之ヲ正當ノ理由ナキモノト謂フヲ得サル場合アリ例ヘハ或ル家ノ妻ト通セル者カ桑下ノ樂ヲ爲サンカ爲メ其邸内ニ忍ヒ入ルカ如キ固ヨリ不正ノ事タルニ相違ナシト雖モ然レモ主人ヲ代表シ得ヘキ妻ノ承諾ヲ經タルモノナレハ之ヲ侵入ノ罪アリトシテ處罰スルコトヲ得サルカ如シ

第二侵入ノ場所カ人ノ住居シタル邸宅又ハ人ノ看守シタル建造物ナルコト故ニ其侵入ノ場所カ此物体以外ノモノナルトキハ所謂侵入罪ヲ構成セス抑人ノ住居シタル邸宅トハ人ノ住居ニ供セラル、邸宅ノ謂ニシテ現在人ノ住居シ在

法

刑

ルコトヲ要スルモノニ非ス故ニ侵入ノ當時偶不在ナルモ常ニ人ノ住居セルモノナレハ則チ此罪ヲ構成スルニ足ル又人ノ看守シタル建造物ニ付テモ亦之レト同シク常ニ看守人ヲ附シアル建造物ナレハ侵入ノ當時偶看守人在ラサル場合ト雖モ敢テ此罪ヲ組成スルニ差支ナシ蓋シ人ノ住居シタル邸宅又ハ特ニ看守人ヲ附シタル建造物ハ必ス多少ノ財産ヲ蓄藏セルモノナリ其住人若クハ看守人ノ不在ナルトキハ身體ニ對スル犯罪ノ危険ナキモ財産ニ對シ害ヲ加フルノ恐アリ侵入ノ所爲ハ多ク他ノ犯罪ノ豫備ナレトモ危険アルヲ以テ之ヲ處罰スト云フノ點ヨリ之ヲ見ルモ亦之ヲ不問ニ付スルノ理ナカル可シ

住宅若クハ建造物以外ノモノハ法律之ヲ豫定セス然レトモ住宅若クハ建造物以外ノモノニシテ人ノ住居ニ供スルモノアリ例ヘハ夫ノ船舶ノ如シ蓋シ船舶ハ河海ニ浮ヘル一ノ住所ニシテ陸上ニ建設セル邸宅ト敢テ異ナルコトナシ然ルニ之ニ侵入スルモ本條ヲ以テ之ヲ處罰スルコトヲ得サルハ抑亦法ノ欠點ナリト謂ハサルヲ得ス或ハ建造物ナル語ヲ廣義ニ解シ船舶ヲモ之ニ包含セシム可シト論スル者アリト雖モ然レトモ所謂建造物トハ陸上ニ在ル建造物ヲ意味

法

シ船舶ノ如ク水上ニ在テ運轉ノ自由ヲ有スルモノヲ指稱スルモノニ非ス現ニ法律ハ他ノ各條ニ於テ建造物ト船舶トヲ區別シテ之ヲ記載セリ第四百三條若シ建造物ナル語中ニ船舶ヲモ包含スルモノトセハ何ヲ苦ンテ之ヲ各別ニ記載センヤ

刑

第三侵入ノ所爲アルコト侵入ノ所爲ニ付テハ如何ナル方法ニ依ルヲ問ハス唯其身體カ住宅若クハ建造物ノ内ニ入レルヲ以テ足レリトス然レトモ其侵入ノ方法ニ因リ刑罰加重ノ情狀ト爲ルコトアリ今其場合ヲ説明セン

一門戸牆壁ヲ踰越損壞シ又ハ鎖鑰ヲ開キテ入りタルトキ門戸牆壁ヲ踰越損壞シテ侵入シタルトキハ何故ニ其刑ヲ加重スルヤ蓋シ門戸牆壁ハ人ノ侵入ヲ防ク爲メニ設ケタルモノナルニ之ヲ損壞シ若クハ踰越シテ侵入スル者ハ其是等設ケナキ邸宅ニ侵入スル者若クハ其設ケアルモ偶開放セル場合ニ侵入スル者ニ比シテ其惡意ノ度強ク隨テ其罪情重シ又鎖鑰ヲ開キテ侵入スル者モ亦之ト同シク人ノ侵入ヲ防ク爲メニ施シタル鎖鑰ヲ捨テ切り若クハ鑰鍵ヲ用非テ之ニ侵入スル者ナレハ其罪狀單純ノ侵入者ノ比ニ非ス是レ法律カ其刑ヲ加重シ

法

タル所以ナリ

本號ノ規定ニ付テハ二個ノ欠點アリ即チ法文ニ踰越損壞トアルヲ以テ若シ門戸牆壁ヲ乘リ越ヘス又之ヲ毀壞セスシテ其地下ヲ掘リ明ケ侵入シタル者ヲ加重シテ罰スルコトヲ得サル是レ其一ナリ又門戸牆壁ト限リアルヲ以テ其他ノ場所例ヘハ屋根ヲ破壞シテ侵入スル者アルモ亦之ヲ加重スルコトヲ得サル是レ其二ナリ凡ソ立法上是等同一ナル有ラユル場合ヲ遺漏ナク規定セント欲セハ斯ク實物ニ付テ之ヲ列擧スルノ方法ニ依ラス寧ロ總テノ場合ヲ包含スル廣義ノ文字ヲ用ユルヲ宜シトス

刑

法

二兇器其他犯罪ノ用ニ供ス可キ物品ヲ携帶シテ入りタルトキ兇器ノ意義ニ付テハ前既ニ之ヲ述ヘタリ今復タ贅セス其他犯罪ノ用ニ供ス可キ物品トハ至テ廣キ意義ヲ有スル文字ナルヲ以テ總テノ物品皆此中ニ入ルノ感アリ蓋シ何物カ用キテ以テ犯罪ノ具ト爲ス可カラサルモノアラサランヤ夫ノ鉛筆一本又ハ紙一枚ニテモ尙ホ犯罪ノ用ニ供スルニ足ル即チ一本ノ鉛筆ハ以テ能ク人ノ目ヲ瞎ス可ク一枚ノ紙ハ以テ能ク偽造ノ證書タルヲ得ン然ラハ今紙若クハ鉛筆

刑 法

ヲ携帶シテ人ノ住所ニ侵入シタル者モ尙ホ本號ニ依リ其刑ヲ加重ス可キ乎曰ク何ソ夫レ然ラン法律ノ用語ハ如何ニモ廣漠ナリト雖モ本號ハ成ル可ク之ヲ狹義ニ且ツ適切ニ解セサル可カラス抑侵入ノ所爲ハ他ノ犯罪ノ豫備ニ屬スルモノナレハ侵入者ニハ必ス其目的トスル犯罪アリ所謂犯罪ノ用ニ供ス可キ物品トハ即チ其侵入ノ目的タル犯罪ノ用ニ供ス可キ物品ノ謂ニシテ例ハ竊盜ノ目的ニテ入りタル者ナレハ鑿鑿ノ如ク又殺傷ノ目的ニテ入りタル者ナレハ刀槍若クハ棍棒ノ如シ而シテ犯人ノ目的不分明ナルトキハ其時ノ情況ニ因リテ之ヲ推斷シ人若クハ物ニ對スル犯罪ノ用ニ供スルニ適當ナル物品ヲ携帶セル場合ノミ之ヲ加重スルノ外ナケン之ヲ要スルニ果シテ犯罪ノ用ニ供ス可キ物品ナルヤ否ヤハ事實裁判官ノ判斷ニ在リトス

三、暴行ヲ爲シテ入りタルトキ、人ノ身體ニ對シ腕力ヲ用ヰテ侵入スル者ハ其決心強ク其罪狀亦タ重シ是レ其刑ヲ加重スル所以ナリ法律ハ他ノ場合ニ於テハ暴行脅迫ノ文字ヲ用ヰタルニ第四百四十二條及第四百四十七條第百四十七條第百四十七條等本號ニハ單ニ暴行トノミアリテ脅迫ノ文字ナシ故ニ例ヘハ住人若クハ看守人ニ對シ門戸ヲ開

刑

法

ク可シ若シ開カスンハ汝ヲ殺サント脅迫シテ侵入スル者ト雖モ之ヲ加重シテ處罰スルコトヲ得サルナリ

四、二人以上ニテ入りタルトキ、犯人ノ數多ケレハ犯人ハ其罪ヲ犯シ易ク被害者ハ其害ヲ防キ難ク隨テ其危險大ナリ是レ其刑ヲ加重スル所以ナリ犯者ノ二人以上ナルカ爲メニ其刑ヲ加重スルノ例ハ後ノ強竊盜ノ場合ニモ在ルヲ以テ今茲ニ之ヲ詳解セン所謂二人以上トハ犯罪ノ責任アル共犯者ニ限ルノ謂ナルヤ若シ共犯人ニ限ルトセハ法律上不論罪ト爲ル可キ者ト共ニ侵入スルモ本號ニ依リ之ヲ加重スルコトヲ得ス即チ幼者知覺精神ノ喪失者又ハ瘡痍者ノ如キ者若クハ犯罪ノ情狀ヲ知ラス偶然之ト同伴シタル者又ハ強制ヲ加ヘテ同行セシメタル者ノ如キ之ト共ニ侵入シタル者ハ如何ニ處分ス可キ乎余ハ此場合ニ付テハ左ノ區別ヲ以テ之ヲ解釋セントス

抑二人以上ニテ侵入シタル場合ニ付キ其刑ヲ加重スル所以ノモノハ其犯シ易クシテ防キ難シト云フノ點ニ在リ故ニ其侵入シタル者ノ中一人カ假令犯罪ノ責任ナキ者ト雖モ若シ其者ニシテ侵入ノ意思(犯意ニ非ス)アリ且ツ事實アルト

刑 法

キハ則チ其侵入ノ情勢ヲ助ケタルモノナレハ其者ニ對シテ刑罰ヲ科スルコトヲ得サルモ他者ニ對シテハ之ヲ刑罰加重ノ情狀ト爲サ、ルヲ得ス左レハ前例中強制ニ因リ同行セシメタル者ノ如キハ侵入ノ意思ナキモノナレハ之ト共ニ侵入シタル者ハ其刑ヲ加重スルコトヲ得スト雖モ幼者知覺精神ノ喪失者又ハ瘖啞者ノ如キ單ニ知識ノ闕ケタルニ止マリテ侵入ノ意思アルモノト共ニ侵入シタル者ハ其刑ヲ加重セサル可カラス尤モ幼者ニシテ未タ侵入ノ意思ナキモノ例ヘハ赤子ヲ抱キテ共ニ侵入スルモ以テ刑罰加重ノ情狀ト爲ラサルヤ勿論ナリ要スルニ是レ亦事實裁判官ノ判斷ニ一任スルノ外ナシ但此點ニ付テハ事實問題ト法律問題ト混交セルヲ以テ其認定ノ當否ハ法律裁判所ノ鑑査ヲ受クルコトヲ免カレサルナリ

第七十三條 故ナル皇居禁苑離宮行在所及ヒ皇陵内ニ入りタル者ハ前二條ノ例ニ照シ各一等ヲ加フ

本條ニ於テハ侵入ノ場所ニ付テ其刑ヲ加重セリ即チ皇居禁苑等ハ神聖ニシテ犯ス可カラサル場所ナルヲ以テ故ナク之ニ侵入シタル者ノ刑ヲ加重シタルナリ

第八節 官ノ封印ヲ破棄スル罪

第七十四條 官署ノ處分ニ因リ特別ニ家屋倉庫其他ノ物件ニ施シタル封印ヲ破棄シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

若シ看守者自ラ犯シタル時ハ一等ヲ加フ

官署ニ於テ或ル物件ニ對印ヲ施スハ或ハ其物ノ秘密ヲ保タンカ爲メ或ハ又其處分ニ便宜ナルカ爲メ即チ將來ノ危害ヲ豫防センカ爲メニ出ツルモノナリ然ルニ其職務上施シタル封印ヲ破棄スル者ハ官署ノ處分ニ抵抗シ官權ヲ侵害スルモノナルヲ以テ法律ハ之ヲ公益ニ關スル罪トシテ處罰セリ然レトモ官吏ノ施シタル封印ヲ破棄スル者ハ其封印ノ如何ナルモノタルヲ問ハス總テ之ヲ罰スルニ非ス即チ所謂特別ニ施シタル封印ヲ破棄スル場合ニ限り之ヲ處罰ス故ニ通常ノ場合例ヘハ官吏カ狀箱ニ封印スルカ或ハ退廳ノ時公用書類ノ紛失ヲ防カンカ爲メ之ニ封印スルカ如キハ法律上封印ス可キ理由アリテ之ヲ爲スモノニ非サルヲ以テ假令之ヲ破棄スル者アリト雖モ本條ヲ以テ處罰スルコトヲ

得ス然ラハ特別ニ施シタル封印トハ如何ナルモノナル乎ト云フニ例ヘハ裁判所カ證據物件ノ散逸ヲ防ク爲メニ封印スルカ若クハ執達吏カ強制執行ニ因リ其差押物ニ封印スルカ又ハ行政官タル收稅吏カ酒造用器械ニ封印スルカノ如ク法律若クハ命令ノ規定ニ基キテ施シタルモノヲ謂フ故ニ是等ノ封印ヲ破棄スルトキハ本條ニ依リ之ヲ處罰スルモ若シ法律若クハ命令ノ規定ニ基キタルニ非ス單ニ官吏ノ注意上施シタル封印ヲ破棄スル者アルモ之ヲ不問ニ付スルノ外ナキナリ

刑

法

封印ヲ破棄スル者其看守者ナルトキハ其刑ヲ加重ス是レ其職責ニ背キテ犯シタル者ナレヲ以テ通常ノ者ニ比シテ其罪狀重ケレハナリ
法文ニ所謂破棄トハ如何ナル所爲ナル乎文字ノ上ヨリ之ヲ見ルトキハ即チ破リ棄ツルナルヲ以テ封印ノ場所ヲ毀壞スルニ在ルカ如シト雖モ余ハ斯ク狹義ニ解セス封印其者ヲ破棄スルト其他ノ部分ヲ毀壞スルトヲ問ハス兎ニ角其封印ヲシテ効力ナキニ至ラシムレハ即チ所謂破棄ノ所爲ナリト信ス何トナレハ法律ノ保護セントスルハ封印ヲ施シタル部分ノミニ在ラスシテ寧ロ其物件全

刑

法

体ニ在レハ假令封印ニ觸レサルモ封印ニ依リテ以テ保護セントスル物件ニ害ヲ加フレハ則チ取りモ直サス封印ヲ破棄シタルモノナレハナリ故ニ例ヘハ倉庫ノ入口ニ封印ヲ施シタル場合ニ當リ其他ノ部分ヲ損壞シテ侵入シタル者モ尙ホ封印破棄ノ罪アリトス若シ斯カル場合ニ於テ封印其者ニ損傷ナキノ故ヲ以テ之ヲ封印破棄ノ罪ニ問フ可カラストセハ其封印ノ部分丈ケヲ切り抜キ以テ其中ノ物品ヲ取出ス者モ亦之ヲ不問ニ附セサル可カラサルニ至ラン豈ニ斯ノ如キノ理アラシヤ

第七十五條 官ヲ封印ノ破棄シ其物件ヲ盜取シ又ハ毀壞シタル者ハ盜罪及ヒ毀壞ノ各

本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

本條ハ別ニ説明ヲ要スルモノナシ

第七十六條 監守者其懈怠ニ因リ封印ヲ毀棄シ又ハ其物件ヲ盜取毀壞スル犯人アルヲ覺テサル時ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ノ説明ニ付テハ囚徒逃走ノ罪ニ於ケル第百五十條ノ講義ヲ參看ス可シ

第九節 公務ヲ行フチ拒ム罪

本節ニ於テハ法律上要求セラレタル公務ヲ行フヲ拒ムノ罪ヲ規定セリ然レトモ敢テ公務ヲ行フヲ拒ムノ罪ヲ本節中ニ集録シタルニ非ス唯其格段ナルモノノミヲ規定シテ其他ハ之ヲ他ノ各條ニ讓レリ

第七十七條 陸海軍ノ將校タル者出兵ヲ要求スル權アル官署ヨリ其要求ヲ受ケ故ナク

シテ之ヲ肯セサル時ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ

附加ス

法律規則ニ於テ或ル官吏ニ出兵要求ノ權利ヲ與ヘタル場合アリ蓋シ非常事變ノ際ニ當リテハ速ニ之ニ處スルノ途ヲ講セサル可カラス故ニ例ヘハ地方ノ一揆騷擾等ノ際ニ當リ中央政府ノ命令ヲ俟ツノ暇ナキ場合ニ於テハ地方長官タル者ハ直チニ陸海軍ノ將校ニ照會シテ以テ出兵ヲ要求スルコトヲ得然ルニ陸海軍ノ將校ニシテ故ナク其要求ニ應セサルトキハ當ニ法律ノ命令ニ違背スルノミナラス之カ爲メ益其福難ヲシテ滋蔓セシムルノ恐アルヲ以テ法律ハ之ヲ行政上ノ懲戒處分ニ委ネス刑法上ノ刑罰ヲ以テ處分スルコト、爲セリ
將校トハ上大將ヨリ下少尉ニ至ルマテヲ謂フ將校以外ノ者ハ本條ノ罪ヲ犯ス

刑

法

刑

法

コトヲ得ス然レトモ下士ニシテ一分隊ノ長ト爲リ自己ノ命令ヲ以テ兵力ヲ動スコトヲ得ル場合ニ於テハ身分ハ下士ナルモ將校ニ代ルモノナレハ以テ本條ノ罪ヲ犯スコトヲ得可シ
出兵ヲ要求スル權アル官署トハ行政司法ヲ問ハス法律若クハ命令ニ因リ出兵要求ノ權ヲ與ヘラレタル官廳ヲ謂フ即チ北海道廳及ヒ各府縣ノ官制ニ依レハ其長官又ハ知事ハ非常事變ノ場合ニハ兵力ヲ要求スルコトヲ得トアリ又明治十四年太政官第八十二號達ニハ「第一條裁判官檢察官及ヒ司法警察官治罪法ニ從ヒ檢證及ヒ物件差押其他職務ヲ行フニ當リ必要ナル時ハ警察署又ハ憲兵屯營ニ照會シテ巡查又ハ憲兵卒ヲ使用スルコトヲ得但時機緊急ナル時ハ直チニ之ヲ使用スルコトヲ得。第二條前條ノ場合ニ於テ事緊急重要ニ涉ル時ハ直チニ鎮臺又ハ分營ニ照會シテ兵力ヲ要求スルコトヲ得」トアリ尤モ此達ニハ治罪法ニ從ヒ云々トアルヲ以テ治罪法ノ既ニ廢止セラレタル今日ニ在テハ此達モ亦自然廢止ニ屬シタルモノナリト論スル者アリ然レトモ治罪法ト刑事訴訟法トハ唯其名義ノ變更アリタルノミ其實跡ニ於テハ曾テ變更ナキヲ以テ余ハ爾餘ノ治

罪法ノ附屬法令(但シ刑事訴訟法ノ明文ト重複若クハ抵觸スルモノハ論外ナリ)ト共ニ此達モ亦尙ホ其効力ヲ存スルモノト信ス左レハ司法官特ニ豫審判事ノ如キハ兇徒聚集ノ罪等危險ノ場合ニ於テハ出兵ヲ要求シ以テ其處分ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

刑

故ナクシテ云々トアリ故ニ正當ノ事由アルトキハ假令出兵ノ要求ヲ肯セサルモ其罪ナシ今例ヘハ地方ノ騷擾ニ當リ知事ヨリ出兵ノ要求アリタル場合ニ於テ陸海軍ノ將校タル者兵力ヲ勞スルヲ要セス警察ノ力ニテ十分ナリト認め其要求ニ應セサルトキハ則チ所謂正當ノ事由アルモノナル乎曰ク否出兵ヲ要求スルノ必要ノ有無ヲ判斷スルハ其要求ノ權アル官吏ニ在リテ將校タル者ハ其判斷ニ容喙スルヲ得ス故ニ出兵要求ノ權アル官署ヨリノ要求ナレハ必ス之ニ應セサルヲ得ス唯其官署ヨリノ要求ナルモ要求ノ理由ヲ具ヘサル場合又ハ他ニ軍事上ノ必要アリテ一兵ヲモ動カス可カラサル場合ニ於テハ之ヲ拒ムコトヲ得ルノミ

法

本條ハ行政司法ノ官署ヨリ陸海軍ノ將校ニ向テ出兵ヲ要求スル場合ノ規定ナ

リ故ニ將校相互ノ間ニ於ケル要求ノ場合ハ本條ノ與リ知ル所ニ非ス但陸海軍司令官ノ出兵ノ命令ニ應セサル者ハ陸海軍刑法ニ所謂抗命ノ罪トシテ處罰セラル可シ

刑

第百七十八條 陸海軍ノ徵兵ニ編入セラル可キ者身體ヲ毀傷シテ疾病ヲ作爲シ其他詐僞ノ所爲ヲ以テ免役ヲ圖リタル時ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

若シ他人ニ囑託シ其氏名ヲ詐稱シテ徵募ニ應セシメタル者亦同シ其囑託ヲ受ケテ徵募ニ應シタル者ハ第二百三十一條ノ例ニ照シテ處斷ス

法

本條ハ徵兵忌避ニ關スル規定ナリ然レトモ本條ノ規定ニテハ實際上不都合ヲ感スルヲ以テ明治二十二年法律第一號徵兵令第三十一條ニ兵役ヲ免カレンカ爲メ逃亡シ又ハ潛匿シ若クハ身軀ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐僞ノ所爲ヲ用キタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三十圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス下ノ規定ヲ設ケタリ乃チ刑法ニテハ免役ヲ圖ルニテ罪ト爲リ徵兵令ニテハ兵役ヲ免カレンカ爲メ或ル所爲ヲ行フニテ罪ト爲ルノ差異アリテ實際適用

刑

ノ上ニ於テハ徵兵令ノ方便宜ナラン
 徵募ニ應ズルノ義務アル者其義務ヲ免カレンカ爲メ詐僞ノ所爲アリタルトキ
 ハ其所爲ト同時ニ其罪成立スルニ似タリ然レトモ詐僞ノ所爲ト同時ニ其罪成
 立スルモノトセハ不當ノ結果ヲ生ス例ヘハ免役ノ爲メ一旦逃亡シタルモ身体
 検査ノ當日翻然前非ヲ悟リテ立歸リタル者ノ如キ又其逃亡ノ當時ニ在リテハ
 應募ノ義務アリシモ其後ノ法律ニテ除役免役ト爲リタル者ノ如キハ或ハ其所
 爲ノ中止ニ因リ或ハ其犯罪ノ不能ニ因リ之ヲ處罰スルニ由ナシ又道理上ヨリ
 之ヲ見ルモ本節ノ罪ハ公務ヲ免カル、ニテ罪ト爲ルモノナレハ未タ其義務ノ
 生セサル前ニ於テハ之ヲ犯スコトヲ得ス即チ徵兵令ニ依リ丁年ト爲ルニ非サ
 レハ兵役ノ義務ヲ生セサルヲ以テ其以前ニ於テハ假令之ヲ免カレントスルモ
 得ヘカラス左レハ本條ノ罪ハ其詐僞ノ所爲アリタル時ニ成立スルニ非スシテ
 兵役ノ義務生スル時期ノ到來ニ因リテ始メテ成立スルモノ即チ一種ノ條件附
 犯罪ナリト知ル可シ
 本條第二項前段ノ所爲ハ即チ一ノ詐僞ノ所爲ナリ故ニ特ニ明文ヲ設ケサルモ

法

刑

第一項ノ其他詐僞ノ所爲ノ中ニ包含セララル、ヲ以テ十分之ヲ罰スルニ足ル然
 レトモ法律ハ後段ノ其囑託ヲ受ケテ徵募ニ應シタル者ノ刑ヲ定メンカ爲メ文
 辭ノ關係上之ヲ掲ケタルモノナラン而シテ囑託ヲ受ケテ徵募ニ應シタル者ハ
 其之ヲ囑託シタル者ト共ニ本條ノ正犯ナレトモ然レトモ代テ徵募ニ應シタル
 者ハ國民ノ義務タル兵役ヲ免カル、ノ意思ナキノミナラス自ら盡ス可キ義務
 ナキニ他人ニ代リ進ンテ之ヲ盡サントスル者ナレハ他人ノ犯罪ヲ助クルノ點
 ハ惡ム可キモ之ヲ共犯トシテ論スルニ忍ヒス故ニ單ニ身分詐稱ノ罪ヲ以テ之
 ヲ處罰スルコト、爲セリ

法

第七十九條 醫師化學家其他職業ニ因リ官署ヨリ解剖分析又ハ鑑定ヲ命セラレタル者

故ナクシテ之ヲ肯セサル時ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

醫師化學家ノ如キ特別ノ職業ニ従事スル者ハ常人ノ爲シ能ハサル特種ノ技倆
 ヲ有スルヲ以テ法律ハ之ニ解剖分析又ハ鑑定等ノ義務ヲ負ハシメタリ故ニ是
 等ノ者ニシテ若シ官署ヨリ解剖分析又ハ鑑定等ノ命令アリタルトキハ必ス之
 ニ應セサル可カラス然ルニ其命令ニ從ハサル者ハ即チ官權ニ抵抗セルモノナ

ルヲ以テ法律ハ之ヲ公務ヲ行フヲ拒ムノ罪トシテ處罰セリ本條ニ付テモ余ハ醫師、化學家等カ法律若クハ命令ノ規定ニ因リ其義務ヲ命セラレタル場合ニ限リ之ヲ處罰ス可キモノト思考ス即チ司法事務ナレハ民刑訴訟法ニ於テ規定シタル場合ニ限リ本條ノ制裁ヲ附ス可キモ若シ其規定以外ニ於ケル命令ナレハ假令之ニ應セサルモ處罰スルコトヲ得ス又行政官カ法律若クハ命令ノ規定ニ基カスシテ鑑定等ヲ命スルコト有リ之ニ應セサルモ本條ノ罪成立セサルモノトス

第一百八十條 裁判所ヨリ證人トシテ證據ヲ陳述スルコトヲ命セラレタル者故ナクシテ之

ヲ肯セサル時亦前條ニ同シ

本條ハ證人タルノ義務ヲ行フコトヲ肯セサル者ノ制裁ヲ定メタリ法文ニ廣ク裁判所トアルヲ以テ司法、行政及ヒ陸海軍ノ各裁判所ヲ包含ス即チ是等ハ裁判上各、其訴訟法ヲ以テ一般國民ニ證人タルノ義務ヲ命シタルニ之ニ應セサル者ハ皆本條ヲ以テ處罰ス

訴訟上證人トセスシテ單ニ參考ノ爲メニ其陳述ヲ聽クコトアリ是等ノ者ハ證

刑

法

刑

法

人ニ非ス其陳述ハ證據タルノ效力アラサルヲ以テ本條ニ包含セス隨テ假令其者命令ヲ肯セサルモ之ヲ不問ニ付スルノ外ナシ刑事訴訟法第二百六條ニ證人宣誓ヲ肯セス又ハ宣誓シテ供述ヲ肯セサルトキハ豫審判事、檢事ノ意見ヲ聽キ刑法第八十條ニ從ヒ罰金ヲ言渡ス可シトアリ然ルニ參考人ハ宣誓ヲ爲ス可キモノニ非サルヲ以テ刑訴第三百二十三條本條ニ包含セサルヤ益、明カナラン

第八十一條 傳染病流行ノ際又ハ傳染病ノ疑アル船舶入港スルニ當リ醫師其病患ヲ檢査シ又ハ消滅ノ方法ヲ陳述スルコトヲ命セラレタル者故ナクシテ之ヲ肯セサル時ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

獸類傳染流行ノ際獸醫此條ノ罪ヲ犯シタル時ハ一等ヲ減ス

本條第一項ニ所謂傳染病トハ今日ノ法規ニテハ左ノ六種ニ限レリ即チ虎列刺、腸窒扶私、赤痢、實布埜利亞、發疹窒扶私及ヒ痘瘡是ナリ此外醫學上傳染病ナルモノアル可シト雖モ之ヲ以テ法律上ノ傳染病ト云フヲ得ス故ニ右六種ノ傳染病流行ノ際ニ當リ醫師其命令ニ從ハサルトキノミ本條ヲ以テ之ヲ處罰ス
第二項ハ獸類ノ傳染病ニ係ル場合ナルヲ以テ一等ヲ減シテ之ヲ處罰セリ所謂

獸類ノ傳染病トハ牛疫炭疽熱鼻齒及皮疽傳染性胸膜肺炎傳染性鷺口瘡及ヒ羊痘ノ六種是ナリ
之ヲ要スルニ本節ニ規定シタル各種ノ罪ハ其人ノ身分又ハ職業ニ因リ特別ノ義務ヲ負擔スル者カ其義務ヲ行ハス若クハ官ノ命令ニ違反スルニ基クモノナレハ則チ國家ノ命令權ヲ害スル罪ニシテ其性質ハ即チ公益ニ關スルモノナリトス

第四章 信用ヲ害スル罪

本章ノ各條目ヲ講スルニ先チ法律上所謂詐僞ナルモノニ付キ聊カ總論ヲ試ム可シ

凡ソ事ノ眞實ニ反對スルモノ之ヲ虛ト謂ヒ事ノ虛ナルコトヲ知リナカラ詐謀ヲ用井テ人ヲシテ之ヲ眞實ナリト信セシメントスル之ヲ詐僞ト謂フ夫レ詐僞ハ人ヲシテ誤惑ニ陥ラシムルノ害アルヲ以テ其事ノ何タルヲ問ハス總テ之ヲ法律上ノ犯罪トシテ處罰ス可キ乎例ヘハ宗教上ニ於テ妄ニ怪力亂神ノ邪說ヲ語リ以テ愚民ヲ籠絡スルカ如キ又哲學上ニ於テ敢テ堅白異同ノ詭辯ヲ弄シ以

刑

法

刑

法

テ人ヲ瞞着スルカ如キ若クハ理學上故ラニ天變地妖ノ奇論ヲ唱ヘ以テ人ヲ誑惑スルカ如キハ皆世ヲ誤リ人ヲ經ユルノ所謂詐僞ニ屬スルモノタルヲ以テ是レ亦法律ヲ以テ之ヲ處分ス可キ乎曰ク昔時ニ在テハ是等ノモノヲモ尙ホ法律上ノ犯罪トシテ之ヲ處罰シタルコトアリ即チ宗教上ニ於テ所謂邪宗門禁制ノ法度アリシコトハ世人ノ知ル所理學上ニ於テモ夫ノ伊太利ノ理學家ガリレオノ如キハ地動說ヲ唱ヘタルカ爲メニ死刑ニ處セラレタルコトアリキ然レトモ今日開明ノ諸國ニ於テハ總テ是等ノ事ヲ以テ學者等ノ意見ニ放任シ敢テ法律ヲ以テ之ニ干涉セス蓋シ宗教哲學若クハ理學等ノ學理ニ關スル事ハ果シテ孰レカ眞理ニシテ孰レカ虛僞ナルヤハ到底得テ判斷シ能ハサルノミナラス設令其說ク所虛僞ニシテ且ツ人ヲ惑ハサンカ爲メニ出ツルモノナルモ之ヲ信スルト否トハ各人ノ自由ニシテ之カ爲メ必シモ社會ノ安寧ヲ害スルコトナケレハナリ左レハ特ニ宗教ニ付テハ憲法上信教ノ自由ヲ公認シ以テ安寧秩序ヲ妨ケス及ヒ臣民タルノ義務ニ背カサル限ハ人民ヲシテ各其信スル所ニ歸依スルコトヲ得セシメタリ然ラハ如何ナル詐僞ヲ以テ法律ノ干涉ス可キモノト爲ス乎

曰ク其虚偽ヲ説ク者ニシテ自ラ不正ノ事ヲ遂クルノ意思ヲ有シ且ツ其結果現
 實ニ社會及ヒ一個人ニ害ヲ加フルモノ即チ所謂背徳、加害ノ性質ヲ帶フルモノ
 ニシテ始メテ法律ノ制裁ヲ附ス可キナリ而シテ法律ノ制裁ニ二様ノ區別アリ
 刑事上ノ制裁、民事上ノ制裁是ナリ故ニ背徳、加害ノ性質ヲ具フル所爲ナルモ常
 ニ之ヲ以テ刑事上ノ犯罪ト爲サス是レ今日歐洲諸邦國ノ法律ニ於テ皆其揆ヲ
 一ニスル所ナリ

刑

法

刑事上ノ詐僞ハ三個ノ方法ニ依リテ之ヲ犯スコトヲ得即チ第一所爲ニ依リテ
 之ヲ犯スモノ第二文書ニ依リテ之ヲ犯スモノ第三言語ヲ以テ之ヲ犯スモノ是
 ナリ僞證ノ如キハ言語ヲ以テ犯スモノニシテ文書僞造ハ必ス文書ニ依ラサレ
 ハ之ヲ犯スコト能ハス此他貨幣僞造印章僞造ノ如キ機械的ニ僞物ヲ造出スル
 ハ勿論體力知力ノ働ヲ以テスルモノハ皆所爲ニ依リテ行フモノトス是等ハ等
 シク皆詐僞ナレトモ然レトモ其罪ニ輕重ノ區別アリ又其種類ニ因リテ公益ヲ
 害スルモノト私益ヲ害スルモノトノ區別アルヲ以テ法律ハ之ヲ一様ニ規定ス
 ルコトヲ得ス我カ刑法ニ於テハ貨幣印章若クハ文書ノ僞造及ヒ僞證等ヲ以テ

刑

法

公益ニ關スルモノトシテ本章ニ規定シ而シテ詐欺取財及ヒ誣告ノ罪等ヲ以テ
 一個人ノ身軀財産ヲ害スルモノトシテ之ヲ第三編中ニ規定セリ若シ夫レ僞證
 罪ト誣告罪ト其性質ノ同一ナルニモ拘ハラス之ヲ別編ニ規定シタルノ當否ニ
 付テハ本編ノ首ニ開陳シタル所アルヲ以テ今復々贅セス

民事上ノ詐僞ト刑事上ノ詐僞トノ區別ハ至テ困難ナリ一般學者ノ説ニ依レハ
 其區別ノ標準トシテ民事上ノ詐僞ハ相當ノ注意ヲ用ユレハ則チ其虚偽タルコ
 トヲ發見スルニ足ル可キモノニシテ而シテ刑事上ノ詐僞ハ相當ノ注意ヲ爲ス
 モ尙ホ且ツ其虚偽タルコトヲ發見スルコトヲ得サルモノナリト論スレトモ然
 レトモ所謂相當ノ注意トハ果シテ如何ナル程度ノ注意ヲ云フ乎實際上其程度
 ノ如何ニ依リ民刑孰レノ詐僞ニ屬スルヤ得テ判定シ難キ場合往々之アリ例ヘ
 ハ金屬賣買ノ場合ニ於テ單ニ賣主ノ言ト光彩ノ如何トニ注視シ之ヲ眞物ナリ
 ト信スルハ未タ以テ相當ノ注意ト爲スニ足ラサル乎然ラハ金屬ニ經驗アル者
 ニ鑑定セシムルヲ以テ果シテ相當ノ注意ト爲ス乎普通ノ人ニ在テハ自己ノ獨
 斷ノミニテ十分其眞贋ヲ鑑識スルノ明ナカル可キモ時計商若クハ骨董商等ノ

如ク平生是等ノ事ヲ取扱フ者ニ在テハ自ラ其眞贋ヲ判定スルニ苦マサル可シ
 要スルニ相當ノ注意トハ比較的ノ言語ナルヲ以テ他人ニ鑑定セシムルモ未タ
 以テ相當ノ注意ト爲スニ足ラサル場合アル可ク又自己ノ獨斷ノミニテモ既ニ
 以テ相當ノ注意ト爲スニ足ル可キ場合アル可ク結局劃然タル標準ヲ定立スル
 コト難シ、現ニ今日實際上ニ於テ品質ヲ詐リテアルミ製ノ物品ヲ黃金製ナリト
 言ヒ之ヲ販賣スルノ所爲ハ普通民事上ノ詐僞ト爲シ而シテ單ニ品格ヲ詐リテ
 下等ノ物ヲ上等ナリト言フノ所爲ハ民事上ノ詐僞トモ爲ラスト爲セトモ之ト
 同様ノ所爲ニシテ他ノ情況ノ附着スルアレハ刑事上ノ詐僞トシテ論セラル、
 場合アリ而シテ又所謂相當ノ注意ヲ爲サ、ルカ爲メニ詐僞ニ罹リタル場合ト
 雖モ亦刑事上ノ詐僞ト爲ス場合アリ即チ例ヘハ五厘銅貨ニ銀ヲ鍍シテ之ヲ二
 拾錢銀貨ニ模擬シタルトキノ如キ其授受ノ際多少ノ注意ヲ爲セハ輒チ其偽造
 タルコトヲ發見スルニ足ル可キ場合ト雖モ尙ホ實際上之ヲ刑事上ノ詐僞トシ
 テ處罰シタルノ例尠カラス左レハ前掲學者ノ誤ハ誤レルニ非サル可シト雖モ
 今日ニ在テハ未タ劃然タル標準ノ定マラサルヲ以テ唯其時ノ情狀ニ鑑ミ學說

刑

法

ニ照シ以テ之ヲ判斷スルノ外ナキナリ

第一節 貨幣ヲ偽造スル罪

貨幣偽造ノ罪ハ何レノ邦國ニテモ嚴重ナル處罰ヲ加ヘサル無シ特ニ古昔ニ在
 テハ各國ノ刑律ニ於テ最モ峻刑酷罰ヲ設ケ或ハ之ヲ死刑ニ處シ或ハ之ヲ砲烙
 ノ刑ニ處シタルコトアリキ案スルニ羅馬法ニ於テハ貨幣偽造ノ罪ヲ以テ國君
 ノ神聖ヲ犯スノ罪ト爲セリ蓋シ其意ニ以爲ク貨幣製造ノ權ハ主權ノ一部ニシ
 テ國君ノ特權ニ屬ス然ルニ私ニ之ヲ製造スルハ即チ君主ノ特權ヲ害スルモノ
 ナリト然レトモ貨幣製造ノ權ハ決シテ主權ノ一部ト見ル可キモノニ非ス各國
 政府ニ於テ之ヲ自己ノ獨占内ニ置クハ寧ロ公益上ノ便宜ニ出ツルモノニシテ
 決シテ主權ノ一部トシテ之ヲ有スルニ非サルナリ猶ホ夫ノ陸海軍ノ銃礮彈藥
 等ノ製造販賣場ヲ以テ政府ノ獨占ト爲スカ如ク畢竟取締上ノ便宜ヨリ出テタ
 ルモノニシテ之ヲ政府ノ專賣權ト云フモ可ナリ左レハ此罪ハ國君ニ對スル政
 治的犯罪ニ非スシテ普通ノ常事犯ナリト謂ハサル可カラス而シテ其犯罪ノ性
 質如何ト云フニ碩學フオスタンエリー氏ハ佛國刑法ニ於テ一千八百三十二年四

刑

法

月二十八日附法律政府委員ノ語ヲ援キテ此罪ハ最モ重キ情狀ヲ具スル盜罪タルニ過キスト云ヒ而シテ尙ホ氏ハ委員ノ説明ニ附加シテ貨幣偽造ハ詐欺ノ幫助ヲ以テ犯ス盜罪ニシテ貨幣變造ハ即チ詐欺取財ニ同シト謂ヘリ此說固ヨリ一理ナキニ非ス今偽造シタル貨幣カ政府發行ノ貨幣ト其價格分量等全ク同一ナルトキハ政府ノ貨幣製造ノ利益即チ製造料ヲ奪フモノナレハ則チ盜罪ノ性質ヲ有シ之ニ反シテ價格分量ヲ増損セル貨幣ヲ偽造スルカ又ハ政府發行ノ貨幣ノ量目ヲ削リ金分ヲ取ルカ如キハ則チ詐欺取財ノ性質ヲ有ス又犯人ノ意思ヨリ主觀的ニ之ヲ察スルニ貨幣ヲ偽造シ若クハ變造スル者ハ決シテ政府ノ專賣權ヲ犯スノ念慮ヲ有スルニ非スシテ其目的ハ單ニ不正ノ所爲ニ因リテ利益ヲ得ントスルニ在レハ則チ盜罪若クハ詐欺取財ノ一種ト爲スヲ以テ相當ト爲スニ似タリ然ルニ古來此罪ヲ以テ別種ノモノト爲シ盜罪詐欺取財罪ヨリモ一層重キ大罪ト爲シタルノミナラス近時ノ制定ニ係ル各國ノ新刑法ニ於テモ亦之ヲ特別ノ罪トシテ規定セリ是レ其理由ナクンハアラス蓋シ貨幣ハ社會ノ流通物ニシテ日ニ數十百人ノ手ニ轉輾スルモノナレハ若シ之ヲ偽造シテ行使ス

刑

法

刑 法

ル者アルトキハ密ニ其偽造貨幣ヲ真正ノモノトシテ取受シタル一人ヲ害スルノミナラス其害毒ノ波及スル所際涯ナキニ至ル可シ然ラハ之ヲ詐欺取財トスルモ單ニ一己人ニ對スル詐欺取財罪ニ非スシテ天下公衆ニ對スル詐欺取財罪ナルヲ以テ之ヲ彼ノ特定ノ人ニ對スル所謂詐欺取財ノ罪ト同一ニ論ス可カラズ縱シ又其行使セル偽造貨幣ノ多數ナル場合ト雖モ一旦偽造貨幣ニシテ流通社會ニ現ルハトキハ金錢授受ノ一々之ヲ點檢セサル可カラサルノ煩雜ヲ來シ大ニ商業其他社會全体ノ取引上ニ妨害ヲ與ヘ一般ノ信用ヲ害スルニ至ル然レハ則チ此罪ハ天下公衆ニ對スル詐欺取財ナルノミナラス亦一般ノ信用ヲ害シ兼テ政府ノ貨幣發行權ヲ奪フモノナレハ之ヲ夫ノ單純ノ盜罪若クハ詐欺取財ノ罪ト同一視シテ輕々看過ス可カラサルヤ言ヲ竣タサル所ナリ然ラハ貨幣偽造ニ付テハ其種類ノ何タルヲ問ハス一体ニ之ヲ嚴罰ス可キ乎曰ク否貨幣ノ中ニモ金銀貨銅貨等ノ區別アリテ其効用ヲ異ニセリ即チ金銀貨ハ其分量少キモ効用大ニシテ而シテ銅貨ハ其形大ナルモ効用少ナシ故ニ鈞シク貨幣ノ偽造ナリト雖モ其害惡ノ度ニ徑庭アルヲ以テ金銀貨ノ偽造ハ之ヲ嚴刑

刑

シ銅貨ノ偽造ハ之ヲ寛罰セサル可カラス而シテ夫ノ紙幣ハ硬貨ニ非ス一ノ紙片ニシテ其物質ニ價值ナシト雖モ而カモ金銀貨ヲ代表シ少量ノ物品ニシテ大ナル效用ヲ爲スモノナレハ其之ヲ偽造スル者ハ金銀貨ノ偽造者ト同一ニ處罰セサル可カラス左レハ先ツ第一ニ貨幣ノ性質ニ因テ其罪ノ輕重ヲ分ツヲ至當トス

法

次ニ偽造ト變造トノ區別アリ是レ亦同一ニ論スルヲ得ス偽造トハ新ニ正貨ニ贋セテ之ヲ造出スルノ謂ニシテ變造トハ或ハ正貨ヲ摩擦シテ其金分ヲ削取シ或ハ正貨ノ命價ヲ改メテ其價格ヲ増スカ如キノ所爲即チ正貨ノ價格量目ヲ増減スルノ謂ナリ故ニ偽造ハ政府ノ貨幣製造權ヲ全ク侵犯スル所爲ナルモ變造ハ新ニ貨幣ヲ造出スルニ非ス既ニ現存セル貨幣ノ價格量目ヲ増減スルノ所爲タルニ過キササルヲ以テ政府ノ貨幣製造權ヲ侵犯スルニ非ス又偽造ハ新ニ之ヲ造出スルモノナレハ既シテ多クノ貨幣ヲ作ルモノナリ今日政府ニ於テハ偽造ヲ豫防センカ爲ニ文明ノ學術ヲ應用シテ之ヲ製造セルニ然ルニ敢テ之ヲ偽造セントスル者ハ必ヤ亦精巧ノ器械ヲ備ヘン故ニ一旦其準備ノ整頓スルヤ巨額

刑

ノ貨幣ハ立ロニ成リテ太ニ社會ニ害毒ヲ流布スルニ至ル但例外トシテ紙幣ノ如キハ繪畫ニ巧ミナル者ハ筆端ヲ以テ之ヲ描寫スルコトナキニ非スト雖モ而カモ是レ絶無稀有ノ場合ニシテ立法者ノ豫想ノ及ハサル所トス之ニ反シテ變造ハ正貨ニ就キテ一々其價格量目ヲ増減スルモノナレハ偽造ノ如ク大業ニ之ヲ企ツル者ナシ尤モ彼ノ貪婪飽クナキ支那人ノ如キハ巨額ノ貨幣ヲ飾ニ掛ケ且ニ相摩擦セシメテ以テ其金分ヲ取ルコトアリト雖モ是レ亦多ク其例ヲ見サル所トス要スルニ偽造ハ常ニ其數多ク隨テ其害亦大ナレハ重ク之ヲ罰スルノ必要アルモ變造ハ概シテ其數少ク隨テ其害亦小ナレハ敢テ之ヲ嚴罰スルノ必要ナシ

法

尙ホ茲ニ偽造ト變造トノ區別ニ付テ一言ヲ附加セン從來變造ノ解説ニ付テハ學者間ニ種々ノ議論アリ佛國刑法ニハ「アルテラシヨ」ナル文辭ヲ用ヒタリ抑「アルテラシヨ」トハ單ニ其物質ヲ惡シクスルノ意味ヲ有スルニ過キササルヲ以テ學者ノ意見及ヒ法衙ノ判例ニ於テモ前段ニ掲クル摩擦シテ金分ヲ削取スル場合ノミヲ規定シタルモノトシ彼ノ價格ヲ増スノ所爲ハ「アルテラシヨ」ナル語中ニ

刑

法

包含セズ從テ之ヲ罰スルノ正條ナシト論セリ而シテ同國ノ立法者ニ於テモ亦此說ヲ是認シ遂ニ特別ノ法律ヲ頒布シテ以テ之ヲ罰スルコト、爲セリ然ルニ我刑法ニ在テハ其草案ニ於テ特ニ價格量目ヲ増減シ云々ト明記シ而シテ現行法ニ於テ其意思ヲ變更シタルノ跡ナキヲ以テ本法ニ所謂變造ナル語ハ其意味廣ク即チ摩擦シテ量目ヲ減スル場合ト命價ヲ改メテ價格ヲ増ス場合トノ二者ヲ含有スルモノナルコト蓋シ疑ナカル可シ唯疑問トスル所ハ其所謂價格ヲ増スノ所爲ハ同一種類ノ貨幣ニ就テ之ヲ爲スニ非サレハ以テ變造ト謂フヲ得サルヤ否ヤノ點ニ在リ例ヘハ半錢銅貨ニ鍍スルニ銀粉ヲ以テシ且ツ其命價ヲ改メテ以テ貳拾錢銀貨ニ扮飾スルノ所爲ハ即チ政府發行ノ正貨ニ就テ其價格ヲ増シタルモノナレハ之ヲ變造ト謂フ可キ乎將タ其貨幣ノ種類ヲ異ニスルヲ以テ之ヲ偽造ト謂フ可キ乎或ハ曰ク此場合モ亦變造ナリト然ラハ孰レノ貨幣ノ變造ナリヤ即チ銅貨ノ變造ナリヤ將タ銀貨ノ變造ナリヤト問フニ此點ニ付テ二說アリテ或ハ銀貨ノ變造ナリト謂ヒ或ハ又最初用ヒシ貨幣カ銅貨ナルヲ以テ即チ銅貨ノ變造ナリト謂ヘリ余ハ此貨幣ノ種類ヲ異ニスル場合ニ於テハ變

刑

法

造ニ非スシテ偽造ナリト信ス蓋シ反對者ノ說ニ從ヒ之ヲ第一ノ銀貨變造ト爲サハ幾分カ其理由ナキニ非スト雖モ第二ノ銅貨變造ト爲ストキハ法律上極メテ不權衡ナル結果ヲ生ス即チ第二ノ說ニ從フトキハ銅貨ニ銀ヲ鍍飾シタルトキハ銅貨ノ變造ト爲ルヲ以テ輕罪ト爲リ第百八十五條第二項若シ之ニ反シテ銀貨ニ銅ヲ鍍飾シタルトキハ實際上有間敷事ナレトモ銀貨ノ變造ト爲ルヲ以テ重罪ト爲ル第百八十二條第二項故ニ其價ヲ少クシタルトキハ其罪重ク其價ヲ多クシタルトキハ却テ其罪輕キコト、爲ルニ至ル豈斯ノ如キ理アラシヤ又第一ノ說ハ稍其理由ナキニ非スト雖モ然レトモ銅貨ニ銀ヲ鍍スル犯人ノ意思ハ其銅貨ヲ以テ銀貨偽造ノ材料ト爲シタルニ過キス蓋シ材料ノ如何ニ由リテ偽造變造ノ區別アルノ理ナケレハ假令其材料ハ政府發行ノ正貨ナルモ通常ノ銅塊ヲ用ユル場合ト同一ニ之ヲ論セサル可カラス是レ單ニ余ノ私見ニ止マラス今日我大審院ノ判例ニ於テモ亦此說ニ一定セリ

次ニ偽造變造シテ既ニ其貨幣ヲ行使シタル者ト未タ之ヲ行使セサル者トヲ區分セサル可カラス抑此貨幣偽造若クハ變造罪ヲ以テ盜罪若クハ詐欺取財罪ノ

刑

性質ヲ有スルモノト爲ストキハ既ニ其貨幣ヲ行使シタル場合ニ非サレハ之ヲ罰ス可カラズ何トナレハ偽造變造ノ所爲ニ止マリテ未タ之ヲ行使セサルトキハ即チ盜奪若クハ騙取ノ事ナク單ニ犯罪ノ豫備タルニ過キサレハナリ然ルニ各國ノ刑律ニ於テ偽造變造ニ止マリタル所爲ヲモ罰スル所以ノモノハ蓋シ未タ行使セサル場合ト雖モ既ニ偽造變造ヲ成シタルトキハ之レガ爲メ政府ノ貨幣製造權ヲ侵犯シタルノミナラス一旦偽造變造成リタル以上ハ何時之ヲ行使スルモ自由ニシテ其危險實ニ測ル可カラサルニ由ル然レトモ既ニ之ヲ行使シタル者ト同一ニ論スルハ苛酷ニ失スルヲ以テ之ヲ斟酌シテ其刑ヲ輕クセリ第六十八條而シテ此偽造變造ノ所爲ト行使ノ所爲トハ各特立シタル別罪ナリヤ若シ各一罪ヲ成ストキハ同一ノ人ニシテ偽造變造シテ且ツ之ヲ行使シタルトキハ即チ二罪ヲ犯シタルモノトシテ之ヲ論セサル可カラサルニ至ル此點ニ付テハ之ヲ區別シテ論セサル可カラズ即チ同一ノ人ニシテ偽造變造シテ且ツ之ヲ行使シタル場合ハ一罪ト成リ第一百八十二條而シテ偽造變造シタル者ト之ヲ行使シタル者ト其人ヲ異ニスル場合ハ各特立シタル別罪ト爲ル第一百八十六條 第一百九十三條故ニ此

法

刑

後ノ場合ニ於テハ互ニ犯罪ヲ異ニスルヲ以テ偽造變造シタル者ニハ其共犯者アル可ク又之ヲ行使シタル者ニモ亦其共犯者アル可シト雖モ彼ト此トノ間ニハ共犯ノ關係ヲ有スルコトナシ又時効ノ點ニ於テモ各別ニ經過スルヲ以テ金銀貨ノ偽造變造者ハ十年ヲ經過スルニ非サレハ時効ヲ得ルコト無ク第一百八十二條及ヒ第一百八十三條之ニ反シテ第九十三條ノ行使者ハ三年ヲ經過スルニ因テ時効ノ成就ヲ得ン佛國ガロー氏ノ說ニ依レハ同一ノ人ガ偽造變造シテ行使シタル場合ハ其本來ハ二罪ナレトモ集合犯トシテ之ヲ一罪ト爲スノミ故ニ其分割スルコトヲ得ヘキ場合ニ於テハ之ヲ分タサル可カラズト云ヘリ此說ノ如クンハ例ヘハ十年以前ニ於テ偽造變造シ而シテ十年以後ニ之ヲ行使シタルトキハ偽造變造ノ所爲ハ既ニ時効ニ罹ルヲ以テ之ヲ論スルニ由ナク其行使ノ所爲ノミ之ヲ罰スルコト、爲ル然レトモ我法律ニ於テハ果シテ孰レノ條項ノ行使罪トシテ之ヲ罰スルヤ第九十條及ヒ第九十三條ノ兩條ハ他人ノ偽造變造シタル貨幣ヲ收受シテ之ヲ行使シタル者ヲ罰スルノ規定ニシテ右ニ擧クル自ラ偽造變造シテ且ツ之ヲ行使シタル者ヲ處スルノ規定ニ非ス強テ第九十條ヲ比附援引

刑 法

シテ之ニ擬スルハ兎モ角我刑法ニ於テハ之ヲ罰スルノ正條ナシ特ニ自ラ偽造
 變造シテ之ヲ行使シタル以上ハ全然第百八十二條ノ要件ヲ具備スルモノナル
 ニ何ヲ苦ンテ之ヲ分割シ其行使ノ罪ヲ問フノ要アラシヤ若シガロー氏ノ說ヲ
 推究スルトキハ獨リ此貨幣偽造罪ノミナラス他ノ犯罪ニ於テモ其要素ノ完備
 スル迄ニハ必ス多少ノ時間ヲ要スルヲ以テ常ニ其先ニ成リタル要素ト後ニ成
 リタル要素トノ間ニ時効ノ經過ヲ異ニシ往々不具ノ犯罪ヲ現出スルノ結果ヲ
 生セン豈ニ如斯ノ理アラシヤ之ヲ要スルニ偽造變造ト行使トノ關係ハ其人異
 ナレハ別罪ト爲リ其人同シケレハ一罪ト爲ルモノトス
 以上ハ貨幣偽造罪ニ付テノ一般ノ總論ナリ以下各條ニ入リテ追次之ヲ講究セ
 ン

第百八十二條 內國通用ノ金銀貨及ヒ紙幣ヲ偽造シテ行使シタル者ハ無期徒刑ニ處ス
 若シ變造シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス

本條ハ金銀貨及ヒ紙幣ヲ偽造變造シテ之ヲ行使シタル者ノ刑ヲ定メタリ
 法文ニ內國通用云々トアルヲ以テ若シ內國通用ノ貨幣ニ非サルトキハ之ヲ偽

刑 法

造變造スルモ本條ヲ以テ之ヲ處罰スルコトヲ得ス抑通用トハ法律上ノ通用ノ
 謂ニシテ即チ法律ノ力ヲ以テ強制シテ之ヲ通用セシメ何人モ其授受ヲ拒ムコ
 トヲ得サルモノ所謂法貨是ナリ尤モ通用貨幣ノ中ニモ制限アリテ補助銀貨ハ
 拾圓以上銅貨ハ壹圓以上ノ一時ノ授受ヲ拒絕スルコトヲ得レトモ而カモ其制
 限内ニ於テハ其授受ヲ拒ムコトヲ得サルヲ以テ法貨即チ內國通用ノ貨幣タル
 ニ妨ケナシ唯彼ノ古金銀ノ如キハ今日通用ノ効力ナク一ノ物品タルニ過キサ
 ルヲ以テ假令實際上小判壹枚幾圓ニテ取引スルコトアリト雖モ是レ所謂貨幣
 ノ通用ニ非スシテ交換タルニ過キス故ニ若シ古金銀ヲ偽造變造スル者アルモ
 本條ヲ以テ之ヲ處罰スルコトヲ得ス唯場合ニ因リテ一ノ詐欺取財ノ罪ヲ構成
 スルコトアルノミ

次ニ行使トハ如何ナル意義ナルヤ後ノ印章偽造罪ニ使用ト云ヒ文書偽造罪ニ
 行使ト云ヘルモノト其義同シキ乎曰ク其歸スル所ハ蓋シ同一ナラン本條ニ所
 謂偽造貨幣ノ行使トハ其偽造貨幣ヲ真正ノ貨幣トシテ之ヲ社會ニ出シ以テ流
 通セシムルノ謂ナリ或ハ單ニ偽造貨幣ヲ他人ノ手ニ渡スヲ以テ行使ナリトス

トノ反對説ヲ唱フル者アリト雖モ此説ニ從フトキハ偽造貨幣ヲ真正ノ貨幣トシテ之ヲ渡スノ條件ヲ要スルヲ以テ極論スルトキハ共犯人ノ間ニ授受スル場合モ尙ホ行使アリタルモノト爲サ、ル可カラサルニ至ル(尤モ反對論者モ此點ニ迄ハ及ホスコトヲ得スト陳辯スルモ)又偽造變造ノ情ヲ知リタル者ニ對シ廉價ニ賣渡ス場合ノ如キ之ヲ買取ル者ハ偽造變造ノ共犯人ニ非スト雖モ所謂事後從犯ノ性質ヲ有シ第九十條ノ處罰ヲ受クル犯人ナレハ此者ノ手ニ賣渡スモ以テ之ニ害ヲ與ヘタルモノト云フ可カラス特ニ偽造變造ハ詐欺取財ノ側面的性質ヲ有スルト云フノ點ヨリ之ヲ見ルモ此場合ニ於テハ毫モ詐欺取財ノ形跡ヲ存セサルニ非スヤ蓋シ偽造變造ノ貨幣ヲ真正ノ貨幣ナリト欺キテ之ヲ授受スレハコソ他人ニ害ヲ與フルモノナレ之ヲ初メヨリ偽造變造ノ貨幣ナリトシテ犯人ヨリ犯人ノ手ニ渡スニ果シテ何ノ害カ有ラン故ニ行使トハ必ス偽造變造ノ貨幣ヲ真正ノ貨幣ナリト欺キテ之ヲ社會ニ流通セシムルノ謂ナリト解セサル可カラサルナリ

第百八十三條 內國ニ於テ通用スル外國ノ金銀貨ヲ偽造シテ行使シタル者ハ有期徒刑ニ

刑 法

處ス

若シ變造シテ行使シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス

本條ハ前條ト異ナリテ內國ニ於テ通用スル外國ノ金銀貨ヲ偽造變造シテ行使シタル者ノ刑ヲ規定セリ抑外國ノ金銀貨ヲ偽造變造スルモ以テ我政府ノ貨幣製造權ヲ害スルノ理ナク唯外國政府ニ損害ヲ與フルニ過キス而シテ外國政府ヲ害スルノ行爲アルモ我法律ニ於テハ一般ニ之ヲ不問ニ付セリ然ルニ特ニ本條ノ規定ヲ設ケタル所以ノモノハ蓋シ外國政府ノ鑄造ニ係ル貨幣ト雖モ一旦我內國ノ通用ヲ許シタルトキハ則チ我內國ノ貨幣ト同シク其信用ヲ保護シテ商業其他社會一般ノ取引上ノ安全ヲ計ラサル可カラサレハナリ故ニ我立法者ノ眼中ニハ外國政府ヲ保護スルノ精神ナク唯內國ノ取引上ノ信用ヲ維持セント欲スルノ意思アルノミ而シテ本條ノ刑ノ前條ヨリ輕キ所以ノモノハ外國ノ金銀貨ヲ偽造變造スルモ我政府ノ貨幣製造權ヲ害スルコトナキト其流通ノ高遠ニ內國ノ貨幣ヨリ少ナカル可ク隨テ之ヲ偽造變造スルモ其信用ヲ害スルノ度低キニ因ルナラン

刑

法

然レトモ今日法律上我内國ニ通用スル外國ノ金銀貨ナルモノナシ彼ノ墨西哥其弗ノ如キハ實際開港場ニ於テ取引スルコトアリト雖モ是レ唯雙方合意上ノ使用ニ過キスシテ法律上ノ強制通用ニ非ス故ニ若シ墨西哥其弗ヲ偽造變造スル者アリトスルモ本條ヲ以テ之ヲ處罰スルコトヲ得サルヲ以テ本條ハ一ノ空文タルニ過キス左レハ立法者カ敢テ本條ノ規定ヲ設ケタル所以ノモノハ或ハ將來我政府ニ於テ外國ノ貨幣ヲ内國ニ通用セシムル場合アラシコトヲ慮リタルニ出テタルモノト見ルノ外ナシ夫ノ歐洲ニ於テ佛蘭西伊太利等連合シテ相互ニ貨幣ヲ通用セシムル所謂羅匈貨幣同盟ナルモノアリ尤モ其貨幣ハ單ニ納税ノ爲ニ用非シムルニ過キスシテ人民一般ニ強制通用ヲ命シタルニ非サルヲ以テ若シ將來我政府ニ於テ外國トノ條約上此羅匈貨幣同盟ト同シク單ニ海關稅等ニノミ外國ノ貨幣ヲ使用スルコトヲ許スコトアリトスルモ未タ以テ本條ノ適例ト爲スニ足ラス故ニ將來此羅匈貨幣同盟ノ例ニ倣ヒ更ニ之ヲ進メテ人民一般ニ強制通用ヲ命スル外國貨幣ノ生スルコトアラハ始メテ本條ノ實用ヲ見ルニ至ル可シ序次茲ニ一言ヲ附加シ以テ前條ノ補足ヲ爲サン即チ我古金銀ハ海

刑

法

關稅ニ納用スルコトヲ得ルノミナラス一時ハ一分銀ニ非サレハ納稅ヲ許サ、リシコトアリト雖モ而カモ是ヲ以テ内國通用ノ貨幣ト云フヲ得ス蓋シ所謂通用トハ一般人民ニ法律上ノ強制通用ヲ命シタルノ謂ナレハナリ
法律ハ本條ニ於テ一モ紙幣ノ事ニ言及セス蓋シ紙幣ハ將來トテモ外國ト同盟通用ヲ爲スコトナカル可ケレハナリ

刑

法

第百八十四條 官許ヲ得テ發行スル銀行ノ紙幣ヲ偽造シ若クハ變造シテ行使シタル者ハ内外國ノ區別ニ從ヒ前二條ノ例ニ照シテ處斷ス
本條ハ官許ヲ得テ發行スル銀行ノ紙幣ヲ偽造變造シテ行使シタル者ノ刑ヲ定メタリ今日ニ在テハ國立銀行ニ於テ新ニ紙幣ヲ發行スルコトヲ得スト雖モ昔時ハ國立銀行ニ與フルニ紙幣發行ノ權ヲ以テセリ此場合ト雖モ國立銀行ハ貨幣製造權ヲ有スルニ非ス唯政府ノ許可ヲ得テ其發行ノ權ヲ有シタルニ過キス故ニ銀行紙幣ヲ偽造變造スルハ即チ政府ノ貨幣製造權ヲ侵犯スルモノナレハ法律ハ政府製造ノ貨幣ヲ偽造變造シタル者ト同一ニ之ヲ處罰セリ又外國銀行ノ發行ニ係ル紙幣ニ付テモ今日其適例ナシ若シ將來外國銀行カ我政府ノ許可

ヲ得テ内國通用ノ紙幣ヲ發行スル場合アルニ至ラハ本條ヲ以テ之ヲ處罰スルコトヲ得ンノミ
日本銀行ハ兌換銀券發行ノ權アリ此銀券ハ紙幣ニ非ス然レトモ之ヲ偽造變造スル者ハ同銀行條例ニ於テ本條ヲ援用シ以テ本條ト同一ナル處罰ヲ科スルコト、爲セリ

刑

第百八十五條 内國通用ノ銅貨ヲ偽造シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス

若シ變造シテ行使シタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

本條ハ銅貨ノ偽造變造ノ罪ヲ定メタリ其刑ノ金銀貨若クハ紙幣ノ偽造變造ニ比シテ輕キ所以ノ者ハ本節ノ總論ニ於テ一言シタル如ク其害毒ヲ流布スルコトノ少ナキニ由ル敢テ別段ノ説明ヲ要セサル可シ

第百八十六條 前數條ニ記載シタル貨幣ノ偽造變造已ニ成テ未タ行使セサル者ハ各本刑

ニ照シ一等ヲ減シ其未タ成ラサル者ハ二等ヲ減ス

若シ偽造ノ器械ヲ豫備シテ未タ著手セサル者ハ各三等ヲ減

本條ニ於テハ貨幣ノ偽造變造既ニ成ルモ未タ行使セサル者其偽造變造ノ未タ

法

成ラサル者及ヒ偽造器械ノ豫備ニ止マリテ未タ其偽造ニ著手セサル者迄ヲモ罰スルノ規定ヲ設ケタリ

刑

本條第一項前段ノ規定ハ總則ニ定メタル未遂犯ノ例外ナリ即チ既ニ其行使ニ著手シテ未タ遂ケサル者ト未タ行使ニ著手セサル者トヲ問ハス均シク之ヲ未行使罪トシテ同一ニ處罰セリ或ハ此規定ハ未行使ニシテ而カモ未タ其行使ニ著手セサル場合ニノミ適用ス可キモノニシテ既ニ其行使ニ著手シテ未タ遂ケサル場合ハ總則ノ未遂犯ノ例ニ從ハサル可カラスト論スル者アリト雖モ是レ法律ノ精神ニ反スル認説ナリ何トナレハ若シ論者ノ説ニ從フトキハ未タ行使ニ著手セサル者ハ本條ニ依リ單ニ一等ヲ減スルニ過キサルモ既ニ其行使ニ著手シテ未タ遂ケサル者ハ第百十二條ニ依リ一等又ハ二等ヲ減スルコト、爲ルヲ以テ未タ著手セサル者ハ其刑重ク既ニ著手シタル者ハ却テ其刑輕キノ不條理ヲ來セハナリ特ニ未タ行使セサル云々ノ語ハ廣キ意味ヲ有スルモノナルヲ以テ既ニ其行使ニ著手シタル場合ト否トヲ問ハス未タ行使ヲ成サ、ルモノハ總テ之ニ包含スルモノト解スルヲ以テ至當ナリトス

法

第一項後段ノ其未タ成ラサル者トハ既ニ偽造變造ニ著手シタルモ未タ一枚モ其貨幣ノ出來セザル場合ノ謂ナリ例ハ金銀貨偽造ノ場合ニ於テ既ニ其器械ヲ備ヘ金銀ヲ型ニ投入シタルモ未タ貨幣ト爲リテ出テ來ラサル迄ノ有様ヲ云フ故ニ若シ一枚タリトモ貨幣ノ形ヲ備ヘ型ヲ離レ出テタルトキハ偽造變造ノ既ニ成リタルモノナルヲ以テ此段ノ支配ヲ脫シ前段ノ制裁ヲ受クルコトハ爲ル即チ此場合ハ單ニ偽造變造ノ著手中ノ行爲ヲ規定シタルモノト謂フ可キナリ

刑

法

本條第二項ハ偽造ノ器械ヲ豫備シテ未タ其偽造ニ著手セザル場合ノ規定ナリ蓋シ器械ノ豫備ニ止マリテ未タ偽造ニ著手セザル間ハ純然タル犯罪豫備ノ所爲ナリ豫備ノ所爲ハ刑法上之ヲ罰セザルヲ以テ原則ト爲スト雖モ貨幣偽造罪ハ其危險大ナルヲ以テ法律ハ夫ノ國事犯罪ト同シク之ヲ其未タ發セザルニ要スルヲ務メタリ

第百八十七條 貨幣ヲ偽造變造スルノ情ヲ知テ雇ヲ受ケタル職工ハ前數條ニ記載シタル犯人ノ受ク可キ刑ニ照シ各一等ヲ減ス

若シ職工ノ補助ヲ爲シテ雜役ニ供シタル者ハ職工ノ刑ニ照シ一等又ハ二等ヲ減ス

刑

法

本條ハ偽造變造ノ情ヲ知テ雇ヲ受ケタル職工ノ刑及ヒ其職工ノ補助ヲ爲シテ雜役ニ供シタル者ノ刑ヲ定メタリ抑偽造變造ノ情ヲ知テ其犯罪行爲ニ加功シ現實ニ偽造變造ノ事ニ從フ者ハ其職工タルト將タ雜役者タルトヲ問ハス純然タル一ノ正犯ナリ然レトモ之ヲ正犯トシテ其指命者ト同一ノ刑ヲ科スルトキハ重キニ過クルヲ以テ法律ハ之ヲ斟酌シ總則ニ定メタル共犯ノ例外トシテ本條ノ規定ヲ設ケ以テ其刑ヲ減輕セリ蓋シ職工特ニ雜役者ノ如キハ自ラ貨幣ヲ偽造變造セントスルノ發意ナク唯他人ノ使役ニ應シテ其手間賃ヲ得ントスルノ意思アリタルニ過キササルヲ以テ其惡意ノ程度輕ケレハナリ
法文ニ前數條ニ記載シタル犯人ノ受ク可キ刑ニ照シ各一等ヲ減ストアリ所謂前數條ニ記載シタル犯人トハ讀テ字ノ如ク第百八十二條ヨリ前條即チ第百八十六條迄ノ犯人ノ謂ナルコト勿論ナリ然ルニ或ル學者ハ職工及ヒ雜役者ハ單ニ偽造變造ノ所爲ニ加功シタルノミニシテ其行使ノ所爲ハ與リ知ル所ニ非ス然ルニ第百八十二條等ノ如ク偽造變造シテ行使シタル者ノ刑ニ照シテ之ヲ處